
谷田の泉周辺の保全管理に関する報告書

平成22年3月

埼玉県

入間市



谷田の泉



発行にあたって

入間市では、「生き生きいるま 人・まち・自然」をキャッチフレーズに、元気な人とまちに欠かすことのできない自然の保全事業に取り組んでいます。

この「谷田の泉」は、市北部に位置する野田地内の入間川段丘崖にあり、湧き水が縄文時代から枯れることなくこんこんと湧き出ているところで、この湧水からなる小川で遊ぶ元気な子供たちの声が聞こえてきます。入間市の中でも貴重な、生き生きとした自然であり、人々に元気を与えてくれます。

また、湧水周辺には、カワモズクやアマナ、ホトケドジョウといった希少な動植物が生息し、今なお良好な自然環境を残しています。

このような貴重な水辺の自然を後世に引き継いでいこうと、平成19年度からスタートした「第5次入間市総合振興計画」で「湧水地だけの保全にとどまらず、山林・田畑も含め周辺一体を親水的な区域として整備を図ります」とし、「緑の基本計画」においても、「公有地化等も含め適切な保全を図る」ことを決定しております。

こうした折、当地が平成20年度の埼玉県「まちのエコ・オアシス保全推進事業」の保全地に選定されたことで、公有地化が大きく前進し、県と市で合わせて約1.3ヘクタールの山林、休耕田などを取得し、恒久的に保全していくこととなりました。

この事業に対し、ご理解とご協力をいただきました地権者の皆様に衷心よりお礼申し上げます。

このように、谷田の泉の保全が進んだ背景には、多くの市民の思いとお力添えがありました。平成8年には、西武小学校の児童より「私たちの秘密基地のある谷田を守って

ください」という市長あての手紙をいただき、新聞にも大きく取り上げられ、保全への関心が大きく高まりました。

また、平成17年には、この地の観察を続けてきた方によって、希少植物のカワモズクが発見され、生物多様性を保全するという意味で、この場所の重要性が再認識されたところ です。

また、永年にわたって泉周辺の草刈りやゴミ拾いを続けてくださった地元ボランティアの方々、そしてここを訪れ大切に見守ってくださった市民の方々にも感謝したいと思います。

今般刊行する「谷田の泉周辺の保全管理に関する報告書」では、過去の調査の蓄積を整理するとともに、新たに植生や水中の生き物の調査を行うことで現状を把握し、これを守り、より豊かにしていく指針を示しています。

今後も、この地を注意深く見守りながら、いっそう生き物の豊かな自然環境を残していけるよう努力してまいりますので、市民、関係者の皆様に引き続きご協力をお願い申し上げます。

最後に、監修にあたられました柳澤紀夫氏ならびにご協力いただきました多くの方々にお礼申し上げます。

入間市長 木下 博

はじめに

入間川によって形成された河岸段丘から湧き出している「谷田の泉」には、古くからこの地に生活してきた人々の生活とつながってきた歴史がありました。しかし、水道の普及、農業に携わる人口の減少、周辺地域の開発、といったことから利用が放棄され、その存在も忘れ去られようとしていました。

こうした当地の自然環境を見直すきっかけになったのは、「谷田の泉」から流れ出る、流域のごく狭い範囲にはありますが、清涼な水域に生活している希少水生植物「カワモズク」の発見でした。

この希少植物の保全を念頭において、この泉を利用してきた古人の知恵も借りて、当地の景観を管理・保全し、それによって多種の生き物たちの生活を確保することは、自然を改変することに奔走しているヒトにとって、自然がもたらす恵みを再発見する機会になると思われます。

「谷田の泉」保全計画のような事業の推進になにより大切なことは、まず自然環境をよく調べること。そして、その調べた結果をしっかりと分析し、保全の計画に取り入れていくことです。まして公園化して人の利用が考えられている計画では、何が最も大切なことであるかを、関係者が十分に議論・検討し、それを関係者はもとより利用者としての市民にも伝えていくことです。

実施後は、計画時の基本的な考え方をぶれさせることなく、管理・保全していくことが大切です。公園としての利用になるならば、そのきっかけになったカワモズクを大切に、この小さな生命と生活環境の存在が途切れることのないようにしていくことで、

それは難しいことではないと思われます。さらに利用が始まると、あそこはどうしてほしいといった利用の利便性ばかりを追求する意見が出てくると思われますが、生物の生命がやさしくはぐくまれていくような視線で、管理を続けていってほしいと考えています。

また、この保全計画では、現在の環境をとらえるために最も必要である植生調査、泉と水に関連の大きい水生動物調査はしっかりと実施され、それによって計画立案がなされています。今後は、それ以外の動物群の調査を順次実施していつて欲しいと考えています。この地の自然を総合的に知ることができるから、です。

この計画には、多くの方たちの協力がありました。カワモズクを見守ってこられた小見寺公一氏、水生動物調査に手を貸して下さった国立自然教育園久居宣夫氏、東京都奥多摩さかな養殖センター池谷文夫氏、市民ボランティア門谷久雄・竹内英幸の諸氏、植生調査を実施された市民ボランティア柳澤かほる・小澤澄江・月森陽子の諸氏、地形・歴史調査をされた入間市博物館工藤宏・小田部家秀の諸氏に感謝の意を表します。

2010年3月

柳澤 紀夫

目 次

1	背景と経緯.....	1
1-1	谷田の泉の位置と地形.....	1
1-1-1	谷田の泉の位置.....	1
1-1-2	谷田の泉の地形.....	1
1-2	歴史と土地利用.....	3
1-3	地域住民との関わり.....	4
2	計画の目的.....	5
2-1	計画の目的.....	5
2-2	環境現況調査の目的.....	5
3	環境現況調査.....	6
3-1	水質調査.....	6
3-2	カワモズク調査.....	8
3-3	水生動物調査.....	12
3-3-1	調査方法.....	12
3-3-2	調査結果.....	13
3-4	植生調査.....	15
3-4-1	調査方法.....	15
3-4-2	結果.....	18
3-5	環境現況調査の考察.....	32
3-5-1	水質.....	32
3-5-2	カワモズク.....	32
3-5-3	水生動物.....	32
3-5-4	植生.....	33
3-5-5	まとめ.....	37
4	整備計画.....	38
4-1	計画条件.....	38
4-2	整備方針.....	38
4-1-1	水辺保全エリア.....	39
4-1-2	湿地観察エリア.....	39
4-1-3	あそび場整備エリア.....	39
4-1-4	草地保全エリア.....	39
4-1-5	斜面林保全エリア.....	39
5	整備設計.....	40
6	保全管理計画.....	42
6-1	保全管理の基本目標.....	42
6-2	保全管理計画.....	43
6-2-1	水質.....	43

6-2-2	水生動物	43
6-2-3	水辺保全エリア	44
6-2-4	湿地観察エリア	46
6-2-5	あそび場エリア	47
6-2-6	草地保全エリア	48
6-2-7	斜面林保全エリア	49
6-2-8	その他、全般	50
6-2-9	管理内容および管理の担い手	52
資料編	55
フロラリスト	57
フロラリスト (50音順)	79
群落調査表(素表)	95
設計図	105

1 背景と経緯

1-1 谷田の泉の位置と地形

1-1-1 谷田の泉の位置

谷田の泉は入間市の北部野田地区の入間川段丘崖にあって、西武鉄道池袋線元加治駅または仏子駅から徒歩約30分の位置にある。(図1-1)



図1-1 谷田の泉の位置

1-1-2 谷田の泉の地形

谷田の泉は、氷河期(旧石器時代)に入間川に浸食されてできた崖(ハケ)から流れ出る湧き水である。

山の水を集め、飯能から平野に出た入間川は、約13万年の間、気候変動と地殻変動の影響を受けて、川原を大きく広げた時期と、川底を削り地面を掘り下げた時期を繰り返し、河岸段丘が形成された。(図1-2)

東から北東へ弧を描くように広がる入間[飯能]台地がかつての入間川の扇状地である。入間[飯能]台地に降った雨は、砂礫層の中を地下水として流れて、河岸段丘で泉として湧出する。谷田の泉のある崖(ハケ)は、ちょうど地下水の流れを断ち

切る角度であり、そのため豊富な水量が一年を通して流れ出てくると考えられている。



資料：入間市博物館

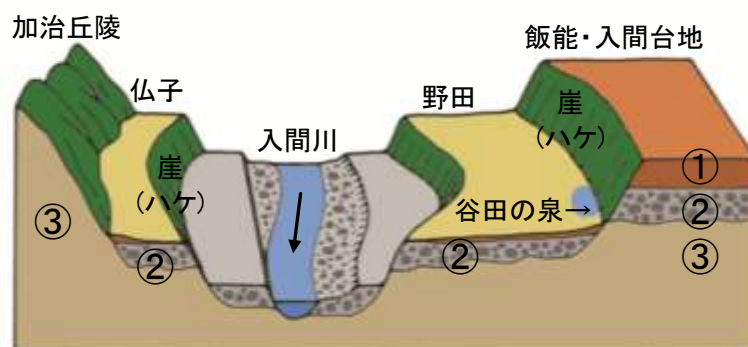
図1-2 谷田の泉周辺の地形

入間川の両岸には、入間川の浸食により、河岸段丘が2段形成されており、谷田の泉は上の段のハケから湧水している(図1-3)。

- ①火山灰が積もってできた土（関東ローム層）
- ②川原の石ころや砂の層（段丘礫層）
- ③粘土などでできたかたい層（仏子層）

※①と②の層は水はけが良く、雨水がよくしみ込むが、③は水がしみ込みにくい層で、地下に浸透した雨水は、③の層の上を流れ、河岸段丘の崖(ハケ)から湧き出る。

南—————北

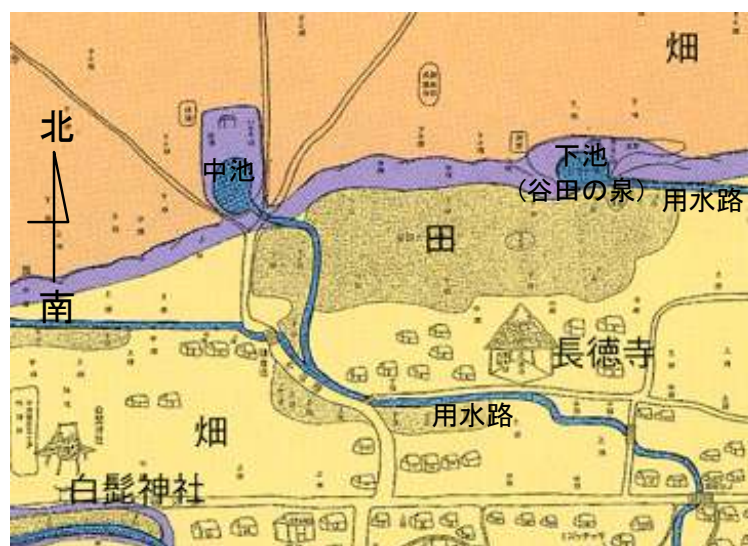


資料:入間市博物館

図1-3 入間川が造った段丘地形の模式断面（入間市野田・仏子）

1-2 歴史と土地利用

江戸時代の古地図には、谷田の泉の場所に「下池」という名称の溜め池が描かれている。現在でも、泉の周囲を取り囲むように土手が残されており、この土手の内側がため池であった。この池の水を水路で引いて、ハケ下に水田が作られていた。水の乏しい台地であって、ハケから湧き出す泉は、飲み水や農業用水として貴重な水源であった。市内には、谷田の泉のほか、加治丘陵に「醤油屋の池」(下谷ヶ貫)、狭山丘陵に「西久保」(宮寺)の水田ため池遺構があり、水田稲作に適した場所が少ない入間市において、コメを生産した貴重な産業遺産となっている。(図1-4)



明和4年(1767)に描かれた『野田村絵図』をもとに作成。

(資料:入間市博物館)

図1-4 江戸時代の谷田の泉周辺

現在の谷田の泉周辺は崖（ハケ）部が山林であり、江戸時代から田であったところは一部水田のほかは畑に転換されていたが、現在はいずれも耕作が放棄されている。また、地区の東南部は資材置き場に土地利用転換がなされている。（図1-5）



図1-5 谷田の泉周辺の現況（平成20年1月撮影）

1-3 地域住民との関わり

谷田の泉は、『入間市景観50選』や『いきいき入間ふれあい茶ん歩道③湧水をめぐる』で紹介されており、市内外から散策・見学者が訪れる。また、水路での水遊び、茶畑放棄地の中の探検、ドジョウやザリガニを捕まえるなど、子どもたちが自然とふれあえる遊び場となっている。

泉周辺の土手や歩道は、永年、地元住民の手によって草刈りやごみ収集などの環境美化活動が行われてきた。平成16年6月から「谷田の泉クラブ」というボランティアグループが結成され、活動を行っている。

2 計画の目的

2-1 計画の目的

本計画は、都市近郊にあって残存する豊富な湧き水とカワモズクの生育域を保全し、その周辺の斜面林、湿地、草地という多様な環境を活かしつつ、市民が自然とふれあう場として整備、保全管理することを目的として策定するものである。

計画対象区域は図3-5に示す約1.3haの区域（以下「本計画地」という。）である。

2-2 環境現況調査の目的

ここでは、これまでに調べられているカワモズクの生育状況、湧水の水質調査結果を整理することに加え、生態系の基礎となる植生の調査、および湧水という環境から水生動物の調査をそれぞれ行い、保全管理計画へ反映することとする。

調査対象区域は本計画地内の平成20年度までに公有地になった部分、および周辺の水路と土手斜面（いずれも公有地）とした。平成21年度より公有地となった部分は未調査である。

3 環境現況調査

3-1 水質調査

谷田の泉の水質調査は、埼玉県西部環境管理事務所によって過去数回実施されている。調査は人の健康に関わる6物質について行い、その分析結果は表3-1に示すとおりで、いずれの物質も水道法に定める環境基準値の1/10~1/3未満であった。

また、平成10年11月30日の調査では表3-1の6項目のほか、40項目の検査を実施している。このなかで、大腸菌群が検出されたほか硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が、環境基準10mg/ℓのところ12mg/ℓが検出され、環境基準に不適合とされた。

表3-1 谷田の泉の水質調査結果

分析項目 (物質名)	分析結果・調査日 (単位：mg/L)			環境基準値 (単位：mg/L)
	平成21年4月20日	平成16年2月27日	平成10年11月30日	
テトラクロロエチレン	0.0005未満	0.0005未満	0.001未満	0.01以下
トリクロロエチレン	0.002未満	0.008	0.007	0.03以下
1,1-ジクロロエチレン	0.002未満	0.002未満	0.002未満	0.02以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.004未満	0.004未満	0.004未満	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	0.0005未満	0.0005未満	0.03未満	1以下
ジクロロメタン		0.002未満	0.002未満	0.02以下

分析機関：平成21年4月20日 埼玉県西部環境管理事務所

平成16年2月27日 埼玉県環境防災部水環境課

平成10年11月30日 埼玉県西部環境管理事務所

【テトラクロロエチレン】*

揮発性有機塩素系化合物の1種で、無色透明の液体。主な用途としては、ドライクリーニング、溶剤等がある。人体への影響としては、肝障害、腎障害、中枢神経障害が知られている。また、廃液等による地下水汚染の進行が懸念されている。

【トリクロロエチレン】*

揮発性有機塩素化合物の1種で、無色透明の液体。主な用途としては、金属機械部品等の脱油洗浄、ドライクリーニング、香料等の抽出、染料の溶剤等がある。人体への影響としては、肝障害、腎障害、中枢神経障害が知られている。また、廃液等による地下水汚染の進行が懸念されている。

【1,1-ジクロロエチレン】*

揮発性有機塩素化合物の 1 種で、無色透明の液体。主な用途としては、塩化ビニル等樹脂の原料、フィルム洗浄剤等がある。人体への影響としては、麻酔作用が知られている。

【シス-1,2-ジクロロエチレン】*

有機塩素化合物の 1 種で、無色透明の液体。主に用途としては、合成樹脂の原料、溶剤等がある。人体への影響としては、麻酔作用が知られている。

【1,1,1-トリクロロエタン】*

有機塩素化合物の 1 種で、甘い臭いを持つ無色透明の液体。主な用途としては、金属洗浄剤、ドライクリーニング用溶剤等がある。人体への影響としては中枢神経障害が知られている。

【ジクロロメタン】*

揮発性有機化合物の 1 種で、甘い臭いをもつ無色透明の液体で水に溶けやすい性質がある。主な用途としては、塗料の剥離剤、プリント基板洗浄剤、溶剤等がある。人体への影響としては、麻酔作用や中枢神経障害が知られている。

* ...国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所の HP を参考

3-2 カワモズク調査

カワモズク *Batrachospermum moniliforme* Roth は、紅色植物門、紅藻綱、カワモズク目、カワモズク科に属する淡水性藻類で埼玉県レッドデータブック(RDB)カテゴリーで絶滅危惧ⅠA類 Critically Endangered(CR)に指定されている。

谷田の泉湧水流路源頭部付近に於いて、希少植物のカワモズクの存在が2005年12月、小見寺公一氏により確認、報告された(埼玉植物通信 No.28 2006)。

同報告によると、埼玉県植物誌平成10年版で大宮氷川神社(さいたま市大宮区)、川越仙波(川越市)、入間女影(日高市)、入間仙女池(日高市)が記録され、このうち川越仙波のものは平成12年以降は観察されていない。

以降、同氏により継続して観察・記録が行われており、概ね一月ごとに天候・観察時刻・気温・水温・電気誘導率・塩分濃度・カワモズクの状況(藻体の個数・分布位置)、等が記録されている(図3-2 および表3-2)。

この記録によれば、気温は冬季の6℃から夏季の33℃まで変化するが、水温は年間を通じてほぼ恒温(16℃~17℃)である。電気伝導率は200~250($\mu\text{s}/\text{cm}$)で季節的な変化の傾向は見られないが、年々減少している傾向がある(図3-3)。また、塩分濃度は0.01%程度で一定である。

2007年~2010年1月までの11月~2月のカワモズクの藻体数の平均は172、最高は2007年11~12月の312、最小は2006年10月の2で、春期~夏期に減少して晩秋から冬期に増加する変化を繰り返している(図3-4)。2007~2009年の3年間では、いずれの年も11~12月に1年で最も多い藻体数を記録した。

また、藻体数を区域別に見ると、L1~4(暗渠から上流部)で全体の94%のカワモズクが記録された。区域5(暗渠の下流部)では2009年2月28日に50と比較的多い記録があるが、それ以外の時期では少なかった。



図3-1 カワモズク

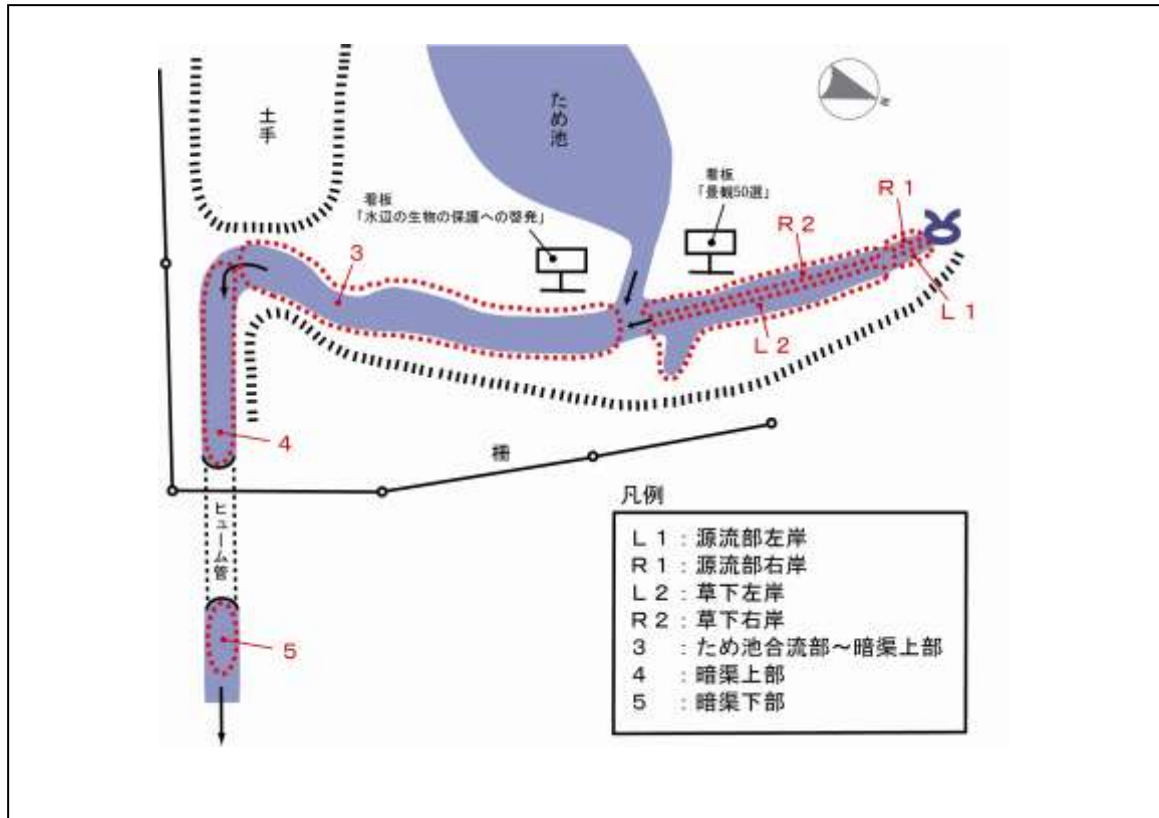
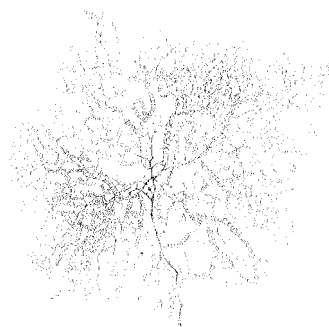


図 3-2 谷田の泉源頭部概略およびカワモズク生息箇所区分図



カワモズクのイラスト (ほぼ原寸大)

作画：松村芳子氏

表3-2 谷田の泉 カワモズクと泉の観察記録

年月日	天候	時刻	気温 (°C)	水温 (°C)	電気伝導率 (μs/cm)	塩分濃度 (%)	カワモズクの状況									
							L1	R1	L2	R2	3	4	5	合計	備考	
2005.12.19(日)	晴れ	9:45	6.3	17.2	202	0.00	石に着生の約50ヶ確認									
2006.1.8(日)	晴れ	10:40	8.1	17.2	230	0.01						33	15	48		
2006.2.14(火)	晴れ	13:40	16.4	17.2	210	0.01		30~40				17	2	49~59		
2006.3.12(日)	晴れ	9:30	22.8	17.1	191	0.00		2群				5	2	-		
2006.3.25(金)	晴れ	14:30	12.4	16.8	202	0.00		2群				5	2	-	前回と同	
2006.4.9(日)	晴れ	13:20	18.2	17.0	200	0.00	1群	1群						-		
2006.5.12(金)	晴れ	10:15	20.5	16.8	194	0.00		1群						-		
2006.6.22(木)	曇り	10:00	21.7	16.6	240	0.01		1群	3					-		
2006.7.24(日)	曇り	12:25	24.7	16.5	235	0.01		7	5					12		
2006.9.2(土)	晴れ	9:20	25.6	16.7	205	0.01		3						3		
2006.10.3(火)	晴れ	14:20	24.4	16.8	210	0.01		2						2		
2006.11.14(火)	晴れ	13:00	21.4	17.2	210	0.01	少	多				多		-	急増	
2006.12.29(金)	晴れ	10:10	7.5	17.2	260	0.01	少	多				多		-	前回と同	
2007.1.24(水)	曇り	10:10	9.5	17.1	250	0.01	少	多				多		-	前回より増	
2007.2.16(金)	晴れ	9:50	11.3	17.2	230	0.01	少	多				多	6	-	前回より増	
2007.3.20(火)	晴れ	9:15	9.9	16.8	250	0.01	少	多				多	6	-	前回と同	
2007.4.19(木)	晴れ	9:30	10.3	16.6	250	0.01	少	多				少		-		
2007.5.12(土)	晴れ	10:00	22.6	16.8	235	0.01	3		6	8				17		
2007.6.9(土)	曇り	13:10	22.3	16.7	200	0.01	2			10				12		
2007.7.20(金)	曇り	13:10	26.7	16.5	225	0.01			4	15				19		
2007.8.23(木)	晴れ	13:30	30.8	16.7	200	0.01	4		3	10				17		
2007.9.15(土)	晴れ	13:30	33.6	16.8	240	0.01	1	2		8	12		1	24		
2007.10.17(水)	曇り	14:35	20.6	17.1	210	0.01			4	12	3			19		
2007.11.25(日)	晴れ	13:35	19.2	17.3	225	0.01	40	5	53	55	146	10	3	312		
2007.12.22(土)	曇り	10:17	7.4	17.1	215	0.01	40	5	53	55	146	10	3	312	全体に肥大	
2008.1.25(金)	晴れ	13:30	8.0	17.0	215	0.01	10	15	8	20	56	12	1	122	大小が混在	
2008.2.22(金)	晴れ	13:25	16.0	16.9	215	0.01	5	7	7	31	23	22		95	草に付着	
2008.3.19(水)	曇り	13:40	13.4	16.7	210	0.01	3	17	12	42	10	7	1	92	草に付着	
2008.4.23(水)	晴れ	13:40	23.4	16.8	225	0.01	2	10	6	24	3			45	草に付着	
2008.5.23(金)	晴れ	13:40	30.3	16.6	230	0.01		2	4	2				8	減少・縮小	
2008.6.27(金)	曇り	14:35	26.2	16.6	210	0.01	6		5	2	3			16		
2008.7.23(水)	晴れ	14:25	32.9	16.6	220	0.01	24	25	9	9	14		4	85		
2008.8.29(金)	曇り	13:35	27.3	16.8	245	0.01	8	9	5	5				27		
2008.9.28(日)	曇り	14:10	18.4	16.9	225	0.01		5	3	7				15		
2008.10.29(水)	晴れ	13:55	21.3	17.2	205	0.01	2	17	50	45				114		
2009.11.28(金)	晴れ	14:00	12.7	17.1	205	0.01	38	18	68	95	82			301		
2008.12.21(日)	晴れ	10:45	12.6	17.2	210	0.01	8	14	43	21	69			155		
2009.1.21(水)	曇り	13:35	9.3	17.1	220	0.01	11	3	15	24	41			94		
2009.2.28(土)	曇り	15:20	11.5	17.1	230	0.01	5		26	16	9		50	106		
2009.3.31(火)	晴れ	13:40	18.8	17.0	200	0.01	3	1	31	27	3		10	75		
2009.4.27(月)	晴れ	10:35	19.9	16.9	200	0.01	6		10	36	1		6	59		
2009.5.19(火)	曇り	9:56	25.3	16.8	225	0.01	1	5	4	8				18		
2009.6.28(日)	曇り	13:40	26.8	16.7	230	0.01	2	2	3	5				12		
2009.7.27(月)	曇り	14:14	30.6	16.7	210	0.01	4	5	3	10				22		
2009.8.27(木)	晴れ	9:50	27.9	16.8	215	0.01	6	9	5	10	9			39		
2009.9.29(火)	曇り	15:00	25.4	16.9	210	0.01	5	7	25	6				43		
2009.10.27(火)	晴れ	9:50	22.0	17.2	220	0.01	0	2	13	0	2		0	17		
2009.11.26(火)	晴れ	11:15	18.6	17.3	210	0.01	25	5	45	3	103		0	181		
2009.12.29(火)	晴れ	13:25	11.8	17.2	200	0.01	14	0	63	2	70	2	4	155		
2010.1.25(月)	晴れ	13:30	13.8	17.1	199	0.01	12	2	15	3	16	6		54		
最高値			33.6	17.3	260	0.01	40	25	68	95	146	33	50	312		
最低値			6.3	16.5	191	0.00	1	1	3	2	1	5	1	2		
平均値			19.4	16.9	219	0.01	* 19	* 7	* 36	* 30	* 69	* 10	* 10	* 172	11月~2月	

観測者：小見寺公一氏

*2007.5.12(土)以降の11~2月の平均値

観測機器

小型デジタル温度計 D618 内田洋行

電気伝導率計 B-173 堀場製作所

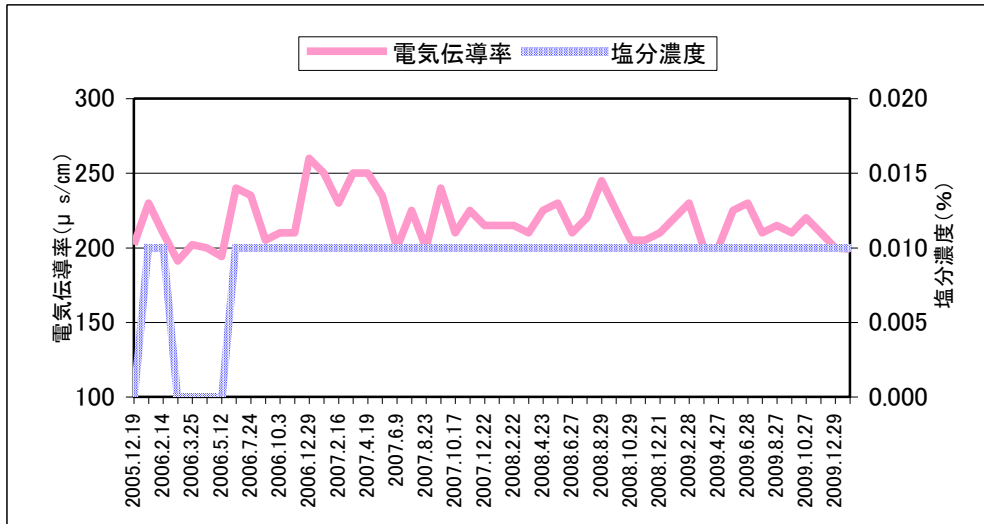


図 3-3 谷田の泉の季節変化(電気伝導率と塩分濃度)

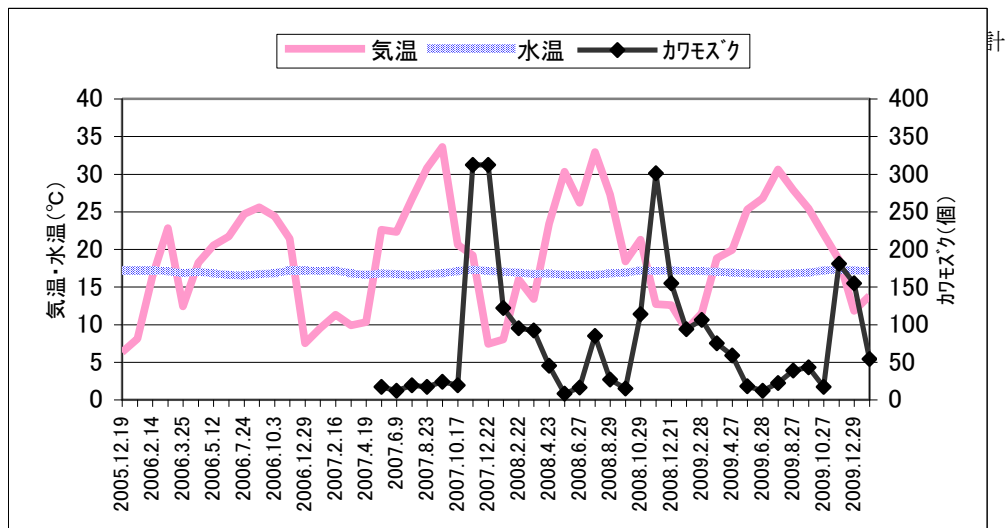


図 3-4 谷田の泉の季節変化(気温・水温とカワモズク個数)

図 3-3、図 3-4 は小見寺公一氏の観測記録から作成

3-3 水生動物調査

3-3-1 調査方法

谷田の泉周辺を4つの地区に分け、地区ごとに水生動物の採集を行なった。採集方法は、水底を蹴り、ザルで石表面や底にいた生物を捕まえ、トレーに広げてピンセットで捕まえた。採集した水生動物はエタノールに漬けた標本にし、同定した。地区ごとの採集回数は地区の広さなどによって4~10回とした。調査は2009年7月28日、9月15日、11月6日に行なった。



図3-5 水生動物調査の地区区分

3-3-2 調査結果

地区 1 は谷田の泉の湧水部、地区 2 はこの泉を水源とする水路、地区 3 はため池上流部から湧き出る泉、地区 4 は堤の基部から湧き出る泉をそれぞれ水源とする水路である。

谷田の泉とため池上流部からの湧水とを合わせた湧水量は、おおむね夏で 1000 リットル/分、冬で 650 リットル/分程度で、年間を通して豊富な水量を維持している(平成 21 年 9 月と平成 22 年 1 月の現地簡易測定による)。

地区 1 および地区 2 の水路は豊富な清流が緩やかに流れ、地区 3 のため池は湧水量が少ないために汚泥がたまった部分が多くを占め、地区 4 の水路は湧水量が少なく水がちょろちょろと流れている程度である。

今回の調査で確認した水生動物は表 3-3 のとおりで、地区別では地区 1 と地区 2 が 18 種、地区 3 で 11 種、地区 4 で 9 種がそれぞれ確認された。

種別では昆虫類 20 種、昆虫類以外 8 種で、湧水や溪流などの水がきれいである一定の流れを保つ水辺に生息する動物も含まれている。埼玉県及び国のレッドデータブックで絶滅危惧 I B 類として掲載されているホトケドジョウも確認された。また、北アメリカ原産の外来種アメリカザリガニも地区 1 および地区 2 で多数確認された。



写真：神奈川県水産技術センター内水面試験場のHP

図 3-6 ホトケドジョウ

表 3-3 谷田の泉の水生動物確認種

		地区 1			地区 2			地区 3			地区 4		
		7月	9月	11月	7月	9月	11月	7月	9月	11月	7月	9月	11月
昆虫類	カゲロウ目												
	コカゲロウ属 <i>Baetis</i> spp.		+		+	+	+						
	トンボ目												
	オニヤンマ <i>Anotogaster sieboldii</i>	+	+	+	+	+	+	+				+	
	ミヤマアカネ <i>Symoetum pedemontanum elatum</i>				+								
	カワゲラ目												
	オナシカワゲラ属 <i>Nemoura</i> spp.	+	+	+	+	+	+	+				+	+
	フサオナシカワゲラ属の一種 <i>Amphinemura</i> sp.	+											
	カメムシ目												
	シマアメンボ <i>Metrocoris histrio</i>	+	+	+	+	+	+			+			
	マツモムシ <i>Notonecta triguttata</i>		+										
	アミメカゲロウ目												
	センブリ属の一種 <i>Sialis</i> sp.		+		+		+						
	トビケラ目												
	マルバネトビケラ <i>Phryganopsyche latipennis</i>		+			+			+				
	ニンギョウトビケラ <i>Goera japonica</i>	+		+		+	+					+	
	コエグリトビケラ属の一種 <i>Apatania</i> sp.		+	+		+	+						
	ハエ目												
	ガガンボ属の一種 <i>Tipula</i> sp.											+	
	ウスバガガンボ属の一種 <i>Antocha</i> sp.				+								
ヒメガガンボの一種 <i>Dicranota</i> sp.				+	+								
クロヒメガガンボ亜科の一種 <i>Hexatominæ</i> sp.						+						+	
クロヒメガガンボ属の一種 <i>Eriocera</i> sp.	+												
ホソカ属の一種 <i>Dixa</i> sp.	+	+		+	+	+	+				+		
アシマダラブユ属の一種 <i>Simulium</i> sp.					+								
ユスリカ属の一種 <i>Chironomus</i> sp.		+						+					
ユスリカ科 <i>Chironomidae</i> spp.				+	+		+						
渦虫類													
ナミウズムシ <i>Dugesia japonica</i>												+	
甲殻類													
ミズムシ <i>Asellus hilgendorfi</i>	+	+		+	+	+	+						
アメリカザリガニ <i>Procambarus clarkii</i>	+	+	+	+	+	+	+						
サワガニ <i>Geothelphusa dehaani</i>										+	+	+	
腹足類													
カワニナ <i>Semisulcospira libertina</i>	+	+	+				+				+	+	
サカマキガイ <i>Physa acuta</i>		+											
貧毛類													
イトミミズ科の一種 <i>Tubificidae</i> sp.									+				
ホトケドジョウ <i>Lefua echigonia</i>	+	+		+	+	+							
地区ごとの種数	18			18			11			9			

【凡 例】 + : 少(3固体以下)、 + : 普通 (4~9固体)、 + : 多 (10固体以上)
 sp. : 一種 spp. : 二種以上

3-4 植生調査

3-4-1 調査方法

(1) 植物相調査

現地を2009年3月～2010年2月の各季節に踏査し、生育している種をエリア毎に記録・採取し、同定後に標本として入間市博物館ALITに収蔵した。

対象区域とエリア分けは、下記および図3-7に示す区域である。

- A. 常緑針葉樹林 ; 地番 2064、2054
- B1. 落葉広葉樹林 ; 地番 1366
- B2. 落葉広葉樹林 ; 地番 2066
- C. ため池 ; 地番 2065
- D1. 草地（湿地上斜面） ; 地番 1309
- D2. 草地（墓地下斜面） ; 地番 1415-3 （本事業対象区域外）
- D3. 草地（西側） ; 地番 1367
- D4. 草地（東側） ; 地番 1318、1319、1324
- D5. 草地（A・B2の沿道）
- E. 泉周辺の刈り取り草地
- F. 湿地（水路含む） ; 地番 1310、1311
- G. 茶畑 ; 地番 1365-1
- H. 平成21年度購入地 ; 地番 1313、1314、1413、1414、2062、2063-1～4

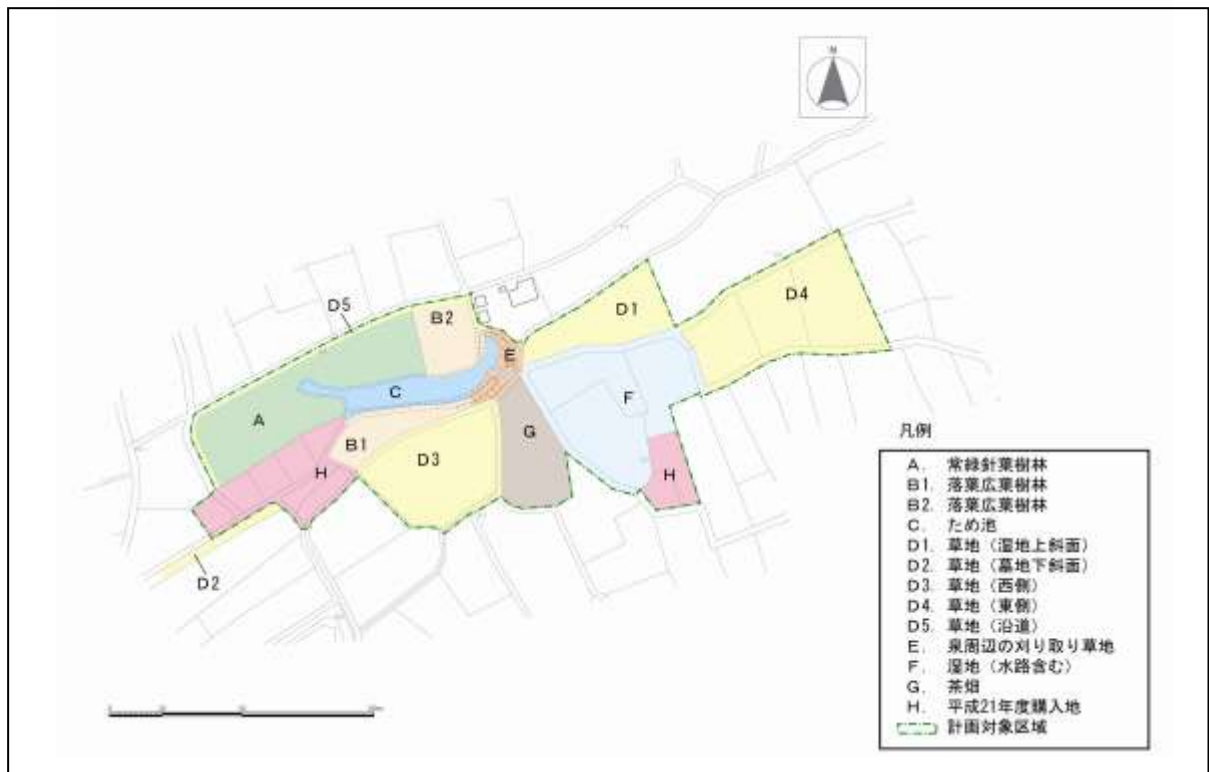


図 3-7 植生調査の調査対象区域およびエリア分け

(2) 群落調査

相観および優占種からその植物群落の区分と分布状況の把握を行い、各植分ごとに代表的な1～数箇所において植物社会学的な植生調査を行った(図3-8)。調査は2009年3～10月に実施した。

得られた結果から群落と界線を確定し、植生図を作成した。特に、湿地の部分は、優占種および特徴的な種の優占状況を考慮して詳細な区分に努めた。

被度の記録については、小面積での調査や固定調査区における追跡調査に適する手法として、被度階級を13段階の数字で表し、数度の評価をアルファベットで数字の前に加えるものを用いた(表3-4)。

表3-4 『Lond』の十進階級

記号	被度の範囲 (%)	付加記号 (判定基準)
. 1	< 1	. = r (稀、孤立的)
. 2	1～3	= p (ややまばら)
. 4	3～5	= a (多い) = m (非常に多い)
1	5～15	1- (被度 5～10%) ----- 1+ (被度 10～15%)
2	15～25	
3	25～35	
4	35～45	
5	45～55	5- (被度 45～50%) ----- 5+ (被度 50～55%)
6	55～65	(被度が 5%を超えるものでは数度は示さない)
7	65～75	
8	75～85	
9	85～95	
10	95～100	

※ 「. 1」・「. 2」・「. 4」の「.」には「r」・「p」・「a」・「m」の記号が付加される。

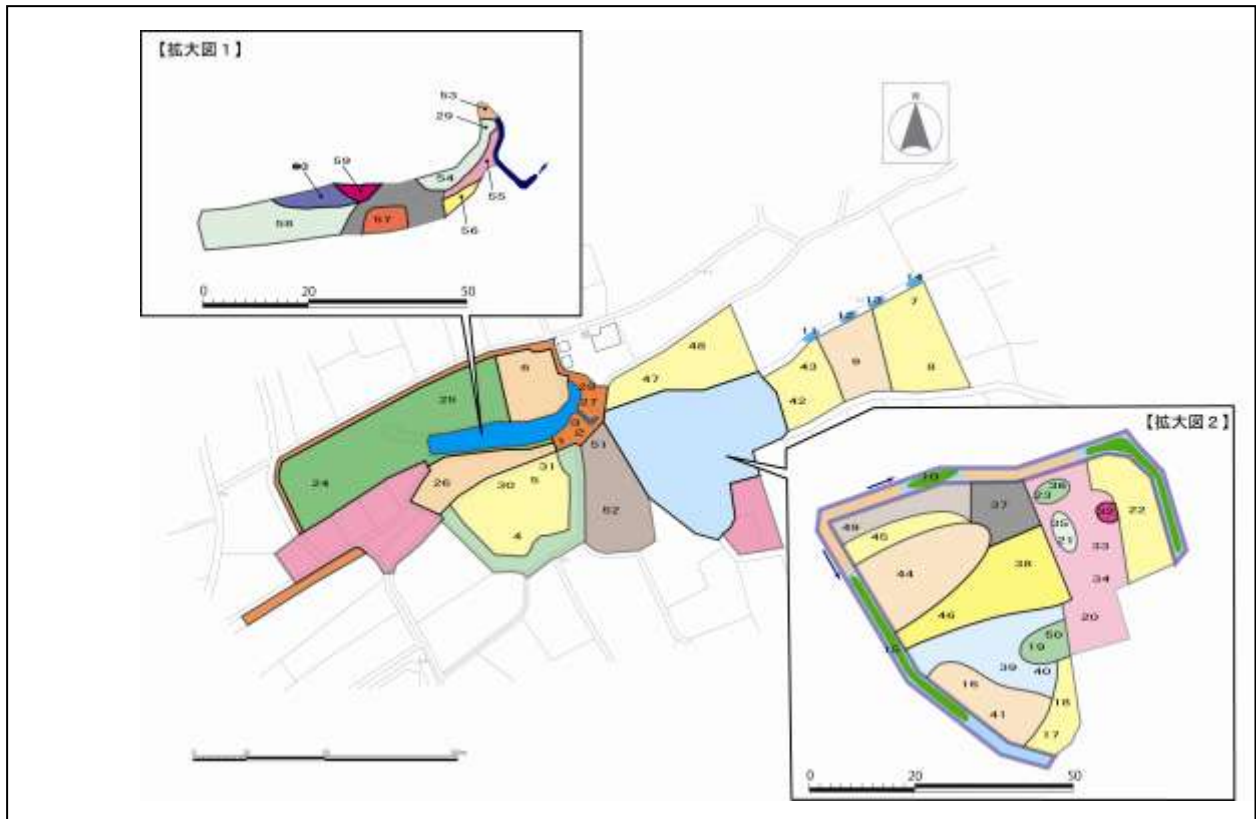


図 3-8 群落調査位置図

(3) 希少種調査

国または埼玉県レッドデータブックに掲載されている種、その他の入間市での分布地や自生の個体数の少ない種の生育位置を記録した。入間市内については「入間市博物館市内植物採取・標本作成事業」の途中経過を参考とした。

3-4-2 結果

(1) 出現種の状況

調査の結果、シダ植物以上の高等植物は 102 科 460 種、その内、木本類 45 科 103 種、草本類 66 科 357 種（シダ植物 25 種）、他に紅藻類（カワモズク）1 種、苔類（イチョウウキゴケ・ウキゴケ）2 種の生育を確認した（表 3-5、資料編フロラリスト）。分類は、環境省植物目録（1987 年版、1994 年改訂）に拠り、不備の部分は「新日本植物誌、大井次三郎」（1975 年改訂版）、「日本の野生植物、木本・草本」平凡社（1998）で補足した。外来種は、「外来種ハンドブック」（日本生態学会編 2002 年）に拠った。ただし、クワモドキのみオオブタクサ（クワモドキ）という名称で記載することとした。

入間市全域での自生種（「入間市史 植物編」、調査期間：～1983 年 10 月）の約 4 割が今回の調査で確認でき、これに植栽や栽培種の野生化したものや近年に市域で定着したと考えられる外来種なども確認された（次項以降を参照のこと）。

市史では未掲載で、本計画地で新たに確認されたものは以下のものが挙げられる。

同属種あり：フモトシケシダ、ヒメキンミズヒキ、オカウコギ、フタバムグラ、ア
オコウガイゼキショウ

近縁種あり：エゾタチカタバミ、エゾノサヤヌカグサ、ヤマミゾイチゴツナギ、シ
ロイトスゲ、ヤマアゼスゲ、メアオスゲ

同属種・近縁種なし：イヌエンジュ

市史で取り上げている種に対して、変種レベルで本計画地で新たに確認されたも
のは以下のものがある（母種も確認）。

ヤブハギ、ナガバハエドクソウ、ホソバアキノノゲシ、ナガバジャノヒゲ、エダウ
チネズミムギ、ヒメアシボソ

表 3-5 エリア別の出現種数

エリア	全 域 ※	A常緑針葉樹林	B1落葉広葉樹林	B2落葉広葉樹林	Cため池	D1草地(湿地) 上斜面	D2草地(墓地) 下斜面	D3草地(西側)	D4草地(東側)	D5草地(林縁)	E泉周辺の刈り取り草地	F湿地	G茶畑
草本	357 (66)	132	42	15	21	43	74	92	108	87	142	152	55
木本	103 (45)	85	44	43	8	12	18	10	15	10	18	24	22
合計	460 (102)	217	86	58	29	55	92	102	123	97	160	176	77

※ () 内は科数

エリア (図 3-7) 別に出現種数を比較すると、最も種数の多かったのは A 常緑針葉樹林、次いで F 湿地、E 泉周辺の刈り取り草地で小面積の中に多くの種が確認された。A の林分は、沿道部や周囲の別の形態の植分から侵入したものが多いことによると考えられる。

周辺他地域と落葉広葉樹林について出現種数比較してみると、エリア B2 の林分については上藤沢の平地林と同程度であるが、エリア B1 の林分は狭山丘陵や加治丘陵のものとは比べても種の多さについて遜色がない。

参考：市史より

○入間市全域（自生種のみ）：

138 科 941 種 {木本 188 種、草本 753 種 (シダ植物 70 種)}

○入間市の平地林（クヌギーコナラ林、上藤沢 1980 年 8 月）の林床植物：

34 科 58 種 (木本 26 種、草本 32 種)

○狭山丘陵の雑木林（コナラ林、1980 年 8 月）の林床植物：

37 科 79 種 (木本 46 種、草本 33 種)

○加治丘陵の雑木林（コナラ林、1981 年 10 月）の林床植物：

45 科 89 種 (木本 58 種、草本 31 種)

(2) 外来植物の生育状況

出現種の中から、都市化の程度を知る外来植物*種（史前帰化植物**および旧帰化植物***を除く）を抽出して計数した。（外来種ハンドブック，2002）

本計画地全域の外来種率は 15.2%（70 種）で、1983 年当時の市域全体の約 11%（102 種、市史）および埼玉県全域の約 10%（250 種、埼玉県植物誌 1998 年版）と比較するとやや外来種率が高かった。（表 3-6）

表 3-6 エリア別の外来植物種の生育状況

エリア	全 域	A 常 緑 針 葉 樹 林	B 1 落 葉 広 葉 樹 林	B 2 落 葉 広 葉 樹 林	C た め 池	D 1 草 地 （ 湿 地 上 斜 面 ）	D 2 草 地 （ 墓 地 下 斜 面 ）	D 3 草 地 （ 西 側 ）	D 4 草 地 （ 東 側 ）	D 5 草 地 （ 林 縁 ）	E 泉 周 辺 の 刈 り 取 り 草 地	F 湿 地	G 茶 畑
外来種数	70	27	2	1	3	8	14	20	19	21	27	23	10
出現種数	460	217	86	58	29	55	92	102	123	97	160	176	77
外来種率(%)	15.2	12.4	2.3	1.7	10.3	14.5	15.2	19.6	15.4	21.6	16.9	13.1	13.0

植生調査のエリア分け（図 3-7）によってエリア別にみると、エリア B1 および B2 の落葉広葉樹林では外来種率が低く、エリア D や E の草地では高いところがあり、エリア C ため池やエリア F 湿地の水湿地では中庸だった。

エリア A 常緑針葉樹林については B1 および B2 の落葉広葉樹林よりも外来種率が高い。沿道部の草地であるエリア D5 は 21.6 パーセントで最も外来種率が高かった。

当地域と同様に、都市近郊で、ほぼ近似的に対応する立地の調査結果として千葉県の富津市（表 3-8）の例を示す。調査時点の年代の差はあるが、富津市の休耕田や休耕畑地よりも本地の湿地や草地の外来種率は低く、耕作の行われている水田や畑地（台地でない）と同程度であった。同質の環境の外来種率は概ね同様の傾向があった。（植物生態の観察と研究，1985）

* 外来植物とは、外国から持ち込まれた植物をいう。（帰化植物とも言う。）

** 史前帰化植物とは、文献上の記録がなく、有史以前に渡来、帰化したと考えられる植物をいう。

*** 旧帰化植物とは、有史以降江戸時代末期までに帰化したと考えられる植物をいう。

表 3-7 本計画地における
主な外来種率

立地	エリア	外来種率(%)
休耕(放棄)田	F	13.1
休耕(放棄)畑	D1, D3, D4	16.8
樹林地	A, B1, B2	8.3

表 3-8 富津市(1974)における
外来種率の調査例

立地	外来種率(%)
新しい造成地	36.7
市街地	28.0
休耕(放棄)田	27.9
休耕(放棄)畑	24.5
畑地	12.6
果樹園	10.5
水田	9.2
湿性地	9.2
ススキ・ササ草原	8.8
造林地	7.2
屋敷林周辺	6.5
社寺林	5.5
竹林	2.8
二次林	0.0

本計画地に生育する外来種で、市域を含む周辺地域では定着してから長年が経っていると考えられるもの(1984年編さんの市史での自生種)は、以下の47種であった。

シャクチリソバ、エゾノギシギシ、ヨウシュヤマゴボウ、オランダミミナグサ、ムシトリナデシコ、コハコベ、コアカザ、マメグンバイナズナ、オランダガラシ、ハリエンジュ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ、ムラサキカタバミ、アメリカフウロ、コニシキソウ、メマツヨイグサ、ヒメオドリコソウ、ホオズキ、アメリカイヌホオズキ、タチイヌノフグリ、オオイヌノフグリ、ヘラオオバコ、ブタクサ、オオブタクサ(クワモドキ)、アメリカセンダングサ、コセンダングサ、オオアレチノギク、ダンドボロギク、ヒメムカシヨモギ、ハルジオン、ハキダメギク、チチコグサモドキ、ブタナ、ノボロギク、セイタカアワダチソウ、オニノゲシ、ヒメジョオン、セイヨウタンポポ、キシヨウブ、ニワゼキショウ、コヌカグサ、イヌムギ、ジュズダマ、オニウシノケグサ、ネズミムギ、ホソムギ、ナガハグサ

本計画地に生育する外来種で、市史で未記載のもの（非自生種扱い）は、以下の20種がある。この内、近県一帯では以前から侵入・定着化しているもので、市域および本計画地にもその可能性が比較的高いと思われるものには下線を記した。

参考：「日本外来植物種写真図鑑」清水ら編著．全国農村教育協会．2001

「牧草・毒草・雑草図鑑」清水ら編著．(社)畜産技術協会・全国農村教育協会．2005

ナガバギシギシ、ゴウシュウアリタソウ、ホナガイヌビエ、ミチタネツケバナ、ハナダイコン、イタチハギ、ショウジョウソウ、
ノダアカバナ、ユウゲショウ、トウネズミモチ、マルバアサガオ
オランダハッカ、ツボミオオバコ、シロノセンダングサ、ハルシャギク、イヌキクイモ、
ウラジロチチコグサ
ヒメヒオウギズイセン、ノハラスズメノテッポウ、コスズメガヤ、トウジュロ

(3) 植栽・栽培種の生育状況

植栽や栽培を起源とした種は以下のものがあつた。

○用材・庭木由来

モミ、スギ、ヒノキ、サワラ、イヌマキ、マテバシイ、シモクレン、クスノキ、タブノキ、ナンテン、モッコク
マルバシャリンバイ、ユズリハ、ヒメユズリハ、モチノキ、クロガネモチ、フイリアオキ、カクレミノ、ヤツデ、ネズミモチ、トウネズミモチ、キリ、シュロ、トウジュロ
※下線は種子の鳥散布による移入の可能性の高いもの。

○食用・飲用に栽培されていたもの

クリ、ムベ、チャノキ、ダイコン、カキノキ、トマト、ジャガイモ、ニラ、ナガイモ、サトイモ、ミョウガ

○花や実の観賞用に栽培されていたもの

ホオズキ、ノカンゾウ類、オニユリ、キショウブ

○その他

マグワ（養蚕）、クスノキ（樟脳）、ユズリハ（正月飾り）、センダン（薬用）、キリ（用材）

(4) 貴重な植物の生育状況

国または埼玉県レッドデータブック（RDB）種に該当するものとして、シダ植物以上の高等植物 6 種、他に紅藻類（カワモズク）1 種、苔類（イチョウウキゴケ・ウキゴケ）2 種の生育を確認した（表 3-9）。現在の市域で自生での生育地や個体数が少ないものとして、在来種 12 種、外来種 3 種、逸出種 3 種、計 18 種を本計画地で確認した（表 3-10 a～c）。

カワモズクは本計画地のような平地の湧水などの清流中に生育する特異的な種であるが、他の RDB 種は、かつては県内や周辺地域でやや普通に広く生育していたが、近年では生育地や生育環境が限られるようになったものである。

各種の分布状況を図 3-9 に示す。

表 3-9 本計画地に生育する RDB 種一覧

科名	種名	県レベル※	国レベル
ユキノシタ	タコノアシ	EN	VU
サクラソウ	ヌトランノオ	NT	
ハマウツボ	ナンハンギセル	VU	
ユリ	アマナ	EN	
ヒガンバナ	キツネノカミソリ	VU	
カヤツリグサ	ヤマアゼノスケ	VU	
カワモズク	カワモズク	CR	
ウキゴケ	イチョウウキゴケ	VU	CR+EN
ウキゴケ	ウキゴケ	VU	CR+EN

○埼玉県レッドデータブックにおけるカテゴリーの定義

- ・絶滅 Extinct (EX)
- ・野生絶滅 Extinct in the Wild (EW)
- ・絶滅危惧 THREATENED 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
絶滅の危機に瀕している種
- ・絶滅危惧 I A 類 Critically Endangered (CR)
ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
- ・絶滅危惧 THREATENED 絶滅危惧 I B 類 Endangered (EN)
I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
- ・絶滅危惧 THREATENED 絶滅危惧 II 類 Vulnerable (VU)
絶滅の危険が増大している種。現在の圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実に考えられるもの
- ・準絶滅危惧 Near Threatened (NT)
存続基盤が脆弱な種現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」

3 環境現況調査

として上位ランクに移行する要素を有するもの次に該当する種。生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。

• Data Deficient (DD)

評価するだけの情報が不足している種環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種



タコノアシ



ヌマトラノオ



ナンバンギセル



アマナ (葉)



キツネノカミソリ



ヤマアゼスゲ



カワモズク



イチョウウキゴケ



ウキゴケ

表 3-10 入間市で確認個体の少ない植物種

表 3-10 a 在来種

科名	種名	市内での分布状況	備考
イネ	アシキ	1箇所	
マメ	イヌエンジュ	1箇所	
サトイモ	ウラシマソウ	1箇所	
ビャクダン	カナヒキソウ	数箇所、少数	
マメ	カラケツメイ	1箇所	往時近隣に多数生息
バラ	キジムシロ	数箇所、少数	
ガガイモ	コハノカモツル	数箇所、少数	
チャセンシダ	コハノヒノキシダ	数箇所、少数	
イネ	ササカグサ	1箇所	
キョウ	ツリガネソウ	数箇所、少数	
アカネ	フタバムグラ	他に2箇所	
アカネ	ヨツバムグラ	1箇所	

表 3-10b 外来種

科名	種名	市内での分布状況	備考
マメ	イタチハギ	2箇所	外来種
イネ	エダウチネズミギ	1箇所	外来種
アカバナ	ノダアカバナ	1箇所	外来種

表 3-10c 逸出種

科名	種名	市内での分布状況	備考
ユリ	オユリ	1箇所	逸出
ユズリハ	ヒメユズリハ	1箇所	逸出
ブナ	マテバシイ	1箇所	逸出

また、1973年当時に市域の稀産種とされていたものの内、次のものが生育していた。

アマナ、ウラシマソウ、ウワミズザクラ、オニスゲ、コブシ、シャクチリソバ、タコノアシ、ヒメガマ、ミヤマシラスゲ

(5) 植物群落の分布状況

植林地は4群落4区画、二次林は3群落3区画、草地は4群落7区画、湿地は19群落21区画に区分した。水路部分のみのものは6群落を確認した。結果を表3-12および図3-10に示す。

○植林地

スギ・ヒノキ植林は、スギは斜面中～下部に、ヒノキは斜面上部や沿道や平坦地に主に植栽されている。林床にはナガバジャノヒゲなど常緑草本が優占する部分がある。

茶畑は、最大高が5mでチャノキは密生して林冠が閉じており、周辺部を除いて草本類は少ない。林内および外周部には植栽されたキリやケヤキで樹形の大きいものが点在する。

栗林は、林冠がやや疎らで、草本層が豊富である。

桑林は、エリアD3草地（原っぱ用地）の外周部に分布する。

○二次林

クヌギ林は、市域の代表的な二次林であるクヌギ・コナラ林との類似の構成種（群集標徴種：エノキ・ケチチミザサ・クヌギ・ノイバラ・ミズヒキ）を含むが、コナラはまれで、ケヤキやエノキなど多種が林冠を構成している。ため池と農地との間に帯状に分布している。低木層にチャノキが多くあり、草本層は少ない。

ミズキ林は、泉の湧き口の上部の斜面の肩から下部まで分布する。林床にはササ類はほとんど認められない。ムクノキの被度が高く（30%）、エノキを交えており、かつて入間川が段丘崖を形成した時代の河畔林であるムクノキ・エノキ林の面影を残す。

マグワオオブタクサ群落は、放棄水田の湿地の一部に分布する。

○乾生草地群落

放棄された畑地にアズマネザサ・ススキ群落、オオブタクサ群落が広がっている。アズマネザサ・ススキ群落はエリアD4草地（東側）の1/3程度を占めている。

オオブタクサ群落は、エリアD1草地（湿地上斜面）およびD3草地（西側）の全体、エリアD4草地（東側）の1/3で繁茂する。

路傍雑草群落は、沿道及び泉周辺の刈り取り草地を全てこれに含んだ。

○湿地草地群落

湿地やため池周辺では、優占種や種組成の異なる多彩なパッチ状の分布が確認された。

本計画地の湿生草本群落を自然性の上から特徴づける群落および種は次の通りである。市内や周辺の分布状況は『入間市の植生』より、県内のそれは『埼玉県植物

誌 1998』より、生育環境については各種の図鑑類によった。

RDB 種で水位の変動の大きい箇所で繁殖し易いタコノアシの多い群落や、RDB 種、山地の湿地や溪流沿いに生育するヤマアゼスゲの優占する群落など、自然度の高い種が特徴的な群落が確認された。オニスゲは山地～低地の湧水源付近の水湿地、県内でややまれである。ミヤマシラスゲ群落は山中や麓の湿地、加治・狭山丘陵にある。狭山湖畔に分布のあるサンカクイ、フトイをそれぞれ特徴とする群落も確認された。

人と関わりの多い湿地に分布する群落には、アゼナルコ・イグサ・ガマ・ヒメガマを含む名称のものが挙げられる。

栽培種の人為的な導入や逸出による種が優占する群落には次のものがあつた。
ミョウガ群落、キショウブ群落、オオブタクサーシュズダマ群落、オランダガラシ群落

※キショウブ・オオブタクサ（クワモドキ）・シュズダマ・オランダガラシは外来植物種

以下のものは、湿地の中の水路付近に出現した。（ ）内のものは他に類似がある。

クサヨシ群落、ヨシ群落、ドジョウツナギ群落、（フトイ群落、ミソソバ群落）

表 3-11 群落名一覧

区分	相観	群落名	区画数	植生図位置番号	
植林地	常緑針葉樹林	スキ・ヒノキ植林	1	24, 25	
	常緑広葉樹林	茶畑	1	51, 52	
	落葉広葉樹林	栗林	1	9	
桑林		1	4, 31 などの周囲		
二次林	落葉広葉樹林	クスギ林	1	26	
		ミズギ林	1	6	
		マグワ－オオブタクサ群落	1	44	
乾生草地群落	高茎草本	アスマササーススキ群落	1	42, 43	
		オオブタクサ群落	3	4, 5, 7, 8, 30, 31, 47, 48	
	低茎草本	路傍雑草群落	1	24, 25 の周囲	
		刈り取り草地群落	2	1, 2, 3, 27, 28, 西端	
湿生草本群落	高茎草本	セイカアワダチソウ－ヒメマ群落	1	22	
		ヤマアセースケ－ガマ群落	1	16, 41	
		クサヨシ群落	1	12	
		ヨシ群落	1	13	
		オオブタクサークス群落	1	37	
		オオブタクサージュスダム群落	1	38, 46	
		ガマーイグサ群落	1	39, 40	
		低茎草本	アシホソ－ササガヤ群落	1	56
			オオミゾハ群落	1	55
			キシウフ群落	2	45, 53
	セキシウ群落		2	29, 54, 58	
	ナガバジャヒゲ群落		1	60	
	ミヨウガ群落		1	57	
	ヤブラン群落		1	59	
	オオミゾハ－フトイ群落		1	20, 33, 34	
	オニウシノケガサ－アゼナルコ群落		1	17, 18	
	オニスゲ－オオミゾハ群落		1	23, 36	
	サンカクイ－フトイ群落		1	19, 50	
	タノアシ群落		1	32	
	ミゾハ－ノイバラ群落		1	49	
	ミヤマシラスゲ群落		1	21, 35	
	オランダガラシ群落		1	10	
	フトイ群落		1	11	
	ミゾハ群落	1	14		
	トシヨウツナギ群落	1	15		
	総計			41	

※ 網掛けは水路での調査地のみ

3-5 環境現況調査の考察

3-5-1 水質

調査した6物質については水道法に定める環境基準値を大幅に下回っており、現状では問題はないと考えられる。今後ともこの水質を維持するため、これらの物質を排出する事業所などの立地を規制するほか、5年に1回程度の水質調査を行うことが望ましい。

また、今後土壌に含まれている栄養塩類（植物の栄養となるような窒素やリンを含む塩類）の流入によって徐々に富栄養化が進展していく可能性がある。富栄養化すると水生動植物の生育環境に悪影響を与えるので、今後の藻類の発生状況を注意深く見守る必要がある。

3-5-2 カワモズク

カワモズクは、埼玉県レッドデータブック（RDB）カテゴリーで絶滅危惧ⅠA類 Critically Endangered(CR)に指定されている（埼玉県レッドデータブック植物編2005）。埼玉県植物誌平成10年版で大宮氷川神社（さいたま市大宮区）、川越仙波（川越市）、入間女影（日高市）、入間仙女池（日高市）が記録され、このうち川越仙波のものは平成12年以降は観察されていない（埼玉植物通信 No.28 2006）ため、この谷田の泉でカワモズクの生育環境を守ることは地域の生物多様性を守る意味で非常に重要だと考えられる。

藻体数の増減について今後も注意深く観測を続ける必要がある。カワモズクは比較的ゆるやかな流れの水域に生育し、小石に付着して初秋から成長を始め冬季に成長し、夏には減少する（「あさくらの自然」HP）といわれており、本地の観測でも11～12月に1年で最も多い藻体数を記録した。そのため、少なくとも11～12月の観測を続けることで経年的なカワモズクの動向がわかると考えられる。

また、カワモズク全体の94%が暗渠から上流部に生育していることがわかったが、これは湧水の上流部で底質が石や砂利であることが生育に適していると考えられる。そのため、カワモズクを保全するためには、この部分の立ち入りを規制し、泥が石を覆ってしまうことを防ぐ措置が必要である。泥が覆ってしまうような場合には、石の補充や泥の除去といった管理も考えられる。底質が石の部分を増やすことでカワモズクの生育適地が増えることも考えられる。

3-5-3 水生動物

地区1の湧水上流部とそれの流れる水路である地区2で比較的種数が多く、湧水や溪流などの水がきれいである一定の流れを保つ水辺に生息する動物も含まれてい

た（表 3-3）ことは、地区 1 で特に流量が安定し、底質が小石の部分があることや土手に生える植物の状況が水生動物の生息に適した環境を作っているものと考えられる。

地区 1 および 2 で確認されたホトケドジョウは埼玉県および全国的に絶滅危惧種 I B 類に指定されており、湧き水が流れ、水生植物が生育し、砂礫あるいは泥が浅く積もった場所に生息する。天然での寿命は 2 年以下と考えられており、ライフサイクルが短いために、湧水などの条件が消失すると急速に絶滅することが多いといわれている（埼玉県 2008）。

地区 4 では他地区で生息していたアメリカザリガニが確認されず、他では見られないサワガニが見られた。地区 4 の水路は谷田の泉とは別の湧水であり、連結していないため、アメリカザリガニの侵入が抑えられていると考えられる、比較的水量が少なく、直径 30cm 以上の大きめの石があることがサワガニの生息に適しているのかもしれない。

サワガニは水のきれいな水路の石や枯れ葉の下などに生息し、本計画地の含まれる台地・丘陵地では普通に見られるが、低地など人の手の及ぶ地域では乱獲や水質汚濁によって激減していると言われている（埼玉県 2008）。本地のサワガニが絶滅しないよう注意していく必要がある。

ホトケドジョウなどの希少種が生息し続ける条件は、

- ① 年間を通して一定の流量と、緩やかな流れをもつ清流を維持すること
 - ② 水路には植物や石ころがあって、動物が休み、産卵できる場があること
- である。今後ともこの環境を維持し、湧水を拠り所とする動物の生息環境を守っていくことが重要である。

また、北アメリカ南部原産の外来種アメリカザリガニは雑食性であり、ため池、水路などで水生小動物や水生植物に対する食害が知られている（外来種ハンドブック 2002）。他の水生動物を保全するためには増えすぎないようにモニタリングを続け、場合によっては生息数の減少手段を講ずることも必要である。

3-5-4 植生

出現種の状況

入間市全域での自生種（「入間市史 植物編」、調査期間：～1983 年 10 月）の約 4 割が今回の調査で確認され、市、県、国レベルの希少種の生育も確認されたことで、この地が地域の植物相の豊かさを維持していくために重要であると言える。

外来種率がやや高く、1983 年より増えていることも確認されたため、今後も増えるであろう外来種の侵入と拡大を抑えるような管理によって、希少種を含む在来種の生育地を確保することができると考えられる。

(1) 湿地の現状と今後の予測

放棄水田部分は、圃場整備前の素掘りの水路が残され一部で蛇行しており、腐植が適度に堆積して水流を妨げて保水機能を発揮することにより、耕作放棄後も湿生草地の生育環境が維持されていると考えられる。水湿条件の違いや季節・時期による水位の変動が各優占種群の微妙なすみわけを成立させている。中でも、RDB種や山間地で生育する種がまとまっている部分があるのは、放棄から十数年程度を経て、埋土種子の再生と群落としての分布が安定化していると考えられる。同時に、人と関わりの多い湿地に分布するもの（アゼナルコ・イグサ・ガマ・ヒメガマ）や栽培種（ミョウガ・キシヨウブ・ジュズダマ）も生育している。他地域では、放棄水田はヨシが優占したり、乾燥化してセイタカアワダチソウが繁茂してしまうことがある（楠本ら 2005）のに対して、本計画地では湿生群落として多様な種があり、湿地として残す意味が高い。

一方、水田雑草群落を位置づける種群（スズメノテッポウ、タカサブロウ、ケキツネノボタン、ヒデリコなど）は植物相調査では確認できたが、まとまった分布はしていなかった。これは、水田管理や休耕・営農の反復のような、短期間での顕著な環境変化がなくなってから時間が経過していることによると考えられる。「入間市の植生 1997」において本計画地で調査され、市域で唯一の休耕田雑草群落として区分されたカズノコグサーセリ群落は、本調査では確認できなかったが、区分種のミノゴメ（カズノコグサ）・セリ・ケキツネノボタンは植物相調査では確認できた。

マグワ－オオブタクサ群落、セイタカアワダチソウ－ヒメガマ群落の成立している部分は乾燥化していると考えられ、今後の乾燥化の動向に注意が必要である。

また、上流部の区域にはオオブタクサ（クワモドキ）やイヌキクイモ、水路上にキシヨウブとオランダガラシ（クレソン）、比較的乾燥した部分にセイタカアワダチソウ、下流部にオニウシノケグサが多く確認され、人の手が入らなくなり、繁殖力の強い外来種が分布を拡大していると考えられる。これらが生育域を拡大して貴重種を含む他の種を被圧・駆逐してしまい、容易に復元できなくなる可能性があるため注意する必要がある。在来種についても、クズとヨシにはその動向に留意すべきである。

なお、ノダアカバナは市内で確認個体の少ない外来種であり、最近侵入したか、または生育に適した環境が湿地という入間市にとって貴重な環境であったことが考えられる。今後とも外来種の侵入状況には注意すべきである。

(2) 山林の現状と今後の予測

ため池より南側の B1 落葉広葉樹林（クヌギ林）は、高木層はクヌギとエノキを中心として多種が構成しているが、低木層はチャノキが 70% 程度の植被率を占め、草本層はヤブランをはじめ 10% の植被率しかない。チャノキが低木層を覆っているために草本層が発達していないと考えられる。チャノキを伐採することによって光環境が良くなり、多様な種や後継樹が育つことが期待できる。

ため池の北の B2 の落葉広葉樹林（ミズキ林）は、低木層の植被率が 70%程度あり、種数も多くアオキとファイリアオキが合わせて 10%程度を占めるほかは偏りが少ない。アズマネザサなど特定の種が増え過ぎないように注意すれば、人手をかけずに良好に階層構造が発達していくと考えられる。

A1 のスギ・ヒノキ植林は、高木の個体密度はやや高い部分と、高木が疎であり日当たりのよい部分がある。高木の個体密度がやや高い部分では枯損木や幹曲り・倒木が散在しているため、間伐材を利用しながら間伐・枝打ちを行なってもよいと考えられる。沿道からの家庭ゴミ・農作物・墓地の供物の投棄が目立つ。池周りの管理（間伐・枝切）や林内の園路の整備との連携によりアメニティの向上をはかることが可能である。エリア A 常緑針葉樹林で B1 および B2 の落葉広葉樹林よりも外来種率が高いが、これは沿道部が長く、畑地や墓地に接しているため、自然に種子が侵入するものと人為的に持ち込まれるものの両方の侵入圧が高いことによるものと考えられる。

A1、B1、B2 の林は庭木由来と思われるシュロ、アオキおよびファイリアオキの侵入がある。これらは都市近郊林で異常に繁殖する例が報告されており（亀井 2005 など）、本計画地でも個体数および被度が多くなるようであれば、除去が必要になると思われる。

茶畑は、高さ 3m まで育っており、放棄から年数が経過していると思われる。チャノキが覆っているため林床の植物も少なく、植物の多様性から見た場合、茶畑として維持する必要性は少ないと考えられる。前は水田であった所が茶畑に転用されたと考えられることから歴史的価値も少ない。そのため、チャノキを伐採し休憩園地などとして活用することが考えられる。

桑林は、周辺の農地跡も含めて近年に分布を広げているようである。クワは実などを楽しむ分だけ残し、増えすぎた部分は伐採することが考えられる。

(3) 草地の現状と今後の予測

強壯な在来種（アズマネザサやアズマザサ）や外来種（オオブタクサ（クワモドキ）・セイタカアワダチソウ）が繁茂している区域があり、これらの分布の拡大は希少種や他の在来種を被圧し衰退させる危険性があり、周囲地域への影響も懸念される。栗林は最近まで草刈りが行われていたために特定の背の高い草本種の繁茂がなく多くの草本種が生育しているが、草刈りを止めれば、隣地のアズマネザサやアズマザサが分布を拡大する可能性がある。オオブタクサ（クワモドキ）、セイタカアワダチソウは種子が風散布型であり、繁殖力が旺盛で、他感作用が強く純群落を形成しやすい。オオブタクサ（クワモドキ）は、既に D1 と D3 草地で夏期から純群落を形成しており、D4 草地（東側）や湿地へも侵入し、分布を拡大していると考えられる。オオブタクサ（クワモドキ）はイカルやカワラヒワなどの鳥類の餌として好まれると言うが、植物の種多様性を考えた場合、駆除するべきである。オオブタクサ（クワモドキ）の駆除については、夏季以降は作業効率がわるく有効性が低いこと、春期の芽生えでの摘み取りが有効なこととの知見がある（石井ら 2003）。

本計画地の周辺でもオオブタクサ（クワモドキ）の純群落がいくつか存在し、常に種子供給があるため、駆除にあたっては毎年の管理活動が必要になると考えられる。

泉の土手など、これまでも地元ボランティアの手によって刈り取りが行われてきた草地は出現種数も多く、適当な頻度の草刈りを継続していくことによって、季節の花を楽しめるような活用ができると考えられる。草刈りの頻度について他地域を参考にすると、水田の畦畔法面では、農作業に合わせた5月、7月、9月の年3回を基本とすることが多く、それによって多様な植物の生育する草地となるという報告がある（馬場ら 2003）。同報告では、刈り取りが多いとシバ草地、刈り取りを全くしないと遷移が進行しススキ草地になる傾向があり、いずれも植生構造は単純化したものになっている。これを考えに入れ、本計画地の土手は、草が伸びる時期の2ヶ月に1回程度の草刈りを継続していくことが望ましい。花を楽しめる植物については選択的に残す作業が提案される。植物種を選択的に残すには、観察眼が必要となる。選択的に残す植物としては、ツリガネニンジン、アキカラマツなどが提案される。

スギ・ヒノキ植林地の外周部については、沿道の利用者への利便に配慮しつつ、むやみな立入りやゴミ投棄の防止のため、敢えてつる植物が林縁を覆うマント群落や裾群落を形成させることもよいと考えられる。

3-5-5 まとめ

谷田の泉周辺は、限られた区域の中にも多様な自然環境を複合した特異な存在である。入間市の植物の4割を包含しており、地域の植物相の豊かさを維持していくために重要であると言える。

一年中水温の変わらない豊富な湧き水が、カワモズクという全国的にも希少な種の生育地となり、ホトケドジョウをはじめとした水生動物の生息環境となっていることがわかった。

このような湧き水を拠り所とした生きものの生育・生息環境を守っていくことは重要である。また、周辺の斜面林、湿地、草地という多様な環境の中で豊富な植物種が生育していることが示された。また、人の手が入らなかったことによって外来植物の単一的な群落になっている部分や、放棄水田跡地では、水田雑草はほぼ消失しパッチ状の湿生草本群落を形成していること、外来植物の侵入を受けていることも明らかとなった。今後、泉周辺の土地については外来植物の除去など、適度に人の手を入れることによって、より豊かな植物種の生育地とすることができると考えられる。

さらに、今回の結果では示していないが、記録写真でオオタカの食事痕やタヌキのフン、トンボ類など昆虫類、モズ、キジ、ヤマガラなどの鳥類の姿が確認されている。このような鳥やほ乳類、昆虫などの動物の利用のしかたを調査し、管理方法を考えることでより豊かな生きものの生育・生息地となっていくと考えられる。

4 整備計画

4-1 計画条件

埼玉県では、都市周辺の多様な生きものが暮らす貴重な水辺空間や平地林等で、地域住民のオアシスとして親しまれる身近で貴重なみどりを緊急に保全し、地域の自主的・持続的な活動によって守りながら、次の世代に良好な自然空間を引き継いでいくため、平成20年度から「まちのエコ・オアシス保全推進事業」を展開している。

「谷田の泉」は、平成20年度に所沢市の「菩提樹池周辺緑地」とともに、まちのエコ・オアシス保全推進事業に採択され、泉の周辺約1ヘクタールを公有地化して市民に親しまれる自然空間として整備しようとするものである。

4-2 整備方針

谷田の泉の湧水地、ため池をはじめとする周辺の良好な自然空間を保全しつつ、市民が自然と親しみ、観察するための最小限の施設整備をすることを基本方針として、エリアごとの整備概念を以下のとおりとする。(図4-1)



図4-1 エリアごとの整備概念

4-1-1 水辺保全エリア

谷田の泉湧水地、ため池及びその土手などの周辺エリアは、本事業の中心をなすエリアで、カワモズク、アマナ、ホトケドジョウなどの貴重な動植物の生育・生息地であり、土手の過度な踏圧による裸地化と崩れを防ぐため、一般客の立ち入りを制限する。カワモズクの生育環境を保全するため、底質が石や砂利であるようにし、泥が覆ってしまわないようにする。

ため池は水生動物が生息できるよう、水深 15cm程度を保ち、適度に日光が差し込むようにする。

4-1-2 湿地観察エリア

以前は谷田の泉の湧水を利用した水田だったエリアである。現在は耕作が放棄され、タコノアシやイチョウウキゴケなどの貴重な植物が生育する湿地空間を形成している。

人々がこの空間を保全しつつ観察できるような園路と湿地を踏み荒らさないための木道を整備する。

4-1-3 あそび場整備エリア

谷田の泉を訪れた人々の憩いの場として整備する。ここでは谷田の泉やカワモズクの案内板の設置や、茶畑や畑地の一部を伐採して休憩広場として整備するほか、残りの茶畑は子どもたちが茶の迷路として遊べるようにする。なお、このエリアにあるマグワ、キリ、ケヤキなどの高木とノイバラ、ススキの一部は、夏場の日陰を作る効果および花や実を楽しめることを期待し、残すものとする。

また、子どもの遊び場であった湧水地への立ち入り制限に伴い、これに替わる水遊び場を湿地上流部の園路沿いに確保する。水遊び場には砂利を敷き、冬季にはカワモズクの生育地として機能することも期待する。

4-1-4 草地保全エリア

畑地の耕作が放棄されたエリアであり、一部草刈をするほかは草地として保全する。

4-1-5 斜面林保全エリア

入間川の河岸段丘を形成する崖(ハケ)の斜面林であり、必要に応じた下草刈りや枯損木処理のほか、一部間伐を行うのみで、斜面林として保全する。

5 整備設計

前項の施設整備方針を踏まえて設計の方針を以下のとおり設定する。

設計の方針

- ① 水辺保全エリアへの立ち入り防止と、ため池への転落を防止するため、ロープ柵を設置する。
- ② 園路の急傾斜部には滑り転倒を防止するため丸太階段を設置する。
- ③ 湿地観察エリアには、観察のための園路、木道を整備する。
- ④ ため池のかいぼりを行い、一定の水深を確保する。
- ⑤ 草地と茶畑の一部を利用し、休憩広場を整備する。
- ⑥ 畑地にある桑、桐、欒などの高木は残す。
- ⑦ 谷田の泉やカワモズクの案内板を設置する。水辺の土手は水田稲作の歴史遺産であるという案内をする。
- ⑧ 湧水地下流部に子どもの水遊び場を設置する。
- ⑨ カワモズクの生育域を増やすため、⑧の水遊び場には砂利を敷く。

以上の方針に基づき図5-1のように計画するとともに、設計図を巻末資料に添付する。

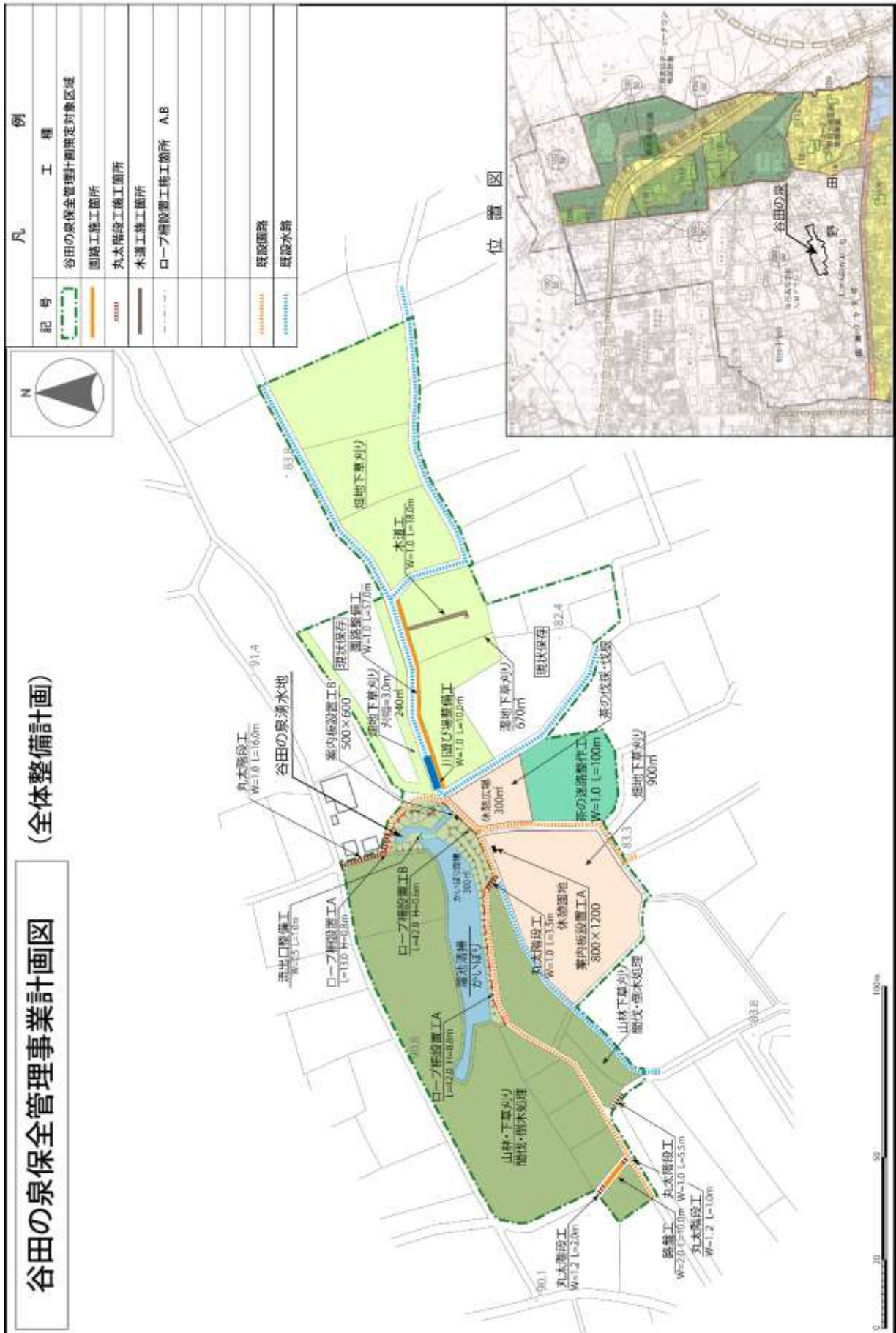


図 5-1 谷田の泉整備計画図

6 保全管理計画

6-1 保全管理の基本目標

谷田の泉の湧き水とその周辺の多様な自然環境は、生きものの生育・生息地として貴重なものである。入間川段丘崖の斜面林といった自然の地形、湧き水を利用した水田稲作の様子を伝えるため池も歴史的な遺産となっている。また、水田として利用されなくなってからも、地元の子どもたちの遊び場、人々が自然とふれあう場として親しまれてきた。このような多くの役割を持つ谷田の泉とその周辺の自然環境を保全し、後世に引き継ぐため、保全管理の基本目標を次のとおり設定する。

基本目標

「生きものの豊かな自然を次代の子どもたちに引き継ぐ 谷田の泉」

保全管理の要素

① 自然環境の保全

河岸段丘基部から湧き出る谷田の泉と斜面林、泉を利用した水田跡の湿地、草地などからなる地形、植生、生きものの生育・生息環境を保全する。

② 歴史的遺産の保全

ため池と土手を保全し、台地で水田稲作をしていた人々の歴史を感じられるようにする。

③ 自然とのふれあいの場

人工的に作られた公園ではなく、自然の中で子ども達が遊べる場としていく。自然観察ができるようにする。

④ 地元の自主的な管理活動

地元の活動団体などと協働して、住民参加による保全活動を推進する。住民や、地域の学校などの自然学習の場として活用する。

6-2 保全管理計画

地元の活動団体など住民が主体となって、保全管理を以下のとおり行う。

6-2-1 水質

人の健康や、水生動物の生息を守るため、5年に1回程度の水質調査を継続して行う。また、10年に1回程度、平成10年に行われたような人体有害物質6物質のみでなく他の化学物質も調査されることが望ましい。顕著な変化が見られた場合には、原因を究明し、改善されるよう働きかける。

6-2-2 水生動物

- ・湧水地と水路の上流部では、底質が石や砂利である部分を維持する。必要に応じて、大小の石を補充する。
- ・水生動物のモニタリングを少なくとも2~3年に1回程度行う。
- ・サワガニ、ホトケドジョウが絶滅しないよう乱獲に注意する。捕まえて観察した後は元の場所に放すよう呼びかける。アメリカザリガニは増えすぎないように、捕まえて持ち帰ってよいこととし、決して他の水辺に放さないよう呼びかける。
- ・水路を背の高い草が覆ってしまわないようにする。
- ・落ち葉がたまった所、植物の生えている所など、水生動物の生息地となる環境を保全する。



谷田の泉西側の水路。大小の石があり、サワガニがすむ。



サワガニ



湧水上流部。底質は砂利でホトケドジョウを含む多くの水生動物が確認された。



ホトケドジョウ

6-2-3 水辺保全エリア

泉の土手（湧水地と元ため池の土手）

・泉周辺の土手は、土手が崩れないよう草が生えている状態を保つ。これまでも頻繁に刈り取りを行なっていたことによって草地性の種が維持され、種多様性が豊富である。今後も刈り取り草地の状態を維持しつつ、季節の花を楽しめる種については選択的に刈り残す。刈り取り頻度は草の伸びる時期で概ね2ヶ月に1回とし、刈り取り時期は5月、7月、9月を目安とする。選択的な刈り残しについては、植物を観察する眼が必要なので、作業時には植物に詳しい人と一緒に行なうか、または前もって観察会を開き、選択的に残す植物を把握しておく必要がある。

・ロープ柵の内側は、希少植物のアマナなど、多様な種が生育しているため、踏み荒らされないようにする。



7月の泉の土手の様子



10月、ノハラアザミが咲く泉の土手



元ため池の土手に刈り取り草地が成立している



西側の刈り取り草地で咲いたツリガネニンジン

ため池

- ・ため池はゴミ・倒木類の除去を行なう。
- ・水深 15cm 程度を保てるよう埋まってきた場合には届く範囲でかいぼりを行なう。
- ・ため池の周りは、枝が混んできた場合には枝下ろしを行ない、ため池に日光が差し込むようにする。



土で埋まってしまったため池の様子



上空が木の枝で閉ざされたため池の様子

6-2-4 湿地観察エリア

園路、木道付近の管理

- ・園路、木道は、背の高い草が覆わないよう、状況に応じて左右 20cm 幅程度の草刈りを行う。
- ・園路沿いの水路についても、背の高い草が覆ってしまわないよう、状況に応じて水路周りの草刈りを行う。

強壯雑草類の除去

- ・オオブタクサ（クワモドキ）、イヌクイモは、湿地上流部から侵入している。オオブタクサ（クワモドキ）は5月ごろの芽生えの時期に刈り取りまたは摘み取りを行う。イヌクイモが拡大してきた場合、刈り取りを夏1回行う。
- ・セイタカアワダチソウの抜き取りによって、攪乱を必要とするタコノアシの生育地とする。タコノアシの種が熟す秋頃に1回行う。
- ・オランダガラシは水路内に拡大してきた場合、摘み取りを行う。カワモズク生育地で作業する場合は、カワモズクの生育環境に影響を与えないように注意する。
- ・キショウブは湿地上流部から水路沿いに増えているので、拡大に応じて刈り取りを行う。湧水地のキショウブは残すが、外来種であることを広報する。
- ・オニウシノケグサが拡大してきた場合、刈り取りを夏1回行う。



キショウブの繁茂する様子



オランダガラシ（クレソン）の繁茂する様子



タコノアシとセイタカアワダチソウ



イヌクイモの繁茂する様子

6-2-5 あそび場エリア

休憩広場

・休憩広場となったD3の草地は、状況に応じて2ヶ月に1回程度の刈り取りを行い、子ども達が遊び、休憩できるような背の低い草地状態を維持する。ただし、草を使った遊びができるよう、地面から5cm程度は残しておく。夏になるとオオブタクサ（クワモドキ）が繁茂することが予想されるため、5月の小さいうちから刈り取りまたは抜き取りを行う必要がある。ノイバラ、ススキ、クワの木は花や実を楽しめるよう何株か残し、増え過ぎた部分は刈り取る。

・茶畑を伐採して休憩広場とした部分は、周辺からの種子散布を待つ初期には草本層が少ないかもしれないが、年を経ることで他の草地のようにオオブタクサ（クワモドキ）等の外来雑草が繁茂すると予想される。日陰を作るための木本を残し、背の低い草地状態を維持するよう刈り取りを行う。

湿地上流部の水遊び場

・湿地上流部の子どもの水遊び場では、底質が砂利の状態を維持する。泥がたまった場合には、砂利を洗う。

・アメリカザリガニやホトケドジョウは子どもがふれあい遊べるようにするが、ホトケドジョウはキャッチ&リリースを呼びかけ、アメリカザリガニは外来種である上に数が多過ぎるので、持ち帰ってもよいこととする。場合によっては、ザリガニをとるイベントを開き、楽しみながら駆除していく。

・冬は水遊びの需要はないと思われるので、カワモズクの生育域となるよう環境の維持につとめ、カワモズクについて調査・観察する。



5月のオオブタクサ（クワモドキ）の様子。

このくらいの時期に刈り取りまたは摘み取りを行う。



生長し、花をつけた9月のオオブタクサの様子。

茎も太くなり、刈り取りは困難。

6-2-6 草地保全エリア

D1の草地

・斜面上部の道から湿地全体が見渡せるよう、背の低い草地状態を維持する。夏になるとオオブタクサ（クワモドキ）が繁茂することが予想されるため、5月の小さいうちから刈り取りまたは摘み取りを行う必要がある。

・イヌクイモは増え過ぎてきた場合は駆除する。

D4の草地（東側）

・北側水路から1m離れた辺り幅1m程度の部分を散策路とし、人が歩きやすい草の背を保つ。

・栗林は、クリの木やススキとナンバンギセル、アキノノゲシ、アザミ類など季節の花や実が楽しめるものを残し、全体の刈り取りを状況に応じて行う。刈り取り時期と回数は、5月、7月、9月の年3回程度を目安とし、ススキやササといった背の高い草本または木本の被度が著しく増えることのないように刈り取りを行うこと、過度な刈り取りによりシバなどの刈り取り圧や踏圧に強い植物の被度が著しく増えることのないようにすることに留意し、植生状態に応じるものとする。

・その他のササが優占している部分は、ササが覆っているために生育できる植物種が少ない。ササやぶを好む動物のために一部を残してササを刈り取ることで、草地性の植物種の生育地とする。南側の水路には、深い所があるので、水路へ近づけないようササなど背の高い草を残す。刈り取り頻度と時期は、栗林と同じ点に留意し、植生状態に応じるものとする。



栗林の林床の様子



草地（東側）の様子

6-2-7 斜面林保全エリア

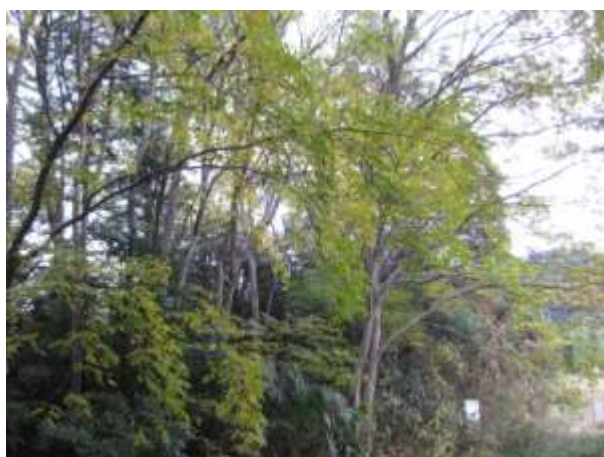
- ・基本的に手を加えず、このまま保全する。
- ・シュロ、アオキ、フィリアオキ、ヒサカキなど、ある種の常緑樹が被度を広げてきた場合には、草本層の多様性を守るため、除去する。
- ・必要に応じて倒木や枯損木、不法投棄のごみ類の除去を行う。倒木や枯損木については、昆虫類などの生息地となるため、全て取り除く必要はない。
- ・適度な密度を保つための間伐や枝打ちを行い、長期的には更新を促す。
- ・林内への立ち入り、ごみの不法投棄がひどい時には、目隠しのための林縁への低木を植樹するなど、対策を行う。目隠しの効果が期待できるマント群落が成立した場合には、そのままにする。
- ・クヌギ林については、低木層に発達したチャノキを状況に応じて伐採し、草本層の発達を促す。



スギ・ヒノキ植林 6月の様子



スギ・ヒノキ植林の林床



ミズキ林 11月の様子



冬のクヌギ林、低木層のチャノキが見える

6-2-8 その他、全般

調査、モニタリング

- ・未調査区域の調査を行い、保全管理計画を立てる。
- ・水質調査、全体の植生調査を5年に1回程度行い、状況に応じて管理計画の改訂を検討する。管理計画の改訂については、後に記載する。
- ・管理作業をする中で、変化がある草地、湿地については毎年植生調査を行い、目的が達成されるよう管理内容へ反映する。
- ・冬季11～12月のカワモズクの藻体数調査については毎年行う。湧水の水温と、ため池の水温、ため池からの流入口より下流の水温、底質の状況、カワモズクの多い所の水位などについて、調査・研究を行い、必要があれば、カワモズクの生育に適した環境を増やしていく。具体的には、より下流にあたる部分の底質管理、ため池からの流入口の影響低減などが想定される。
- ・鳥類、昆虫類などの調査を順次行い、総合的にこの地の動植物や自然環境を把握していく。

利用者について

- ・以前から湧き水を利用していた人は、汲んでよいこととする。ただし、飲用には適さないことを看板で広報する。湧き水を汲みに来る人が多すぎるようになった場合は、さらに立ち入りを制限する看板を設置する。
- ・子ども達や大人がホトケドジョウやアメリカザリガニ、シュズダマなどの実を取って遊ぶことはよいこととする。ただし、ホトケドジョウはキャッチ&リリースを呼びかけ、乱獲によって絶滅することのないよう注意していく。アメリカザリガニは持ち帰り飼ってもよいが、他の野外へ放すことのないよう呼びかける。希少植物が取られてしまうような場合には看板を立てるなど、対策を取る。
- ・利用実態調査（利用形態、移動経路、市民意識）は必要に応じて行う。

自然観察会、外来動植物の除去活動、参加型調査などの開催

- ・年1～2回程度、市主催による谷田の泉の自然観察会を行う。
- ・外来動植物の除去活動、参加型の調査など一般募集を伴うイベントを行う。
- ・啓発活動及び調査結果などの公開（HP）は、常時行う。

ボランティアの育成

- ・観察会や外来動植物の除去活動など一般募集を伴うイベントを通じ、この地に関心を持つ人が管理活動に携われるようにする。
- ・ボランティア活動は、自然環境の保全という方針を逸脱しないよう、本計画に沿って行う。ボランティア団体が複数できた場合は、話し合いによって役割分担をする。

間伐した木材の活用

- ・ 柵や土留めとして利用する。
- ・ 休憩広場に丸太椅子などとして置く。

課題

ため池からの泉への水の流入について

今回の整備計画は、ため池からの流入水によって泥が流れ込み、カワモズクが付着する石を覆ってしまうことを防ぐためにろ過装を設置することとする。さらに泥が流入するようであれば、さらに方法を検討する。課題として、水温が上下するため池の水が湧水に混入して流れることによって、カワモズクの生育状況に影響が出るかどうかについて、今後、研究・検討していく必要がある。カワモズクに悪影響がある場合は、上流の流路を塞ぎ、より下流にため池からの水を引く整備工事を行うことが考えられる。

6-2-9 管理内容および管理の担い手

管理内容および管理の担い手については、下記の優先順位と望ましい担い手を参考とし、地元ボランティアと市で観察と相談をしながら内容と役割について決めていく。

管理の優先順位 [] 内は望ましい担い手

1. 園路周り、遊び場エリアの草刈りおよびゴミ清掃 [地元ボランティア]
2. 湿地の北側斜面のオオブタクサ（クワモドキ）刈り取り [地元ボランティア]
3. 泉の土手、東側草地の選択的草刈り [市と地元ボランティア]
4. 湿地の強壯外来植物（オオブタクサ（クワモドキ）、セイタカアワダチソウ、オランダガラシ、キショウブ、イヌキクイモ、オニウシノケグサ）の除去 [市と地元ボランティア]
5. 水路周りの草刈り [地元ボランティア]
6. ため池、斜面林の危険木・ゴミ除去、落枝・枯損木の状況に応じた除去 [市]
7. 調査、観察 [市と地元ボランティア]
8. 斜面林の間伐・枝打ち [市と地元ボランティア]

6-2-10 管理計画の改訂について

保全管理計画の改訂については、最新の調査に基づく根拠と、他地域の事例の検討を前提とする。その際、今回の調査、計画に関わった人の意見を聞き、有識者の監修を受け、入間市みどりの課が決定し、埼玉県の承認を受けるものとする。

参考・引用文献

- 「入間川再発見！」埼玉県西部地域博物館入間川展合同企画協議会. 2004
「アリッ！と驚く初公開」入間市博物館
(地域の自然とその生き立ちを探る～地学資料～). 2000
- 「アケボノゾウの足跡」入間川足跡化石発掘調査団. 入間市博物館 ALIT. 2003 改訂
「入間市史 植物編」入間市史編さん室編. 1984
「入間市の植物」武蔵植物友の会編集. 入間市教育委員会. 1973
「入間市の自然」入間市の自然発行調査会. 入間市. 1997
「入間市の植生」藤原一繪・福留晴子・藤間熙子・島田直明・渡辺美由紀・齋藤均. 神奈川植物学会. 入間市. 1997
- 飯田大和の自然教室「あさくらの自然」ホームページ
<http://www.yamato-iida.com/> (2010/01/20 閲覧)
- 「外来種ハンドブック」日本生態学会編. 2002
「植物生態の観察と研究」沼田真編. 1985
「新日本植物誌」大井次三郎. 至文堂. 1975 年改訂
「日本野生植物館」奥田重俊編集. 小学館. 1997
「日本の野生植物 木本・草本」平凡社. 1998
「日本外来植物種写真図鑑」清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 編著
全国農村教育協会. 2001
「牧草・毒草・雑草図鑑」清水矩宏・宮崎茂・森田弘彦・廣田伸七 編著
(社)畜産技術協会・全国農村教育協会. 2005
- 環境省植物目録 環境省自然環境局生物多様性センター (1987 年版、1994 年修正)
埼玉県植物誌 植物誌調査会編 埼玉県立自然史博物館 1962 年版
埼玉県植物誌 植物誌調査会編 埼玉県立自然史博物館 1998 年版
- 利根川中流域における外来植物オオブタクサの分布状況と発芽・生育特性
保全生態学研究 8. P11-24. 石井真一・高橋和雄・吉井弘明. 2003
- 埼玉植物通信 No. 28 さいたま植物資料研究会報 2006. 1. 30)
- 識別珪藻群法 ー珪藻を用いた河川の水質判定方法ー東京学芸大学の HP
[ttp://www.u-gakugei.ac.jp/~mayama/diatoms/DifferentiatingDiat.htm](http://www.u-gakugei.ac.jp/~mayama/diatoms/DifferentiatingDiat.htm)
- 「埼玉県レッドデータブック植物編」2005
「埼玉県レッドデータブック動物編」2008
- 水生植物および湿性植物の保全を目的とした耕作放棄水田の植生管理
関岡裕明・下田路子・中本学・水澤智・森本幸裕
ランドスケープ研究 p491-494. . 2000
- 休耕・耕作放棄水田の植物群落タイプと管理履歴の関係
ー茨城県南部桜川・小貝川流域を事例にしてー
楠本良延・大黒俊哉・井手任. 農村計画論文集第 7 集. 2005
- 水生植物および湿性植物の保全を目的とした耕作放棄水田の植生管理

関岡裕明・下田路子・中本学・水澤智・森本幸裕

ランドスケープ研究 p491-494. 2000

長野県姨捨地区の棚田畦畔法面の草刈り管理による植生変化

馬場多久男・曾根原昇・伊藤精悟・HmcaPpkh

信州大学農学部紀要, 第 39 巻第 1・2 号. 2003

山間地水田の土手管理による植生変化の考察－長谷村非持地区の実態調査Ⅱ－

伊藤精悟・HmcaPpkh・馬場多久男

信州大学農学部紀要, 第 30 巻第 2 号. 1993

4 都市域での植生管理, 4. 1. 3 種の異常繁殖. 亀井裕幸

「植生管理学」(福嶋司編) 130-135. 朝倉書店. 東京. 2005

資料編

フロラリスト

→配列・分類は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B1 林(落葉広葉樹林)	B2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地(湿地上斜面)	D2 草地(墓地下斜面)	D3 草地(西側)	D4 草地(東側)	D5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別 名
1	トクサ	Equisetaceae	<i>Equisetum arvense</i>	スギナ	○			○	○	○	○	○	○	○	○		ツクシ
2	ハナヤスリ	Ophioglossaceae	<i>Botrychium ternatum</i>	フユノハナワラビ	○					○							
3	ゼンマイ	Osmundaceae	<i>Osmunda japonica</i>	ゼンマイ	○	○											
4	フサシダ	Schizaeaceae	<i>Lygodium japonicum</i>	カニクサ	○	○			○					○			シヤミセンズル
5	コハノイシカグマ	Dennstaedtiaceae	<i>Pteridium aquilinum</i> var. <i>latiusculum</i>	ワラビ	○				○								
6	チャセンシダ	Aspleniaceae	<i>Asplenium sarelii</i>	コハノキシダ							○						
7	オシダ	Dryopteridaceae	<i>Arachniodes standishii</i>	リョウモンシダ	○												
8			<i>Cyrtomium fortunei</i> var. <i>clivicola</i>	ヤマヤブソテツ	○												
9			<i>Dryopteris erythrosora</i>	バニシダ	○												
10			<i>Dryopteris hondoensis</i>	オオバニシダ	○												
11			<i>Dryopteris lacera</i>	クマワラビ	○												
12			<i>Dryopteris uniformis</i>	オクマワラビ	○												
13			<i>Dryopteris varia</i> var. <i>setosa</i>	ヤマイタチシダ	○										○		
14			<i>Polystichum polyblepharum</i>	イノデ	○										○		
15	ヒメシダ	Thelypteridaceae	<i>Phegopteris decursivo-pinnata</i>	ゲジゲジシダ		○					○						
16			<i>Stegogramma pozoi</i> ssp. <i>mollissima</i>	ミンシダ	○	○									○		
17			<i>Thelypteris japonica</i>	ハリガネワラビ	○												
18			<i>Thelypteris viridifrons</i>	ミドリヒメワラビ												○	
19	メシダ	Athyriaceae	<i>Athyrium niponicum</i>	イヌワラビ	○	○			○					○			
20			<i>Athyrium yokoscense</i>	ヘビノネゴザ	○												
21			<i>Deparia conilii</i>	ホノバシケシダ										○			
22			<i>Deparia japonica</i>	シケシダ	○	○				○			○	○			
23			<i>Deparia pseudo-conilii</i>	フモトシケシダ	○									○			
24			<i>Onoclea sensibilis</i> var. <i>interrupta</i>	コウヤワラビ											○		

一配列・分類は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B1 林(落葉広葉樹林)	B2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地(湿地上斜面)	D2 草地(墓地下斜面)	D3 草地(西側)	D4 草地(東側)	D5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別名
25	ウラボシ	Polypodiaceae	<i>Lepisorus thunbergianus</i>	ノキシノブ		○											
26	マツ	Pinaceae	<i>Abies firma</i>	モミ	○												
27	スギ	Taxodiaceae	<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	○												
28	ヒノキ	Cupressaceae	<i>Chamaecyparis obtusa</i>	ヒノキ	○	○											
29			<i>Chamaecyparis pisifera</i>	サワラ	○									○			
30	マキ	Podocarpaceae	<i>Podocarpus macrophyllus</i>	イヌマキ	○												
31	イヌガヤ	Cephalotaxaceae	<i>Cephalotaxus harringtonia</i>	イヌガヤ	○												
32	クルマミ	Juglandaceae	<i>Juglans ailanthifolia</i>	オニグルミ	○												
33	ヤナギ	Salicaceae	<i>Salix integra</i>	イヌコリヤナギ				○									
34			<i>Salix subfragilis</i>	タチヤナギ											○		
35	ヤブコウジ	Myrsinaceae	<i>Ardisia japonica</i>	ヤブコウジ	○	○											
36	ブナ	Fagaceae	<i>Castanea crenata</i>	クリ	○	○						○					
37			<i>Lithocarpus edulis</i>	マテバシイ	○												
38			<i>Quercus acutissima</i>	クヌギ		○								○			
39			<i>Quercus glauca</i>	アラカシ	○	○											
40			<i>Quercus myrsinaefolia</i>	シラカシ	○	○								○		○	
41			<i>Quercus serrata</i>	コナラ	○	○											ハハソ
42	ニレ	Ulmaceae	<i>Aphananthe aspera</i>	ムクノキ	○	○					○					○	
43			<i>Celtis sinensis</i> var. <i>japonica</i>	エノキ	○	○			○	○	○	○					
44			<i>Zelkova serrata</i>	ケヤキ	○	○								○			
45	クワ	Moraceae	<i>Broussonetia kazinoki</i>	ヒメコウゾ	○	○											コウゾ
46			<i>Fatoua villosa</i>	クワクサ									○				
47			<i>Humulus japonicus</i>	カナムグラ	○	○		○									
48			<i>Morus alba</i>	マゴウ	○	○											

→配列・分類は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B 1 林(落葉広葉樹林)	B 2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D 1 草地(湿地上斜面)	D 2 草地(墓地下斜面)	D 3 草地(西側)	D 4 草地(東側)	D 5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別名
49	イラクサ	Urticaceae	<i>Boehmeria japonica</i> var. <i>longispica</i>	ヤブマオ	○						○			○			
50			<i>Boehmeria nipponivea</i>	カラムシ								○		○			
51			<i>Boehmeria nipponivea</i> var. <i>concolor</i>	アオカラムシ					○								
52			<i>Boehmeria platanifolia</i>	メヤブマオ	○												
53			<i>Pilea pumila</i>	アオミズ	○								○				
54	ビャクダン	Santalaceae	<i>Thestium chinense</i>	カナビキノソウ								○					
55	タデ	Polygonaceae	<i>Antenoron filiforme</i>	ミズヒキ	○	○					○		○				
56			<i>Fagopyrum cymosum</i>	シヤクチリソバ												○	
57			<i>Persicaria lapathifolia</i>	オオイヌタデ													
58			<i>Persicaria longiseta</i>	イヌタデ								○	○				
59			<i>Persicaria nipponensis</i>	ヤノネグサ								○	○				
60			<i>Persicaria perfoliata</i>	イシミカワ	○							○	○				
61			<i>Persicaria posumbu</i> var. <i>laxiflora</i>	ハナタデ									○				ヤブタデ
62			<i>Persicaria pubescens</i>	ボントクタデ											○		
63			<i>Persicaria sieboldii</i>	アキノウナギソバ				○						○			アキノウナギソバ
64			<i>Persicaria thunbergii</i>	ミゾソバ				○						○			ウシノヒタイ
65			<i>Persicaria thunbergii</i> var. <i>hastatotriloba</i>	オオミゾソバ				○						○			
66			<i>Polygonum hydropper</i>	ヤナギタデ											○		マタデ
67			<i>Polygonum senticosum</i>	ママコノシリヌグイ								○					
68			<i>Reynoutria japonica</i>	イタドリ	○				○					○			
69			<i>Rumex acetosa</i>	スイバ					○			○	○				
70			<i>Rumex crispus</i>	ナガバギンギン	○												
71			<i>Rumex japonicus</i>	ギンギン													○
72			<i>Rumex obtusifolius</i>	エゾノギンギン													○

→配列・分類は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B1 林(落葉広葉樹林)	B2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地(湿地上斜面)	D2 草地(墓地下斜面)	D3 草地(西側)	D4 草地(東側)	D5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別 名
73	ヤマゴボウ	Phytolaccaceae	<i>Phytolacca americana</i>	ヨウシュヤマゴボウ	○						○	○	○	○	○	○	アメリカヤマゴボウ
74	ザクロソウ	Molluginaceae	<i>Mollugo pentaphylla</i>	ザクロソウ	○						○	○	○				
75	スベリヒユ	Portulacaceae	<i>Portulaca oleracea</i>	スベリヒユ	○								○				
76	ナデシコ	Caryophyllaceae	<i>Arenaria serpyllifolia</i>	ハマツツリ					○								
77			<i>Cerastium glomeratum</i>	オランダミミナグサ	○									○			
78			<i>Cerastium holosteoides</i> var. <i>angustifolium</i>	ミミナグサ								○					
79			<i>Sagina japonica</i>	ツメクサ	○						○						
80			<i>Silene armeria</i>	ムシトリナデシコ	○												
81			<i>Stellaria alsine</i> var. <i>undulata</i>	ノミアスマ										○			
82			<i>Stellaria aquatica</i>	ウシハコベ	○				○		○	○	○			○	
83			<i>Stellaria media</i>	コハコベ	○						○						ハコベ
84			<i>Stellaria neglecta</i>	ミドリハコベ							○						ハコベ、ハコベラ
85	アカザ	Chenopodiaceae	<i>Chenopodium album</i>	シロザ										○			シロアカザ
86			<i>Chenopodium ficifolium</i>	コアカザ	○												
87			<i>Chenopodium pumilio</i> R. Br.	ゴウシュウアリタソウ	○												
88	ヒユ	Amaranthaceae	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>japonica</i>	ヒカゲイノコズチ	○				○								イノコズチ
89			<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>tomentosa</i>	ヒナタイノコズチ										○			
90			<i>Amaranthus viridis</i>	ホナガイヌビユ													アオビユ
91	モクレン	Magnoliaceae	<i>Magnolia praecocissima</i>	コブシ	○												
92			<i>Magnolia quinquepeta</i>	シモクレン	○												
93	マツブサ	Schisandraceae	<i>Kadsura japonica</i>	サネカズラ	○												ビナンカズラ
94	クスノキ	Lauraceae	<i>Cinnamomum camphora</i>	クスノキ	○												
95			<i>Machilus thunbergii</i>	タブノキ	○												イヌグス
96			<i>Neolitsea sericea</i>	シロダモ	○												

→配列・分類は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B 1 林(落葉広葉樹林)	B 2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D 1 草地(湿地上斜面)	D 2 草地(墓地下斜面)	D 3 草地(西側)	D 4 草地(東側)	D 5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別名
97	キンポウゲ	Ranunculaceae	<i>Clematis apiifolia</i>	ボタンヅル	○												
98			<i>Clematis apiifolia</i> var. <i>bitermata</i>	コボタンヅル	○	○											メボタンヅル
99			<i>Clematis terniflora</i>	センニンソウ	○	○			○	○	○			○	○	○	
100			<i>Ranunculus cantoniensis</i>	ケキツネノボタン							○			○	○		
101			<i>Ranunculus japonicus</i>	ウマノアシガタ										○			キンポウゲ
102			<i>Ranunculus silerifolius</i>	キツネノボタン											○		
103			<i>Thalictrum minus</i> var. <i>hypoleucum</i>	アキカラマツ	○	○			○	○	○			○			
104	メギ	Berberidaceae	<i>Nandina domestica</i>	ナンテン	○	○											
105	アケビ	Lardizabalaceae	<i>Akebia quinata</i>	アケビ	○	○				○	○			○			
106			<i>Akebia trifoliata</i>	ミツバアケビ	○	○											
107			<i>Stauntonia hexaphylla</i>	ムベ	○												
108	ツヅラフジ	Menispermaceae	<i>Cocculus orbiculatus</i>	アオツヅラフジ	○							○	○	○			カミエビ
109	ドクダミ	Saururaceae	<i>Houttuynia cordata</i>	ドクダミ	○	○		○			○		○	○	○	○	
110	センリョウ	Chloranthaceae	<i>Chloranthus serratus</i>	フタリシズカ	○												
111	ツバキ	Theaceae	<i>Eurya japonica</i>	ヒサカキ	○		○										
112			<i>Ternstroemia gymnanthera</i>	モッコク	○												
113			<i>Thea sinensis</i>	チャノキ	○	○			○	○					○	○	
114	オトギリソウ	Guttiferae	<i>Hypericum erectum</i>	オトギリソウ								○					
115			<i>Hypericum laxum</i>	コケオトギリ										○	○		
116	ケシ	Papaveraceae	<i>Corydalis incisa</i>	ムラサキケマン	○							○					
117			<i>Macleaya cordata</i>	タケニグサ	○												チャンパギク
118	アブラナ	Cruciferae	<i>Cardamine hirsuta</i>	ミチタネツケバナ	○												
119			<i>Capsella bursa-pastoris</i>	ナズナ							○						ペンペン草
120			<i>Cardamine flexuosa</i>	タネツケバナ										○	○		

→配列・分類は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B 1 林(落葉広葉樹林)	B 2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D 1 草地(湿地上斜面)	D 2 草地(墓地下斜面)	D 3 草地(西側)	D 4 草地(東側)	D 5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別名
121	アブラナ	Cruciferae	<i>Lepidium virginicum</i>	マメゲンバハナズナ									○				
122			<i>Nasturtium officinale</i>	オランダガラシ										○			
123			<i>Orychophragmus violaceus</i>	ハナダイコン													シヨカツサイ、 オオアラセイトウ
124			<i>Raphanus sativus</i>	ダイコン									○				
125			<i>Rorippa islandica</i>	スカシタゴボウ							○						
126	ベンケイソウ	Crassulaceae	<i>Sedum bulbiferum</i>	コモチマンネングサ						○							
127	ユキノシタ	Saxifragaceae	<i>Deutzia scabra</i>	マルバウツギ													
128			<i>Penthorum chinense</i>	タコノアシ											○		
129	バラ	Rosaceae	<i>Agrimonia japonica</i>	キンミズヒキ						○							
130			<i>Agrimonia nipponica</i>	ヒメキンミズヒキ										○			
131			<i>Chaenomeles japonica</i>	クサボケ						○							シドミ
132			<i>Duchesnea chrysantha</i>	ヘビイチゴ						○	○	○	○	○	○		
133			<i>Duchesnea indica</i>	ヤブヘビイチゴ						○	○	○	○	○	○		
134			<i>Potentilla fragarioides</i> var. <i>major</i>	キジムシロ								○					
135			<i>Potentilla freyniana</i>	ミツバツチグリ										○			
136			<i>Potentilla sundaica</i> var. <i>robusta</i>	オヘビイチゴ									○	○	○		
137			<i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>laevis</i>	カマツカ													ウシコロシ
138			<i>Prunus grayana</i>	ウワミズザクラ											○		
139			<i>Rhaphiolepis umbellata</i> var. <i>integerrima</i>	マルバシヤリンバイ													
140			<i>Rosa luciae</i>	アズマイバラ						○							オオフジイバラ、 ヤマテリハノイバラ
141			<i>Rosa multiflora</i>	ノイバラ					○	○	○	○	○	○	○		
142			<i>Rubus hirsutus</i>	クサイチゴ					○								
143			<i>Rubus microphyllus</i>	ニガイチゴ										○	○		
144			<i>Rubus palmatus</i> var. <i>coptophyllus</i>	モミジイチゴ													

→配列・分類は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B 1 林(落葉広葉樹林)	B 2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D 1 草地(湿地地上斜面)	D 2 草地(墓地下斜面)	D 3 草地(西側)	D 4 草地(東側)	D 5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別名
145	バラ	Rosaceae	<i>Rubus parvifolius</i>	ナワシロイチゴ	○				○	○		○		○			
146			<i>Sanguisorba officinalis</i>	ワレモコウ						○		○		○			
147			<i>Stephanandra incisa</i>	ココメウツギ	○												
148			<i>Prunus</i> sp.	サクラの1種		○											
149	マメ	Leguminosae	<i>Albizia julibrissin</i>	ネムノキ	○												
150			<i>Amorpha fruticosa</i>	イタチハギ								○			○		
151			<i>Amphicarpaea bracteata</i> ssp. <i>edgeworthii</i>	ヤブマメ	○				○		○		○		○		
152			<i>Cassia minosoides</i> ssp. <i>nomame</i>	カララケツメイ								○					
153			<i>Desmodium podocarpium</i> ssp. <i>oxyphyllum</i>	ヌスビトハギ	○						○		○				
154			<i>Desmodium podocarpium</i> var. <i>mandshuricum</i>	ヤブハギ	○												
155			<i>Glycine max</i> ssp. <i>soja</i>	ソルマメ											○		
156			<i>Kummerowia striata</i>	ヤハズノウ								○					
157			<i>Lespedeza cuneata</i>	メドハギ								○					
158			<i>Lespedeza pilosa</i>	ネコハギ								○					
159			<i>Maackia amurensis</i> var. <i>buergeri</i>	イヌエンジュ	○												
160			<i>Pueraria lobata</i>	クズ					○						○		
161			<i>Robinia pseudoacacia</i>	ハリエンジュ								○					ニセアカシヤ
162			<i>Trifolium pratense</i>	ムラサキツメクサ										○			アカツメクサ、 レッドクロローバー
163			<i>Trifolium repens</i>	シロツメクサ										○			クロローバー
164			<i>Vicia angustifolia</i>	ヤハズエンドウ	○				○	○	○	○	○	○	○	○	カラスノエンドウ
165			<i>Vicia hirsuta</i>	スズメノエンドウ						○							
166			<i>Vicia tetrasperma</i>	カスマグサ								○					
167	マメ	Leguminosae	<i>Wisteria floribunda</i>	フジ													
168	カタバミ	Oxalidaceae	<i>Oxalis corniculata</i>	カタバミ	○				○		○	○	○	○	○		

→配列・分類は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B 1 林(落葉広葉樹林)	B 2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D 1 草地(湿地上斜面)	D 2 草地(墓地下斜面)	D 3 草地(西側)	D 4 草地(東側)	D 5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別名
169	カタバミ	Oxalidaceae	<i>Oxalis corniculata f. rubrifolia</i>	アカカタバミ					○			○					
170			<i>Oxalis corymbosa</i>	ムラサキカタバミ										○			
171			<i>Oxalis fontana</i>	エゾタチカタバミ	○				○			○					
172	フウロソウ	Geraniaceae	<i>Geranium carolinianum</i>	アメリカフウロ	○				○			○				○	
173			<i>Geranium thunbergii</i>	ゲンバシヨウコ					○								フウロソウ
174	トウダイグサ	Euphorbiaceae	<i>Acalypha australis</i>	エノキグサ	○						○						
175			<i>Euphorbia cyathophora</i>	シヨウジヨウソウ									○				
176			<i>Euphorbia pseudochamaesyce</i>	ニシキノウ									○				
177			<i>Euphorbia supina</i>	ユニシキノウ	○						○						
178			<i>Mallotus japonicus</i>	アカメガシワ	○	○				○						○	
179	ユズリハ	Daphniphyllaceae	<i>Daphniphyllum macropodum</i>	ユズリハ	○	○											
180			<i>Daphniphyllum teijsmannii</i>	ヒメユズリハ	○												
181	ミカン	Rutaceae	<i>Zanthoxylum piperitum</i>	サンショウ	○	○										○	ハジガミ
182	ニガキ	Simaroubaceae	<i>Picrasma quassioides</i>	ニガキ	○												
183	センダン	Meliaceae	<i>Melia azedarach</i>	センダン							○						
184	ウルシ	Anacardiaceae	<i>Rhus javanica var. roxburgii</i>	ヌルデ	○								○				
185			<i>Rhus trichocarpa</i>	ヤマウルシ	○												
186	モチノキ	Aquifoliaceae	<i>Ilex crenata</i>	イヌツゲ	○	○											
187			<i>Ilex integra</i>	モチノキ	○												
188			<i>Ilex rotunda</i>	クロガネモチ	○												
189			<i>Ilex serrata</i>	ウメトドキ	○		○										オオバウメトドキ
190	ニシキギ	Celastraceae	<i>Celastrus orbiculatus</i>	ツルウメトドキ	○	○				○							
191			<i>Euonymus alatus f. ciliato-dentatus</i>	コマユミ	○												
192			<i>Euonymus fortunei var. radicans</i>	ツルマサキ	○	○											

→配列・分類は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B1 林(落葉広葉樹林)	B2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地(湿地上斜面)	D2 草地(墓地下斜面)	D3 草地(西側)	D4 草地(東側)	D5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別 名
193	ニシキギ	Celastraceae	<i>Euonymus sieboldianus</i>	マユミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
194	ミツバウツギ	Staphyleaceae	<i>Euscaphis japonica</i>	ゴンズイ	○	○											
195			<i>Ampelopsis glandulosa</i> var. <i>heterophylla</i>	ノブドウ					○	○	○	○	○	○	○		
196			<i>Cayratia japonica</i>	ヤブガラシ	○	○				○	○	○	○			○	ピンボウカズラ
197			<i>Parthenocissus tricuspidata</i>	ツタ	○	○	○	○			○			○		○	ナツツタ
198			<i>Vitis ficifolia</i> var. <i>lobata</i>	エビヅル					○	○				○			
199	シナノキ	Tiliaceae	<i>Corchoropsis tomentosa</i>	カラスノゴマ							○					○	
200	グミ	Elaeagnaceae	<i>Elaeagnus glabra</i>	ツルグミ	○												
201	スミレ	Violaceae	<i>Viola grypoceras</i>	タチツボスミレ	○	○				○	○	○	○	○	○		ニヨイスミレ
202			<i>Viola verecunda</i>	ツボスミレ								○		○	○		
203	ウリ	Cucurbitaceae	<i>Gynostemma pentaphyllum</i>	アマチャヅル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
204			<i>Melothria japonica</i>	スズメウリ												○	
205			<i>Trichosanthes cucumeroides</i>	カラスウリ	○	○					○	○	○				
206	アカバナ	Onagraceae	<i>Circaea mollis</i>	ミズタマソウ	○												
207			<i>Epilobium ciliatum</i>	ノダアカバナ											○		カラフトアカバナ
208			<i>Epilobium pyrricholophum</i>	アカバナ											○		
209			<i>Oenothera biennis</i>	メマツヨイグサ													アレチマツヨイグサ
210			<i>Oenothera rosea</i>	ユウゲショウ						○							
211	ミズキ	Cornaceae	<i>Aucuba japonica</i>	アオキ	○	○	○	○	○							○	
212			<i>Aucuba japonica</i>	フイリアオキ	○	○	○								○		
213			<i>Cornus controversa</i>	ミズキ	○	○	○							○		○	
214	ウコギ	Araliaceae	<i>Acanthopanax nipponicus</i>	オカウコギ	○												
215			<i>Aralia cordata</i>	ウド	○												
216			<i>Aralia elata</i>	タラノキ	○												

→配列・分類は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B1 林(落葉広葉樹林)	B2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地(湿地上斜面)	D2 草地(墓地下斜面)	D3 草地(西側)	D4 草地(東側)	D5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別 名
217	ウコギ	Araliaceae	<i>Dendropanax trifidus</i>	カクレミノ	○												
218			<i>Fatsia japonica</i>	ヤツデ	○												
219			<i>Hedera rhombea</i>	キツタ	○	○											フユヅタ
220	セリ	Umbelliferae	<i>Angelica decursiva</i>	ノダケ		○											
221			<i>Hydrocotyle maritima</i>	ノチドメ					○					○	○		
222			<i>Hydrocotyle ramiflora</i>	オオチドメ								○		○			
223			<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i>	チドメグサ						○	○	○		○			
224			<i>Oenanthe javanica</i>	セリ	○				○		○	○		○			
225			<i>Torilis japonica</i>	ヤブジラミ							○	○				○	
226			<i>Torilis scabra</i>	オヤブジラミ	○				○			○				○	
227	ヤブコウジ	Myrsinaceae	<i>Ardisia crenata</i>	マンリョウ	○		○										
228	サクラソウ	Primulaceae	<i>Lysimachia fortunei</i>	ヌマトラノオ									○				
229			<i>Lysimachia japonica f. subsessilis</i>	コナスビ	○					○			○				
230	カキノキ	Ebenaceae	<i>Diospyros kaki</i>	カキノキ	○												
231	エゴノキ	Styracaceae	<i>Styrax japonicus</i>	エゴノキ	○	○	○						○				
232	ハイノキ	Symplocaceae	<i>Symplocos chinensis f. pilosa</i>	サワフタギ	○	○	○										
233	モクセイ	Oleaceae	<i>Ligustrum japonicum</i>	ネズミモチ	○	○	○		○					○			
234			<i>Ligustrum lucidum</i>	トウネズミモチ	○	○	○								○		
235			<i>Ligustrum obtusifolium</i>	イボタノキ	○	○	○			○					○		
236			<i>Osmanthus heterophyllus</i>	ヒイラギ			○										
237	キョウチクトウ	Apocynaceae	<i>Trachelospermum asiaticum f. intermedium</i>	テйкаカズラ	○	○							○			○	
238	ガガイモ	Asclepiadaceae	<i>Cynanchum sublanceolatum</i>	コバノカモメヅル													○
239			<i>Metaplexis japonica</i>	ガガイモ													○
240	アカネ	Rubiaceae	<i>Galium gracilens</i>	ヒメヨツバムグラ													○

→配列・分類は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B1 林(落葉広葉樹林)	B2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地(湿地上斜面)	D2 草地(墓地下斜面)	D3 草地(西側)	D4 草地(東側)	D5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別 名
241	アカネ	Rubiaceae	<i>Galium spurium</i> var. <i>echinospermon</i>	ヤエムグラ	○	○		○	○		○	○		○			
242			<i>Galium trachyspermum</i> var. <i>trachyspermum</i>	ヨツバムグラ										○			
243			<i>Hedyotis diffusa</i>	フタバムグラ											○		
244			<i>Hedyotis lindleyana</i> var. <i>hirsuta</i>	ハシカグサ					○					○			
245			<i>Paederia scandens</i>	ヤイトバナ	○	○		○	○		○	○		○			ヘクソカズラ
246			<i>Rubia argyi</i>	アカネ		○			○		○	○		○			
247	ヒルガオ	Convolvulaceae	<i>Calystegia hederacea</i>	コヒルガオ	○							○	○				
248			<i>Ipomoea purpurea</i>	マルバアサガオ									○				
249	ムラサキ	Boraginaceae	<i>Bothriospermum tenellum</i>	ハナイバナ	○												
250			<i>Trigonotis peduncularis</i>	キユウリグサ	○				○				○				
251	クマツヅラ	Verbenaceae	<i>Callicarpa japonica</i>	ムラサキシキブ	○		○										
252			<i>Clerodendrum trichotomum</i>	クサギ	○	○			○		○			○			
253	シソ	Labiatae	<i>Ajuga decumbens</i>	キラシソ													ジゴクノカマノアタ
254			<i>Glechoma hederacea</i> var. <i>grandis</i>	カキドオシ	○	○		○	○		○	○	○	○		○	
255			<i>Lamium amplexicaule</i>	ホトケノザ						○							
256			<i>Lamium purpureum</i>	ヒメオドリコソウ	○				○		○	○		○			
257			<i>Mentha spicata</i> L. var. <i>spicata</i>	オランダハッカ				○									
258			<i>Mosla dianthera</i>	ヒメシソ											○		
259			<i>Salvia japonica</i>	アキノタムラソウ	○	○								○	○		
260	ナス	Solanaceae	<i>Lycium chinense</i>	クコ					○								
261			<i>Physalis alkekengi</i> var. <i>franchetii</i>	ホオズキ	○												
262			<i>Solanum lycopersicum</i>	トマト													○
263			<i>Solanum ptycanthum</i>	アメリカイヌホオズキ													○
264			<i>Solanum tuberosum</i>	ジャガイモ	○												

→配列・分類(は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B 1 林(落葉広葉樹林)	B 2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D 1 草地(湿地上斜面)	D 2 草地(墓地下斜面)	D 3 草地(西側)	D 4 草地(東側)	D 5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別名
265	ゴマノハグサ	Scrophulariaceae	<i>Lindernia crustacea</i>	ウリクサ									○				
266			<i>Lindernia procumbens</i>	アゼナ							○						
267			<i>Mazus miquelii</i>	ムラサキサギゴケ										○			
268			<i>Mazus pumilus</i>	トキワハゼ									○				
269			<i>Veronica arvensis</i>	タチイヌノフグリ							○			○			
270			<i>Veronica persica</i>	オオイヌノフグリ						○	○			○			
271	ノウゼンカズラ	Bignoniaceae	<i>Paulownia tomentosa</i>	キリ					○							○	
272	キツネノマゴ	Acanthaceae	<i>Justicia procumbens</i>	キツネノマゴ							○			○			
273	ハマウツボ	Orobanchaceae	<i>Aeginetia indica</i>	ナンバンギセル								○					
274	ハエドクソウ	Phrymaceae	<i>Phryma leptostachya</i> ssp. <i>asiatica</i>	ハエドクソウ			○								○		
275			<i>Phryma leptostachya</i> var. <i>asiatica foblongifolia</i>	ナガバハエドクソウ													
276	オオバコ	Plantaginaceae	<i>Plantago asiatica</i>	オオバコ						○			○				
277			<i>Plantago lanceolata</i>	ヘラオオバコ								○					
278			<i>Plantago virginica</i>	ツボミオオバコ						○							
279	スイカズラ	Caprifoliaceae	<i>Lonicera gracilipes</i>	ヤマウグイスカグラ			○										
280			<i>Lonicera japonica</i>	スイカズラ			○		○					○	○		ニンドウ
281			<i>Sambucus racemosa</i> ssp. <i>sieboldiana</i>	ニワトコ			○		○					○	○		
282			<i>Viburnum dilatatum</i>	ガマズミ			○						○				
283	キキョウ	Campanulaceae	<i>Adenophora triphylla</i> var. <i>japonica</i>	ツリガネニンジン						○				○			
284			<i>Campanula punctata</i> var. <i>hondoensis</i>	ヤマホタルブクロ								○					
285	キク	Compositae	<i>Ambrosia artemisiifolia</i> var. <i>elator</i>	ブタクサ					○								
286			<i>Ambrosia trifida</i>	オオブタクサ			○		○					○	○		クワモドキ
287			<i>Artemisia princeps</i>	ヨモギ			○		○					○	○		
288			<i>Aster ageratoides</i> ssp. <i>ovatus</i>	ノコンギク											○		

→配列・分類は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B 1 林(落葉広葉樹林)	B 2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D 1 草地(湿地上斜面)	D 2 草地(墓地下斜面)	D 3 草地(西側)	D 4 草地(東側)	D 5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別名
289	キク	Compositae	<i>Bidens frondosa</i>	アメリカセンダングサ				○				○	○	○	○	○	セイタカウコギ
290			<i>Bidens pilosa</i>	コセンダングサ					○				○	○			
291			<i>Bidens pilosa</i> var. <i>minor</i>	シロノセンダングサ									○				シロバナセンダングサ、 コシロノセンダングサ
292			<i>Centipeda minima</i>	トキンノウ									○				
293			<i>Cirsium japonicum</i>	ノアザミ								○		○			
294			<i>Cirsium oligophyllum</i>	ノハラアザミ										○	○		
295			<i>Conyza sumatrensis</i>	オオアレチノギク									○	○	○		
296			<i>Coreopsis tinctoria</i>	ハルシヤギク													
297			<i>Eclipta prostrata</i>	タカサブロウ							○						
298			<i>Erechtites hieracifolia</i>	ダンロボロギク							○						
299			<i>Erigeron canadensis</i>	ヒメムカシヨモギ									○	○			
300			<i>Erigeron philadelphicus</i>	ハルジオン							○			○	○	○	ハルジオン
301			<i>Galinoga ciliata</i>	ハキダメギク									○				
302			<i>Gnaphalium affine</i>	ハハコグサ									○				ホオコグサ
303			<i>Gnaphalium pensylvanicum</i>	チチコグサモドキ									○				
304			<i>Helianthus strumosus</i>	イヌキクイモ					○						○		
305			<i>Hemistepta lyrata</i>	キツネアザミ					○								
306			<i>Hypochoeris radicata</i>	ブタナ										○			
307			<i>Ixeris debilis</i>	オオジシバリ										○			
308			<i>Ixeris dentata</i>	ニガナ										○			
309			<i>Kalimeris pinnatifida</i>	ユウガギク				○	○	○				○	○		
310			<i>Lactuca indica</i> var. <i>indica</i>	アキノノゲン													○
311			<i>Lactuca indica</i> f. <i>indivisa</i>	ホソバアキノノゲン													
312			<i>Lapsana humilis</i>	ヤブタバコ													○

一配列・分類は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B1 林(落葉広葉樹林)	B2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地(湿地上斜面)	D2 草地(墓地下斜面)	D3 草地(西側)	D4 草地(東側)	D5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別 名	
313	キク	Compositae	<i>Picris hieracioides</i> var. <i>glabrescens</i>	コウゾリナ														
314			<i>Senecio vulgaris</i>	ノボロギク	○													
315			<i>Gnaphalium spicatum</i> Lam.	ウラジロチチコグサ								○				○		
316			<i>Solidago altissima</i>	セイタカアワダチソウ							○			○				
317			<i>Solidago virgaurea</i> var. <i>asiatica</i>	アキノキリンソウ											○			
318			<i>Sonchus asper</i>	オニノゲシ	○				○									
319			<i>Sonchus oleraceus</i>	ノゲシ					○									ハルノノゲシ
320			<i>Stenactis annuus</i>	ヒメジョオン	○						○					○		
321			<i>Taraxacum officinale</i>	セイヨウタンポポ	○													
322			<i>Taraxacum platycarpum</i>	カントウタンポポ								○						
323			<i>Youngia japonica</i>	オニタビラコ	○				○									
324	ユリ	Liliaceae	<i>Allium grayi</i>	ノビル	○													
325			<i>Allium tuberosum</i>	ニラ					○									
326			<i>Disporum sessile</i>	ホウチャクソウ	○		○											
327			<i>Disporum smilacinum</i>	チゴユリ	○													
328			<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>kwanso</i>	ヤブカンゾウ											○			ワスレナグサ
329			<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>longituba</i>	ノカンゾウ					○						○			
330			<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>longituba</i> cv.	ノカンゾウ(品種)											○			
331			<i>Hosta sieboldii</i> f. <i>lancifolia</i>	コバギボウシ							○					○		
332			<i>Lilium lancifolium</i>	オニユリ								○						テンガイユリ
333			<i>Liriope minor</i>	ヒメヤブラン										○				
334			<i>Liriope muscari</i>	ヤブラン	○		○		○					○		○		
335			<i>Ophiopogon japonicus</i>	ジャノヒゲ	○		○		○					○		○		リュウノヒゲ
336			<i>Ophiopogon ohwii</i>	ナガバジャノヒゲ	○		○		○					○		○		

→配列・分類は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B1 林(落葉広葉樹林)	B2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地(湿地上斜面)	D2 草地(墓地下斜面)	D3 草地(西側)	D4 草地(東側)	D5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別名
337	ユリ	Liliaceae	<i>Ophiopogon planiscapus</i>	オオバジヤノヒゲ	○	○		○							○		
338			<i>Rohdea japonica</i>	オモト	○	○	○								○		
339			<i>Scilla scilloides</i>	ソルボ					○	○	○			○			
340			<i>Smilax china</i>	サルトリイバラ	○	○											
341			<i>Smilax nipponica</i>	タチシオデ	○	○	○										
342			<i>Smilax riparia</i> var. <i>ussuriensis</i>	シオデ	○												
343			<i>Tulipa edulis</i>	アマナ										○			
344	ヒガンバナ	Amaryllidaceae	<i>Lycoris radiata</i>	ヒガンバナ									○	○	○		マンジュシヤゲ
345			<i>Lycoris sanguinea</i>	キツネノカミソリ			○										
346	ヤマノイモ	Dioscoreaceae	<i>Dioscorea batatas</i>	ナガイモ						○	○						
347			<i>Dioscorea japonica</i>	ヤマノイモ	○	○	○				○				○	○	シネンジョウ
348			<i>Dioscorea tokoro</i>	オニドコロ	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	トコロ
349	アヤメ	Iridaceae	<i>Iris pseudacorus</i>	キシヨウブ				○	○								
350			<i>Sisyrinchium atlanticum</i>	ニワゼキショウ					○								
351			<i>Tritonia × crocosmaeflora</i>	ヒメヒオウギズイセン	○												
352	イグサ	Juncaceae	<i>Juncus effusus</i> var. <i>decipiens</i>	イ								○			○		イグサ
353			<i>Juncus leschenaultii</i>	コウガイゼキショウ											○		ヒラコウガイゼキショウ
354			<i>Juncus papillosus</i>	アオコウガイゼキショウ											○		
355			<i>Juncus tenuis</i>	クサイ	○								○				シラネイ
356			<i>Luzula capitata</i>	スズメノヤリ	○							○					
357	ツユクサ	Commelinaceae	<i>Commelina communis</i>	ツユクサ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
358			<i>Pollia japonica</i>	ヤブミヨウガ													
359	イネ	Gramineae	<i>Agropyron racemiterum</i>	アオカモジグサ													タチカモジグサ
360			<i>Agropyron tsukushiense</i> var. <i>transiens</i>	カモジグサ	○				○	○	○	○	○	○	○		

→配列・分類は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B1 林(落葉広葉樹林)	B2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地(湿地上斜面)	D2 草地(墓地下斜面)	D3 草地(西側)	D4 草地(東側)	D5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別 名
361	イネ	Gramineae	<i>Agrostis alba</i>	コスガグサ								○			○		レッドトツブ
362			<i>Agrostis clavata</i> ssp. <i>matsumurae</i>	ヌカボ							○		○				
363			<i>Alopecurus aequalis</i>	スズメノテッポウ	○										○		
364			<i>Alopecurus aequalis</i> Sobol. var. <i>aequalis</i>	ノハラスズメノテッポウ									○				
365			<i>Arthraxon hispidus</i>	コブナグサ										○			
366			<i>Arundinella hirta</i>	トダシバ								○					
367			<i>Beckmannia syzigachne</i>	ミノゴメ								○					カズノコグサ
368			<i>Bromus catharticus</i>	イヌムギ					○	○				○			
369			<i>Bromus japonicus</i>	スズメノチヤヒキ					○	○							
370			<i>Bromus pauciflorus</i>	キツネガヤ											○		
371			<i>Coix lacryma-jobi</i>	ジュズダマ											○		
372			<i>Digitaria ciliaris</i>	メヒシバ							○		○				
373			<i>Digitaria radicata</i>	コメシバ										○			
374			<i>Digitaria violascens</i>	アキメシバ							○		○				
375			<i>Eccoilopus cotulifer</i>	アブラススキ						○							
376			<i>Echinochloa crus-galli</i>	イヌビエ							○		○		○		ノビエ
377			<i>Eleusine indica</i>	オヒシバ							○						
378			<i>Eragrostis ferruginea</i>	カゼクサ									○				
379			<i>Eragrostis multicaulis</i>	ニワホコリ	○												
380			<i>Eragrostis poaeoides</i>	コスズメガヤ									○				
381			<i>Eriochloa villosa</i>	ナルコビエ									○				
382			<i>Festuca arundinacea</i>	オニウシノケグサ											○		トールフェスク
383			<i>Festuca parvigluma</i>	トボシガラ	○							○			○		
384			<i>Glyceria ischyronoura</i>	ドジョウツナギ											○		

→配列・分類は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B1 林(落葉広葉樹林)	B2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地(湿地上斜面)	D2 草地(墓地下斜面)	D3 草地(西側)	D4 草地(東側)	D5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別 名
385	イネ	Gramineae	<i>Hemarthria sibirica</i>	ウシバシツペイ													
386			<i>Imperata cylindrica</i>	チガヤ										○			
387			<i>Imperata cylindrica</i> (L.) Beauvar. var. <i>koenigii</i>	フシゲチガヤ								○					
388			<i>Isachne globosa</i>	チゴザサ											○		
389			<i>Leersia japonica</i>	アシカキ											○		
390			<i>Leersia oryzoides</i>	エゾノサヤヌカグサ											○		
391			<i>Leersia sayanuka</i>	サヤヌカグサ				○							○		
392			<i>Lolium multiflorum</i>	ネズミムギ					○						○		イタリアンライグラス
393			<i>Lolium multiflorum</i> f. <i>ramosum</i>	エダウチネズミムギ	○												イタリアンライグラス
394			<i>Lolium perenne</i>	ホソムギ						○							ペレニアムライグラス
395			<i>Microstegium japonicum</i>	ササガヤ				○						○			
396			<i>Microstegium vimineum</i>	ヒメアシボソ										○			
397			<i>Microstegium vimineum</i> var. <i>polystachyum</i>	アシボソ	○			○						○			
398			<i>Miscanthus sinensis</i>	ススキ					○					○			カヤ
399			<i>Muhlenbergia japonica</i>	ネズミガヤ										○			
400			<i>Oplismenus undulatifolius</i>	ケチヂミザサ	○				○					○			
401			<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>japonicus</i>	コチヂミザサ	○									○			チヂミザサ
402			<i>Panicum bisulcatum</i>	ヌカキビ											○		
403			<i>Paspalum thunbergii</i>	スズメノヒエ										○			
404			<i>Pennisetum alopecuroides</i> f. <i>purpurascens</i>	チカラシバ										○			
405			<i>Phalaris arundinacea</i>	クサヨシ	○												
406			<i>Phragmites australis</i>	ヨシ													アシ
407			<i>Arundinaria ramosa</i>	アズマザサ													
408			<i>Pleiblastus chinio</i>	アズマネザサ	○												

→配列・分類は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B1 林(落葉広葉樹林)	B2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地(湿地上斜面)	D2 草地(墓地下斜面)	D3 草地(西側)	D4 草地(東側)	D5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別 名
409	イネ	Gramineae	<i>Poa acroleuca</i>	ミノイチゴツナギ													
410			<i>Poa annua</i>	スズメノカタビラ													
411			<i>Poa hisauchi</i>	ヤマミノイチゴツナギ													
412			<i>Poa pratensis</i>	ナガハグサ													ケンタッキーパーブルーグラス
413			<i>Setaria faberi</i>	アキノエノコログサ													
414			<i>Setaria pallide-fusca</i>	コツブキンエノコロ													
415			<i>Setaria pumila</i>	キンエノコロ													
416			<i>Setaria x pycnocomma</i>	オオエノコロ													
417			<i>Setaria viridis</i>	エノコログサ													
418			<i>Sporobolus fertilis</i>	ネズミノオ													
419			<i>Trisetum bifidum</i>	カニツリグサ													
420	ヤシ	Palmae	<i>Trachycarpus fortunei</i>	シユロ													ワジユロ
421			<i>Trachycarpus wagnerianus</i>	トウジユロ													
422	サトイモ	Araceae	<i>Acorus gramineus</i>	セキシヨウ													
423			<i>Arisaema thunbergii</i> ssp. <i>urashima</i>	ウラシマソウ													
424			<i>Colocasia esculenta</i> Schott	サトイモ													
425			<i>Pinellia ternata</i>	カラスビシヤク													
426	ガマ	Typhaceae	<i>Typha angustifolia</i>	ヒメガマ													
427			<i>Typha latifolia</i>	ガマ													
428			<i>Typha orientalis</i>	コガマ													
429	カヤツリグサ	Cyperaceae	<i>Carex alterniflora</i> var. <i>alterniflora</i>	シロイトスゲ													
430			<i>Carex breviculmis</i>	アオスゲ													
431			<i>Carex confertiflora</i>	ミヤマシラスゲ													
432			<i>Carex conica</i>	ヒメカンスゲ													

→配列・分類は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B1 林(落葉広葉樹林)	B2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地(湿地土斜面)	D2 草地(墓地下斜面)	D3 草地(西側)	D4 草地(東側)	D5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別名
433	カヤツリグサ	Cyperaceae	<i>Carex dickinsii</i>	オニスゲ											○		ミクリスゲ
434			<i>Carex dimorpholepis</i>	アゼナルコ								○			○		アゼナルコスゲ
435			<i>Carex gibba</i>	マスコサ							○						マスコサスゲ
436			<i>Carex heterolepis</i>	ヤマアゼスゲ											○		
437			<i>Carex incisa</i>	カワラスゲ													タニスゲ
438			<i>Carex japonica</i>	ヒゴクサ													
439			<i>Carex lanceolata</i>	ヒカゲスゲ						○							
440			<i>Carex lenta</i>	ナキリスゲ													
441			<i>Carex leucochlora</i> var. <i>aphanandra</i>	メアオスゲ										○			
442			<i>Carex maximowiczii</i>	ゴウソ										○			
443			<i>Carex nervata</i>	シバスゲ										○			
444			<i>Carex parviflora</i> var. <i>macroglossa</i>	コジュズスゲ										○			
445			<i>Carex thunbergii</i>	アゼスゲ											○		
446			<i>Carex transversa</i>	ヤワラスゲ											○		
447			<i>Cyperus amuricus</i>	チャガヤツリ									○				
448			<i>Cyperus brevifolius</i> var. <i>leiolepis</i>	ヒメクグ										○			
449			<i>Cyperus globosus</i>	アゼガヤツリ											○		
450			<i>Cyperus iria</i>	コゴメガヤツリ											○		
451			<i>Cyperus microiria</i>	カヤツリグサ											○		キガヤツリ
452			<i>Cyperus sanguinolentus</i>	カワラスガナ													
453			<i>Fimbristylis miliacea</i>	ヒデリコ													
454			<i>Lipocarpa microcephala</i>	ヒンジガヤツリ													
455			<i>Scirpus tabernaemontani</i>	フトイ													
456			<i>Scirpus triqueter</i>	サンカクイ													

→配列・分類は環境省目録を優先

配列	科名(和名)	科名(学名)	種名(学名)	和名	A 林(常緑針葉樹林)	B1 林(落葉広葉樹林)	B2 林(落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地(湿地斜面上)	D2 草地(墓地下斜面)	D3 草地(西側)	D4 草地(東側)	D5 草地(林縁)	E 泉周辺の刈り取り草地	F 湿地	G 茶畑	別名	
457	シヨウガ	Zingiberaceae	<i>Zingiber mioga</i>	ミヨウガ	○			○					○					
458	ラン	Orchidaceae	<i>Spiranthes sinensis</i>	ネジバナ								○					モジズリ	
紅藻類																		
	カワモズク	Batrachospermaceae	<i>Batrachospermum moniliforme</i>	カワモズク				○										
苔類																		
	ウキゴケ	Ricciaceae	<i>Ricciocarpos natans</i>	イチヨウウキゴケ														○
			<i>Riccia fluitans</i>	ウキゴケ														○

フロラリスト(50音順)

和名	A林 (常緑針葉樹林)	B1林 (落葉広葉樹林)	B2林 (落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地 (湿地上斜面)	D2 草地 (墓地下斜面)	D3 草地 (原っぱ用地)	D4 草地 (東側)	D5 草地 (林縁)	E 泉 周辺 の 刈 り 取 り 草 地	F 湿 地	G 茶 畑
アオカモジグサ						○		○				
アオカラムシ						○						
アオキ	○	○	○	○	○							○
アオコウガイゼキショウ											○	
アオスゲ										○		
アオツツラフジ	○							○	○	○		
アオビユ → ホナガイヌビユ												
アオミズ	○								○		○	
アカカタバミ						○			○			
アカツメクサ → ムラサキツメクサ												
アカネ		○				○	○	○		○	○	
アカバナ											○	
アカメガシワ	○	○	○			○			○		○	○
アキカラマツ	○	○				○	○			○		
アキノウナギツカミ				○						○	○	
アキノウナギヅル → アキノウナギツカミ												
アキノエノコログサ											○	
アキノキリンソウ											○	
アキノタムラソウ	○	○								○	○	
アキノノゲシ								○			○	○
アキメヒシバ							○		○			
アケビ	○	○	○			○	○		○	○	○	
アシ → ヨシ												
アシカキ											○	
アシボソ	○			○			○				○	○
アズマイバラ						○						
アズマザサ								○				
アズマネザサ	○							○	○			
アゼガヤツリ											○	
アゼスゲ											○	
アゼナ							○					
アゼナルコ								○			○	
アゼナルコスゲ → アゼナルコ												
アブラスキ						○						
アマチャヅル	○	○	○		○	○	○			○	○	○
アマナ										○		
アメリカイヌホオズキ							○	○	○			
アメリカセンダングサ				○				○	○	○	○	○

和名	A林 (常緑針葉樹林)	B1林 (落葉広葉樹林)	B2林 (落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地 (湿地 上斜面)	D2 草地 (墓地 下斜面)	D3 草地 (原っぱ 用地)	D4 草地 (東側)	D5 草地 (林縁)	E 泉 周 辺 の 刈 り 取 り 草 地	F 湿 地	G 茶 畑
アメリカフウロ	○					○	○	○	○	○		○
アメリカヤマゴボウ → ヨウシュヤマゴボウ												
アラカシ	○	○	○									
アレチマツヨイグサ → メマツヨイグサ												
イ								○		○	○	
イグサ → イ												
イシミカワ	○							○			○	○
イタチハギ								○			○	
イタドリ	○				○					○		
イタリアンライグラス → エダウチネズミムギ												
イタリアンライグラス → ネズミムギ												
イチョウウキゴケ											○	
イヌエンジュ	○											
イヌガヤ	○											
イヌククイモ					○						○	
イヌグス → タブノキ												
イヌコリヤナギ				○								
イヌタデ								○	○		○	
イヌツゲ	○	○	○									
イヌビエ							○		○		○	
イヌマキ	○											
イヌムギ					○	○	○			○		
イヌワラビ	○	○	○		○			○		○		○
イノコズチ → ヒカゲイノコズチ												
イノデ	○										○	
イボタノキ	○	○	○			○					○	○
ウキゴケ											○	
ウシコロシ → カマツカ												
ウシノシツペイ											○	
ウシノヒタイ → ミゾソバ												
ウシハコベ	○				○		○	○	○		○	○
ウド	○											
ウマノアシガタ										○		
ウメモドキ	○		○									
ウラシマソウ	○											
ウラジロチチコグサ									○			○
ウリクサ									○			
ウワミズザクラ	○	○	○	○								

和名	A林 (常緑針葉樹林)	B1林 (落葉広葉樹林)	B2林 (落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地 (湿地上斜面)	D2 草地 (墓地下斜面)	D3 草地 (原っぱ用地)	D4 草地 (東側)	D5 草地 (林縁)	E 泉 周 辺 の 刈 り 取 り 草 地	F 湿 地	G 茶 畑
エゴノキ	○	○	○						○			
エゾタチカタバミ	○					○	○	○	○			
エゾノギシギシ							○				○	
エゾノサヤヌカグサ											○	
エダウチネズミムギ	○											
エノキ	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○
エノキグサ	○						○		○	○		
エノコログサ										○		
エビヅル						○		○		○		
オオアラセイトウ → ハナダイコン												
オオアレチノギク									○	○	○	
オオイヌタデ											○	
オオイヌノフグリ	○					○	○		○	○	○	
オオエノコロ										○		
オオジシバリ						○		○		○		
オオチドメ								○		○		
オオバウメモドキ → ウメモドキ												
オオバコ						○			○	○		
オオバジャノヒゲ	○	○			○						○	
オオフジイバラ → アズマイバラ												
オオブタクサ	○				○		○	○		○	○	○
オオベニシダ	○											
オオミゾソバ				○				○			○	
オカウコギ	○		○									
オクマワラビ	○											
オトギリソウ								○				
オニウシノケグサ										○	○	
オニグルミ	○											
オニスゲ											○	
オニタビラコ	○				○	○	○	○		○		
オニドコロ	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○
オニノゲシ	○				○	○		○	○	○		
オニユリ								○				
オヒシバ							○			○		
オヘビイチゴ								○	○	○	○	
オモト	○	○	○								○	
オヤブヅラミ	○				○		○	○			○	○
オランダガラシ										○	○	

和名	A林 (常緑針葉樹林)	B1林 (落葉広葉樹林)	B2林 (落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地 (湿地上斜面)	D2 草地 (墓地下斜面)	D3 草地 (原っぱ用地)	D4 草地 (東側)	D5 草地 (林縁)	E 泉 周辺 の 刈 り 取 り 草 地	F 湿 地	G 茶 畑
オランダハッカ				○							○	
オランダミミナグサ	○									○		
ガガイモ							○	○				
カキドオシ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
カキノキ	○											
カクレミノ	○											
カズノコグサ → ミノゴメ												
カスマグサ								○				
カゼクサ									○	○		
カタバミ	○				○		○	○	○	○	○	
カナビキソウ								○				
カナムグラ	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○
カニクサ	○	○					○			○	○	
カニツリグサ	○						○	○		○	○	○
ガマ											○	
ガマズミ	○	○	○						○			
カマツカ	○		○									
カミエビ → アオツヅラフジ												
カモジグサ	○				○	○	○	○			○	
カヤツリグサ									○			
カラスウリ	○	○					○	○	○			
カラスノエンドウ → ヤハズエンドウ												
カラスノゴマ							○		○			○
カラスビシヤク	○				○	○	○			○		
カラフトアカバナ → ノダアカバナ												
カラムシ								○		○		
カワモズク				○							○	
カワラケツメイ								○				
カワラスガナ										○		
カワラスゲ	○											
カントウタンポポ								○		○		
キガヤツリ → カヤツリグサ												
ギンギン							○				○	
キジムシロ								○				
キショウブ				○	○					○	○	○
キツタ	○	○	○									
キツネアザミ	○				○		○	○				

和名	A林 (常緑針葉樹林)	B1林 (落葉広葉樹林)	B2林 (落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地 (湿地上斜面)	D2 草地 (墓地下斜面)	D3 草地 (原っぱ用地)	D4 草地 (東側)	D5 草地 (林縁)	E 泉 周辺 の 刈 り 取 り 草 地	F 湿 地	G 茶 畑
キツネガヤ											○	
キツネノカミソリ		○										
キツネノボタン											○	
キツネノマゴ							○		○	○		○
キュウリグサ	○					○			○			
キラソウ										○		
キリ					○							○
キンエノコロ										○		
キンボウゲ → ウマノアシガタ												
キンミズヒキ						○	○			○		
クコ					○							
クサイ	○								○			
クサイチゴ					○			○				○
クサギ	○	○				○	○			○	○	
クサボケ						○				○		
クサヨシ	○							○			○	
クズ					○			○			○	
クスノキ	○											
クヌギ		○									○	
クマワラビ	○											
クリ	○	○	○					○				
クローバー → シロツメクサ												
クロガネモチ	○											
クワクサ							○		○			○
クワモドキ → オオブタクサ												
ケキツネノボタン							○			○	○	
ゲジゲジシダ		○								○		
ケチヂミザサ	○	○				○	○	○		○	○	○
ケヤキ	○	○	○							○		○
ケンタッキブルーグラス → ナガハグサ												
ゲンノショウコ					○					○	○	
コアカザ	○											
コウガイゼキショウ										○	○	
ゴウシュウアリタソウ	○											
ゴウソ	○							○		○	○	
コウゾ → ヒメコウゾ												
コウゾリナ						○		○				
コウヤワラビ											○	

和名	A林 (常緑針葉樹林)	B1林 (落葉広葉樹林)	B2林 (落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地 (湿地上斜面)	D2 草地 (墓地下斜面)	D3 草地 (原っぱ用地)	D4 草地 (東側)	D5 草地 (林縁)	E 泉 周辺 の 刈 り 取 り 草 地	F 湿 地	G 茶 畑
コガマ											○	
コケオトギリ										○	○	
コゴメウツギ	○											
コゴメガヤツリ							○		○		○	
コジュズスゲ							○			○	○	
コシロノセンダングサ → シロノセンダングサ												
コスズメガヤ									○			
コセンダングサ						○			○	○		
コチヂミザサ	○	○					○		○		○	○
コツブキンエノコロ									○			
コナスビ	○					○			○	○		
コナラ	○	○										
コニシキソウ	○						○		○	○		
コヌカグサ								○			○	
コバギボウシ							○				○	○
コハコベ	○					○	○				○	
コバノカモメヅル												○
コバノヒノキシダ										○		
コヒルガオ	○							○	○			
コブシ	○		○								○	
コブナグサ										○	○	
コボタンヅル	○	○										
コマユミ	○		○									
コメヒシバ										○		
コモチマンネングサ	○					○		○			○	
ゴンズイ	○	○										
サクラの1種		○										
ザクロソウ	○						○		○			
ササガヤ				○						○		
サトイモ												○
サネカズラ	○											
サヤヌカグサ				○							○	
サルトリイバラ	○	○										
サワフタギ	○		○									
サワラ	○									○		
サンカクイ											○	
サンショウ	○	○	○								○	○
シオデ	○											

和名	A林 (常緑針葉樹林)	B1林 (落葉広葉樹林)	B2林 (落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地 (湿地上斜面)	D2 草地 (墓地下斜面)	D3 草地 (原っぱ用地)	D4 草地 (東側)	D5 草地 (林縁)	E 泉 周辺 の 刈 り 取 り 草 地	F 湿 地	G 茶 畑
シケシダ	○	○				○			○	○	○	
ジゴクノカマノフタ → キランソウ												
シドミ → クサボケ												
ジネンジョウ → ヤマノイモ												
シバスゲ										○		
シモクレン	○											
ジャガイモ	○											
シャクチリソバ												○
ジャノヒゲ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
シャミセンズル → カニクサ												
ジュズダマ											○	
シュロ	○	○	○	○	○							○
ショウジョウソウ									○			
ショカツサイ → ハナダイコン												
シラカン	○	○	○								○	○
シラネイ → クサイ												
シロアカザ → シロザ												
シロイトスゲ	○											
シロザ						○			○			
シロダモ	○	○	○	○							○	○
シロツメクサ										○		
シロノセンダングサ									○			
シロバナセンダングサ → シロノセンダングサ												
スイカズラ	○	○	○		○	○				○	○	○
スイバ					○	○	○	○	○	○	○	
スカシタゴボウ							○					
スギ	○											
スギナ	○				○	○	○	○	○	○	○	○
ススキ					○	○	○	○		○	○	○
ズメウリ											○	○
ズメノエンドウ						○						
ズメノカタビラ	○					○				○		
ズメノチャヒキ					○	○						
ズメノテッポウ	○										○	
ズメノヒエ										○		
ズメノヤリ	○							○		○		
スベリヒユ	○								○			
セイトカアワダチソウ							○	○		○	○	

和名	A林 (常緑針葉樹林)	B1林 (落葉広葉樹林)	B2林 (落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地 (湿地 上斜面)	D2 草地 (墓地 下斜面)	D3 草地 (原っぱ 用地)	D4 草地 (東側)	D5 草地 (林縁)	E 泉 周 辺 の 刈 り 取 り 草 地	F 湿 地	G 茶 畑
セイタカウコギ → アメリカセンダングサ												
セイヨウタンポポ	○					○	○	○				
セキショウ		○		○						○	○	○
セリ	○			○	○		○	○		○	○	○
センダン							○				○	
センニンソウ	○	○			○	○	○			○	○	○
ゼンマイ	○	○	○									
ダイコン									○			
タカサブロウ							○					
タケニグサ	○						○		○	○		
タコノアシ											○	
タチイヌノフグリ	○						○	○		○	○	
タチカモジグサ → アオカモジグサ												
タチシオデ	○	○	○									
タチツボスミレ	○	○				○		○		○	○	
タチヤナギ											○	
タニスゲ → カワラスゲ												
タネツケバナ										○	○	
タブノキ	○											
タラノキ	○											
ダントボロギク							○		○			
チガヤ										○	○	
チカラシバ										○		
チゴザサ											○	
チゴユリ	○											
チチコグサモドキ									○			
チヂミザサ → コチヂミザサ又はケチヂミザサ												
チドメグサ						○	○	○	○	○		
チャガヤツリ									○			
チャノキ	○	○	○		○	○			○		○	○
チャンパギク → タケニグサ												
ツクシ → スギナ												
ツタ	○	○	○	○			○			○		○
ツボスミレ								○		○	○	
ツボミオオバコ						○						
ツメクサ	○						○					
ツユクサ	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○
ツリガネニンジン						○		○		○		

和名	A林 (常緑針葉樹林)	B1林 (落葉広葉樹林)	B2林 (落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地 (湿地 上斜面)	D2 草地 (墓地 下斜面)	D3 草地 (原っぱ 用地)	D4 草地 (東側)	D5 草地 (林縁)	E 泉 周 辺 の 刈 り 取 り 草 地	F 湿 地	G 茶 畑
ツルウメモドキ	○	○				○		○		○		
ツルグミ	○											
ツルボ					○	○	○			○		
ツルマサキ	○	○										
ツルマメ											○	
テイカカズラ	○	○							○			○
テンガイユリ → オニユリ												
トウジュロ	○											
トウネズミモチ	○	○	○								○	○
トールフェスク → オニウシノケグサ												
トキワハゼ									○	○		
トキンソウ	○								○			
ドクダミ	○	○		○			○		○	○	○	○
トコロ → オニドコロ												
ドジョウツナギ										○	○	
トダシバ								○				
トボシガラ	○					○		○		○	○	○
トマト									○			
ナガイモ							○	○				
ナガバギンギシ	○											
ナガハグサ										○		
ナガバジャノヒゲ	○	○	○	○	○		○		○		○	○
ナガバハエドクソウ	○	○										
ナキリスゲ	○		○									
ナズナ							○					
ナツヅタ → ツタ												
ナルコビエ									○			
ナワシロイチゴ	○					○		○		○		
ナンテン	○	○	○									
ナンバンギセル								○				
ニガイチゴ	○					○		○		○	○	
ニガキ	○											
ニガナ								○		○		
ニシキソウ									○			
ニセアカシヤ → ハリエンジュ												
ニョイスミレ → ツボスミレ												
ニラ					○							
ニワゼキショウ						○	○			○		

和名	A林 (常緑針葉樹林)	B1林 (落葉広葉樹林)	B2林 (落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地 (湿地上斜面)	D2 草地 (墓地下斜面)	D3 草地 (原っぱ用地)	D4 草地 (東側)	D5 草地 (林縁)	E 泉 周 辺 の 刈 り 取 り 草 地	F 湿 地	G 茶 畑
ニワトコ	○				○						○	○
ニワホコリ	○											
ニンドウ → スイカズラ												
ヌカキビ											○	
ヌカボ							○		○			
ヌスピトハギ	○	○					○		○	○		
ヌマトラノオ								○			○	
ヌルデ	○								○			
ネコハギ								○		○		
ネジバナ								○				
ネズミガヤ										○		
ネズミノオ										○		
ネズミムギ					○	○					○	
ネズミモチ	○	○		○		○				○	○	
ネムノキ	○	○										
ノアザミ								○		○		
ノイバラ	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○
ノカンゾウ		○			○	○	○			○	○	
ノカンゾウ(品種)											○	
ノキシノブ		○										
ノゲシ					○	○		○	○	○	○	
ノコンギク								○			○	
ノダアカバナ											○	
ノダケ		○										
ノチドメ							○			○	○	○
ノハラアザミ										○	○	
ノハラズメノテッポウ									○			
ノビエ → イヌビエ												
ノビル	○						○	○	○	○	○	
ノブドウ							○	○	○	○	○	
ノボロギク	○											
ミノツヅリ							○					
ミノフスマ										○	○	
ハエドクソウ	○		○								○	
ハキダメギク	○						○		○			
ハコベ → コハコベ												
ハコベ → ミドリハコベ												
ハコベラ → ミドリハコベ												

和名	A林 (常緑針葉樹林)	B1林 (落葉広葉樹林)	B2林 (落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地 (湿地 上斜面)	D2 草地 (墓地 下斜面)	D3 草地 (原っぱ 用地)	D4 草地 (東側)	D5 草地 (林縁)	E 泉 周 辺 の 刈 り 取 り 草 地	F 湿 地	G 茶 畑
ハシカグサ										○	○	
ハジカミ → サンショウ												
ハナイバナ	○											
ハナダイコン	○											
ハナタデ									○			
ハハコグサ	○						○		○			
ハハソ → コナラ												
ハリエンジュ								○				
ハリガネワラビ	○											
ハルジオン	○	○				○	○	○		○	○	○
ハルシャギク	○											
ハルジョオン → ハルジオン												
ハルノノゲシ → ノゲシ												
ハンゲ → カラスビシャク												
ヒイラギ		○	○									
ヒカゲイノコズチ	○				○			○			○	○
ヒカゲスゲ			○			○						
ヒガンバナ									○	○	○	
ヒゴクサ							○	○				○
ヒサカキ	○		○									
ヒデリコ											○	
ヒナタイノコズチ						○	○		○	○	○	○
ビナンカズラ → サネカズラ												
ヒノキ	○	○										
ヒメアシボソ											○	
ヒメオドリコソウ	○				○		○	○		○	○	
ヒメガマ											○	
ヒメカンスゲ	○									○		
ヒメキンミズヒキ										○		
ヒメクグ										○	○	
ヒメコウゾ	○	○										
ヒメジソ											○	
ヒメジョオン	○					○	○	○	○	○		○
ヒメヒオウギズイセン	○											
ヒメムカシヨモギ								○	○	○		
ヒメヤブラン										○		
ヒメユズリハ	○											
ヒメヨツバムグラ								○		○		

和名	A林 (常緑針葉樹林)	B1林 (落葉広葉樹林)	B2林 (落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地 (湿地上斜面)	D2 草地 (墓地下斜面)	D3 草地 (原っぱ用地)	D4 草地 (東側)	D5 草地 (林縁)	E 泉 周辺 の 刈 り 取 り 草 地	F 湿 地	G 茶 畑
ヒラコウガイゼキショウ → コウガイゼキショウ												
ヒンジガヤツリ											○	
ビンボウカズラ → ヤブガラシ												
フィリアオキ	○	○	○								○	
フウロソウ → ゲンノショウコ												
フジ								○				
フシゲチガヤ								○				
ブタクサ					○							
ブタナ										○		
フタバムグラ												○
フタリシズカ	○											
フトイ											○	
フモトシケシダ	○									○		
フユヅタ → キヅタ												
フユノハナワラビ	○					○						
ヘクソカズラ → ヤイトバナ												
ベニシダ	○											
ヘビイチゴ	○					○	○	○	○	○	○	○
ヘビノネゴザ	○											
ヘラオオバコ								○				
ペレニアルライグラス → ホソムギ												
ペンペン草 → ナズナ												
ホウチャクソウ	○	○	○									
ホオコグサ → ハハコグサ												
ホオズキ	○											
ホソバアキノノゲシ								○				
ホソバシケシダ										○		
ホソムギ						○						
ポタンヅル	○											
ホトケノザ						○						
ホナガイヌビユ							○					
ボントクタデ											○	
マグワ	○	○			○	○	○	○		○	○	○
マスクサ	○						○					
マスクサスゲ → マスクサ												
マタデ → ヤナギタデ												
マテバシイ	○		○									
ママコノシリヌグイ								○				

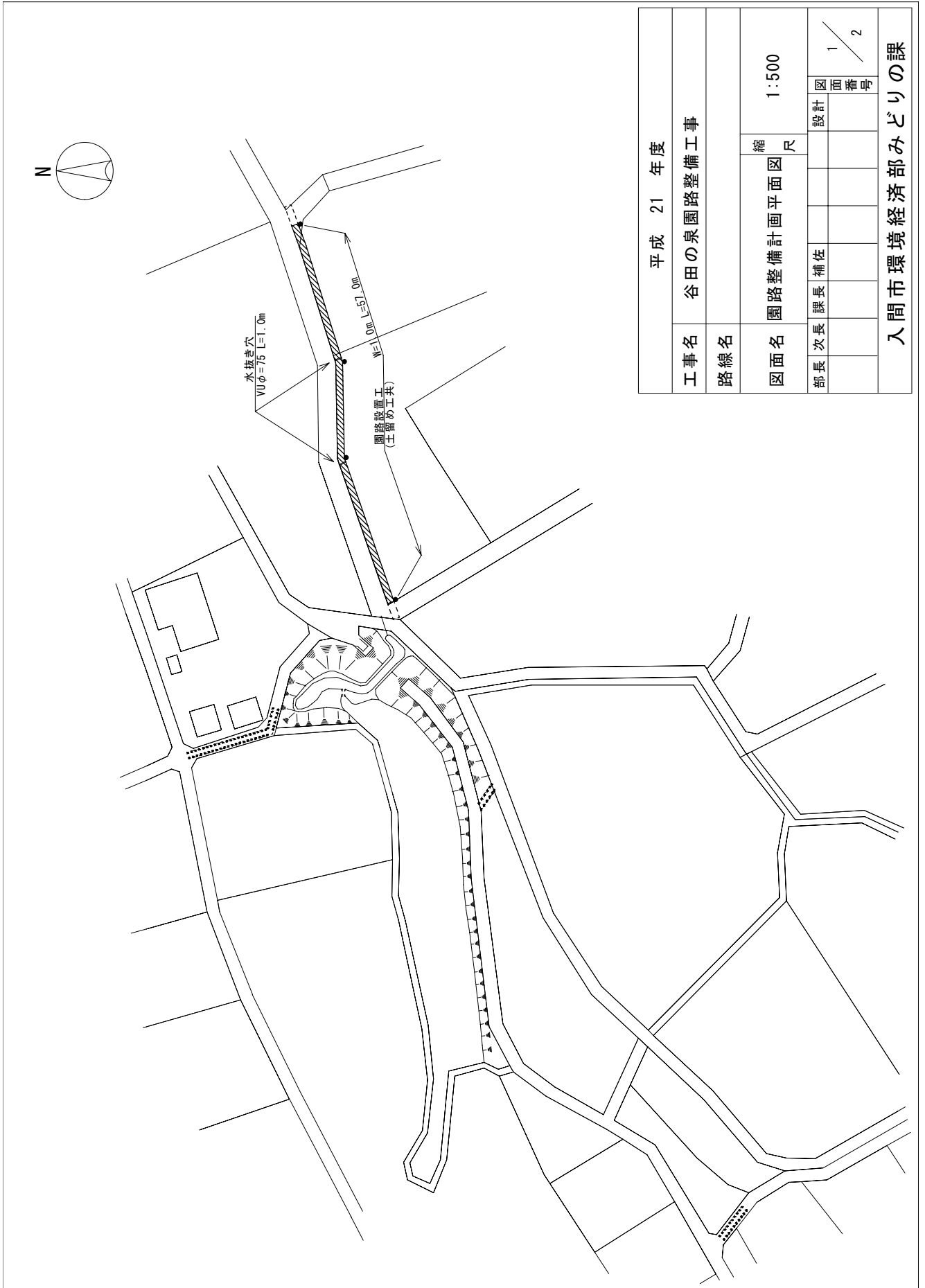
和名	A林 (常緑針葉樹林)	B1林 (落葉広葉樹林)	B2林 (落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地 (湿地 上斜面)	D2 草地 (墓地 下斜面)	D3 草地 (原っぱ 用地)	D4 草地 (東側)	D5 草地 (林縁)	E 泉 周 辺 の 刈 り 取 り 草 地	F 湿 地	G 茶 畑
マメゲンバイナズナ									○			
マユミ	○	○	○		○	○	○			○		
マルバアサガオ									○			
マルバウツギ	○											
マルバシヤリンバイ	○											
マンジュシャゲ → ヒガンバナ												
マンリョウ	○		○	○								○
ミクリスゲ → オニスゲ												
ミズキ	○	○	○						○	○		○
ミズタマソウ	○											
ミズヒキ	○	○	○				○		○	○		○
ミゾイチゴツナギ											○	
ミゾシダ	○	○									○	
ミゾソバ				○				○		○	○	
ミチタネツケバナ	○											
ミツバアケビ	○		○									
ミツバツチグリ										○		
ミドリハコベ							○				○	
ミドリヒメワラビ												○
ミノゴメ								○			○	
ミミナグサ								○		○		
ミヤマシラスゲ											○	
ミョウガ	○			○					○			
ムクノキ	○	○	○				○				○	○
ムシトリナデシコ	○											
ムベ	○											
ムラサキカタバミ										○		
ムラサキケマン	○							○				
ムラサキサギゴケ											○	
ムラサキシキブ	○		○									
ムラサキツメクサ										○		
メアオスゲ								○		○		
メドハギ								○				
メヒシバ							○		○	○		
メボタンヅル → コボタンヅル												
メマツヨイグサ								○				
メヤブマオ	○											
モジズリ → ネジバナ												

和名	A林 (常緑針葉樹林)	B1林 (落葉広葉樹林)	B2林 (落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地 (湿地 上斜面)	D2 草地 (墓地 下斜面)	D3 草地 (原っぱ 用地)	D4 草地 (東側)	D5 草地 (林縁)	E 泉 周 辺 の 刈 り 取 り 草 地	F 湿 地	G 茶 畑
モチノキ	○											
モッコク	○											
モミ	○											
モミジイチゴ	○											
ヤイトバナ	○	○		○		○	○	○		○	○	○
ヤエムグラ	○	○			○		○	○		○	○	
ヤツデ	○											
ヤナギタデ											○	
ヤノネグサ								○		○	○	
ヤハズエンドウ	○				○	○	○	○	○	○	○	○
ヤハズソウ								○				
ヤブガラシ	○	○				○		○	○			○
ヤブカンゾウ						○						
ヤブコウジ	○	○	○									
ヤブジラミ							○	○				○
ヤブタデ → ハナタデ												
ヤブタビラコ						○			○	○	○	
ヤブハギ	○											
ヤブヘビイチゴ						○		○	○	○	○	
ヤブマオ	○	○					○	○		○	○	
ヤブマメ	○				○		○		○		○	○
ヤブミヨウガ												○
ヤブラン	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
ヤマアゼスゲ											○	
ヤマイタチシダ	○										○	
ヤマウグイスカグラ			○									
ヤマウルシ	○		○									
ヤマテリハノイバラ → アズマイバラ												
ヤマノイモ	○	○	○				○				○	○
ヤマホタルブクロ								○				
ヤマミゾイチゴツナギ											○	
ヤマヤブソテツ	○											
ヤワラスゲ											○	
ユウガギク				○	○	○		○		○	○	
ユウゲショウ						○						
ユズリハ	○	○	○									
ヨウシュヤマゴボウ	○						○	○	○	○	○	○
ヨシ								○			○	

和名	A林 (常緑針葉樹林)	B1林 (落葉広葉樹林)	B2林 (落葉広葉樹林)	C ため池	D1 草地 (湿地 上斜面)	D2 草地 (墓地 下斜面)	D3 草地 (原っぱ 用地)	D4 草地 (東側)	D5 草地 (林縁)	E 泉 周 辺 の 刈 り 取 り 草 地	F 湿 地	G 茶 畑
ヨツバムグラ										○		
ヨモギ	○				○	○	○	○	○	○	○	
リュウノヒゲ → ジャノヒゲ												
リョウメンシダ	○											
レッドクローバー → ムラサキツメクサ												
レッドトップ → コヌカグサ												
ワジュロ → シュロ												
ワラビ	○					○						
ワレモコウ						○		○		○	○	

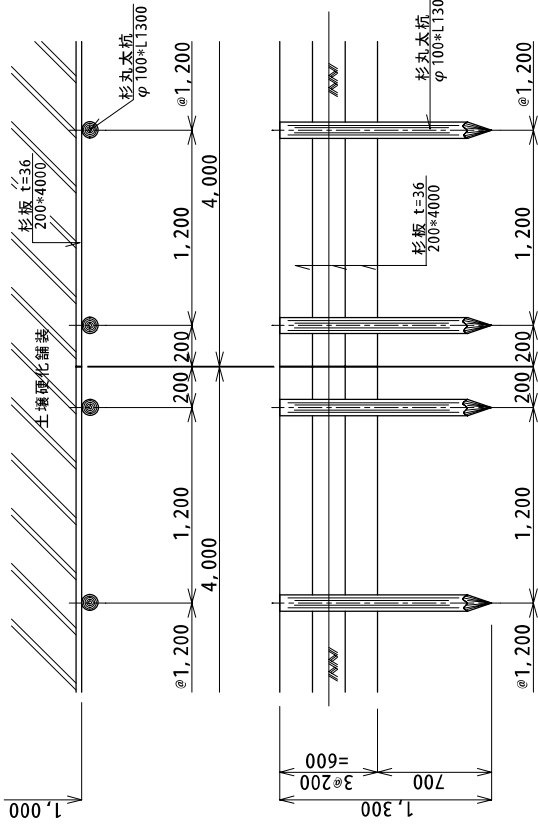
群落調查表(素表)

設 計 図



平成 21 年度			
谷田の泉園路整備工事			
路線名		縮尺	
園路整備計画平面図		1:500	
部長	次長	課長	補佐
設計			図面番号
			1 / 2
入間市環境経済部みどりの課			

平面図

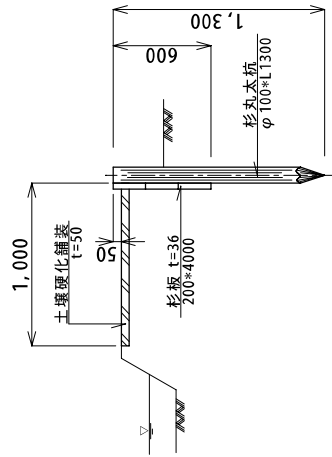


側面図

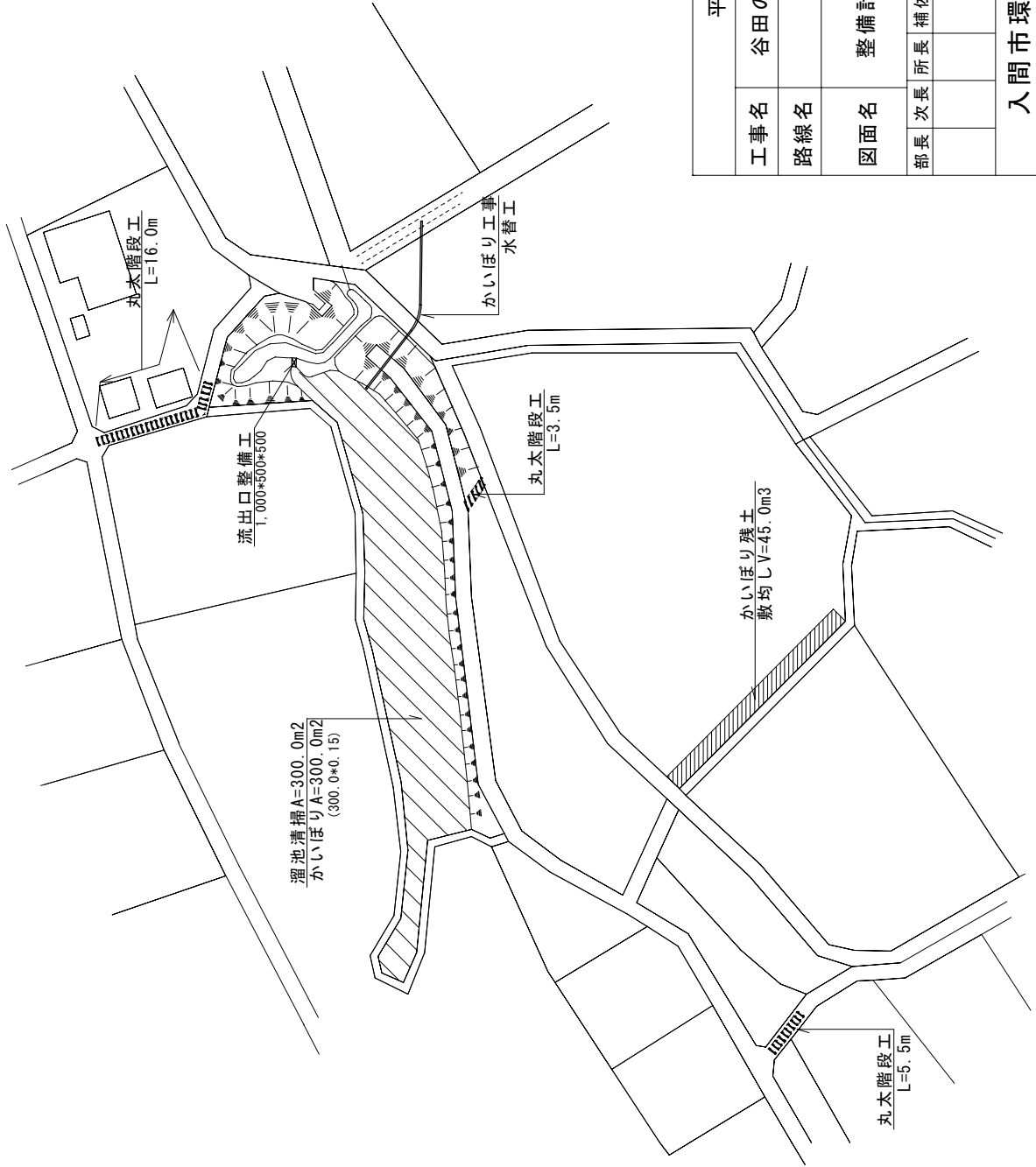
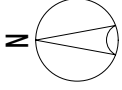
園路設置工
(土留め工共) S=1:30

特記事項

- ・丸木はローリング加工品とする。
- ・木材は全て防腐剤(タリス同等品)加圧注入を施す。



平成 21 年度		縮尺		図示	
工事名 谷田の泉園路整備工事		園路施設構造図		設計	
路線名		縮尺		図面番号	
図面名		縮尺		図示	
部長	次長	課長	補佐	設計	図面番号
					2 / 2
入間市環境経済部みどりの課					



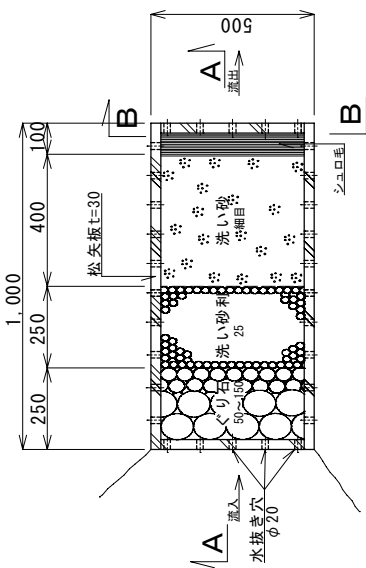
平成 21 年度		縮 尺		1 : 500	
工事名	谷田の泉溜池周辺整備工事				
路線名					
図面名	整備計画平面図				
部長	次長	所長	補佐	設計	図面番号
					1 / 2

入間市環境経済部みどりの課

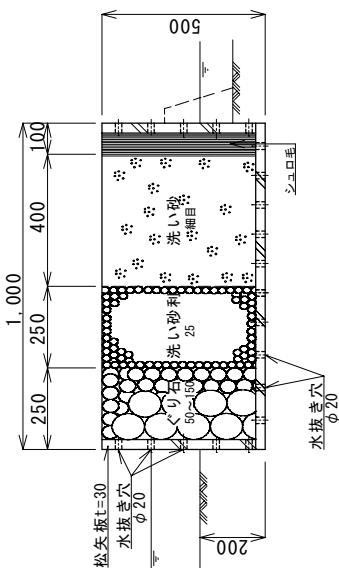
流出口整備工

S=1:15

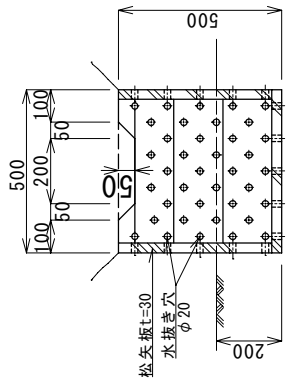
平面図



A-A断面図

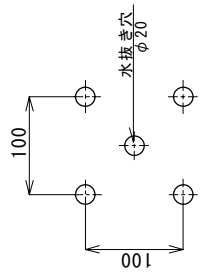


B-B断面図



水抜き穴詳細図

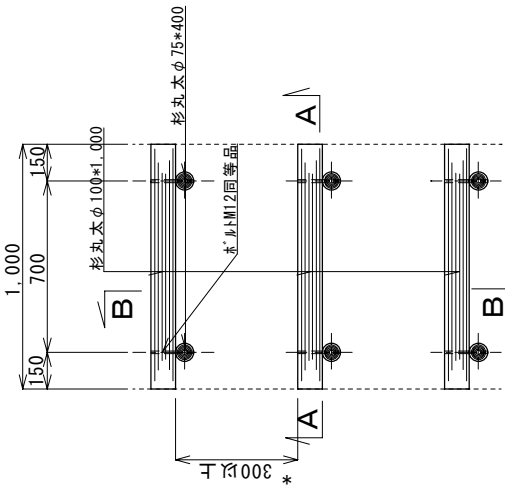
S=1:5



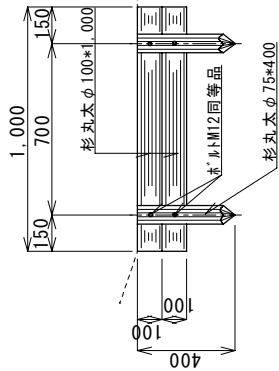
丸太階段工

S=1:20

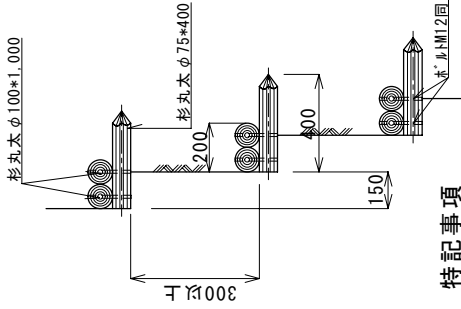
平面図



A-A断面図



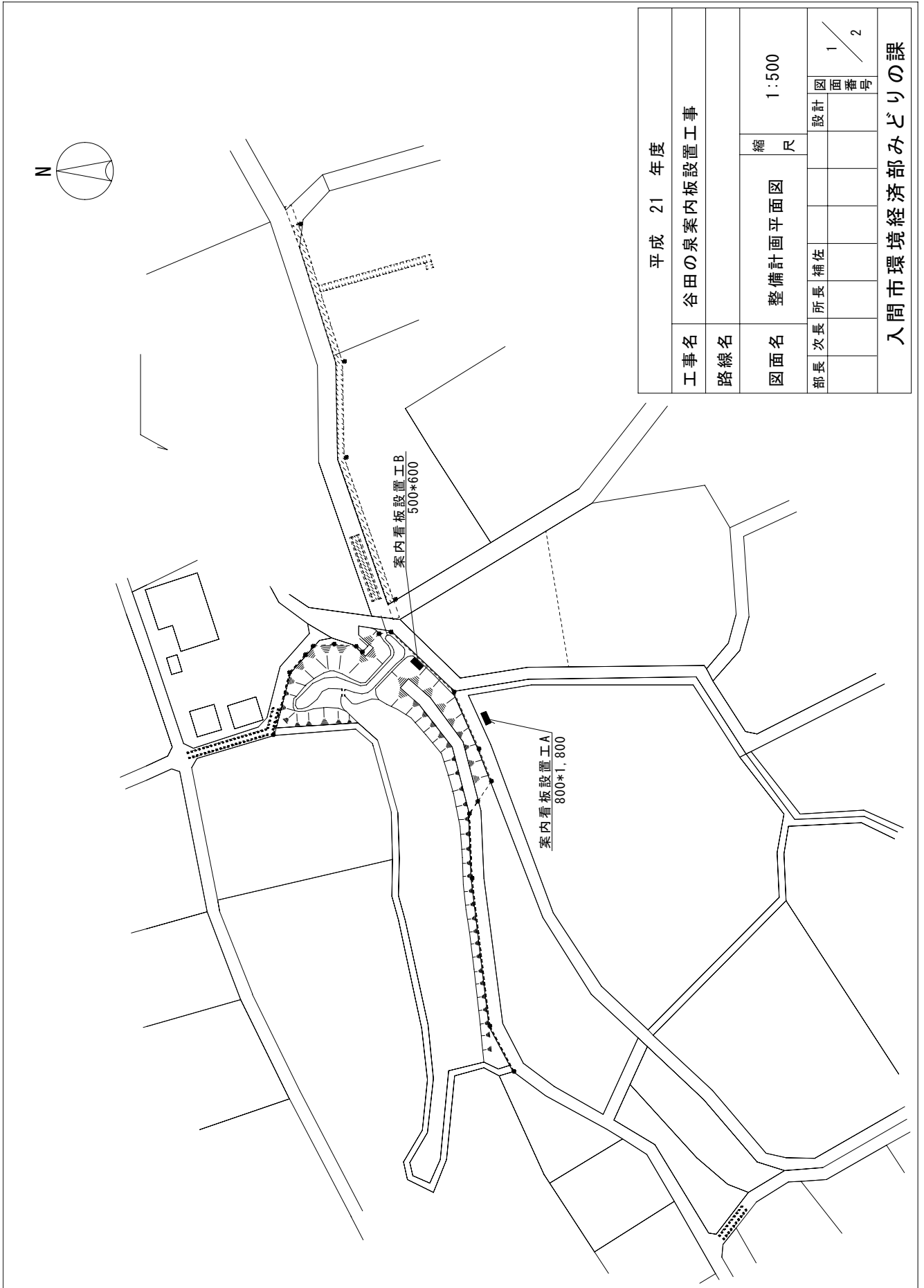
B-B断面図



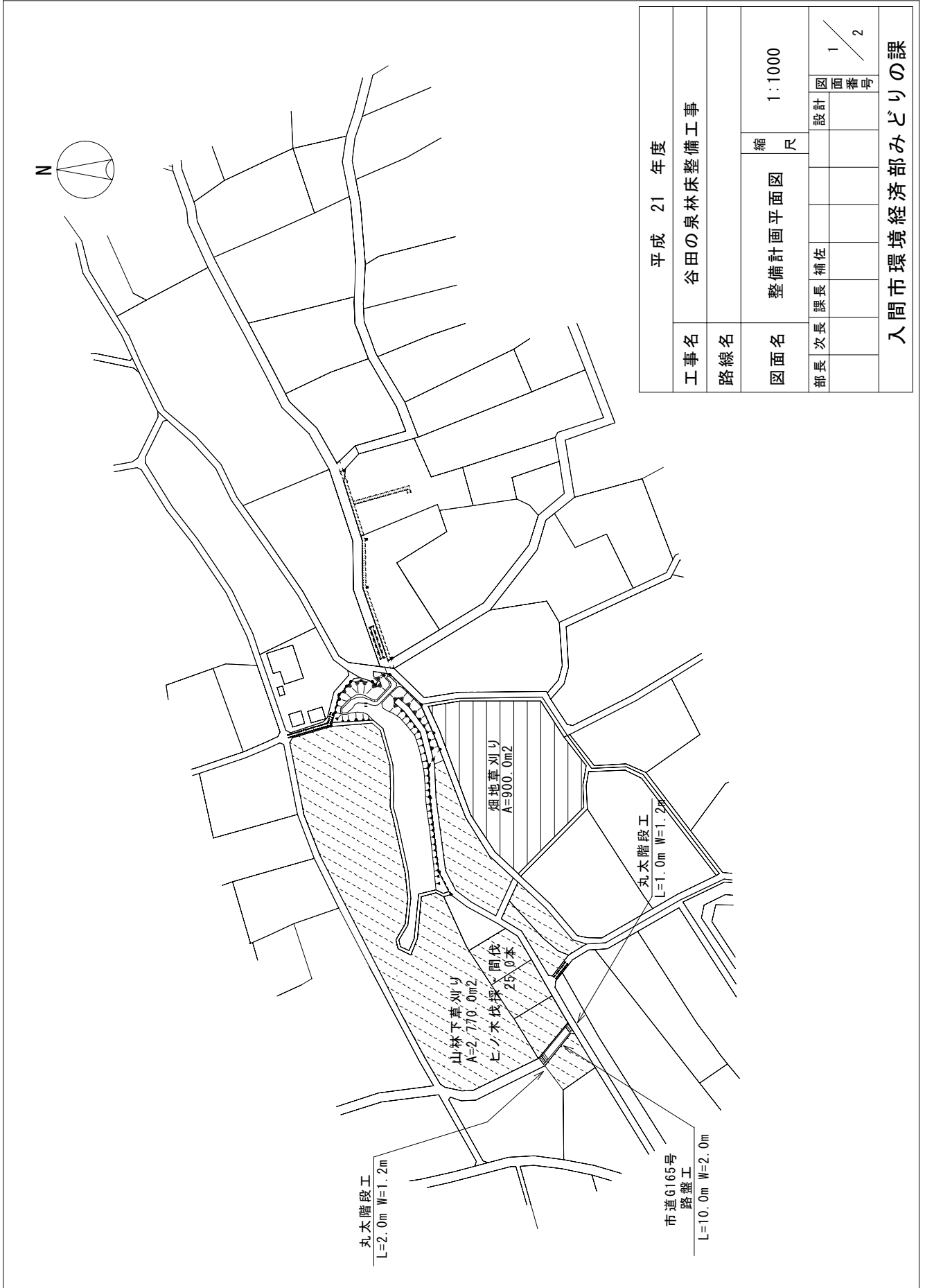
特記事項

- ・ 踏み面幅は現況状況によるが300以上確保すること。
- ・ 丸太はローリング加工品・角材はかなな仕上げとする。
- ・ 木材は全て防腐剤(カリアス同等品)加圧注入を施す。

平成 21 年度		縮尺		図示	
工事名	谷田の泉溜池周辺整備工事	付帯施設構造図		設計	2 / 2
路線名				図面	
図面名				番号	
部長		所長	補佐		
入間市環境経済部みどりの課					

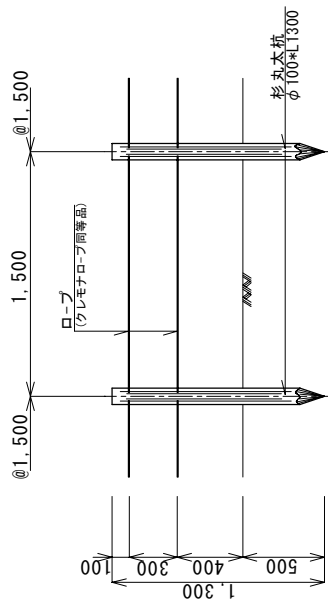


平成 21 年度					
工事名 谷田の泉案内板設置工事					
路線名					
図面名 整備計画平面図					
縮尺 1:500					
部長	次長	所長	補佐	設計	図面番号
				1	2
入間市環境経済部みどりの課					

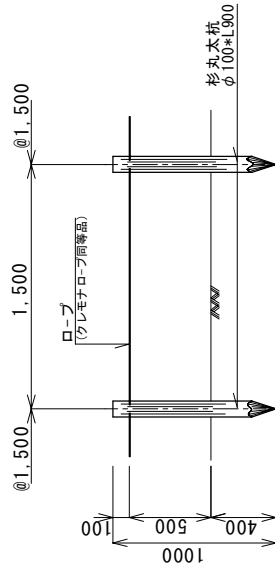


平成 21 年度		縮尺		1:1000	
工事名	谷田の泉林床整備工事				
路線名					
図面名	整備計画平面図				
部長	次長	課長	補佐	設計	図面番号
					1 / 2
入間市環境経済部みどりの課					

ロープ柵設置工 A (杭長L=1.3m)
H=0.8m S=1:30



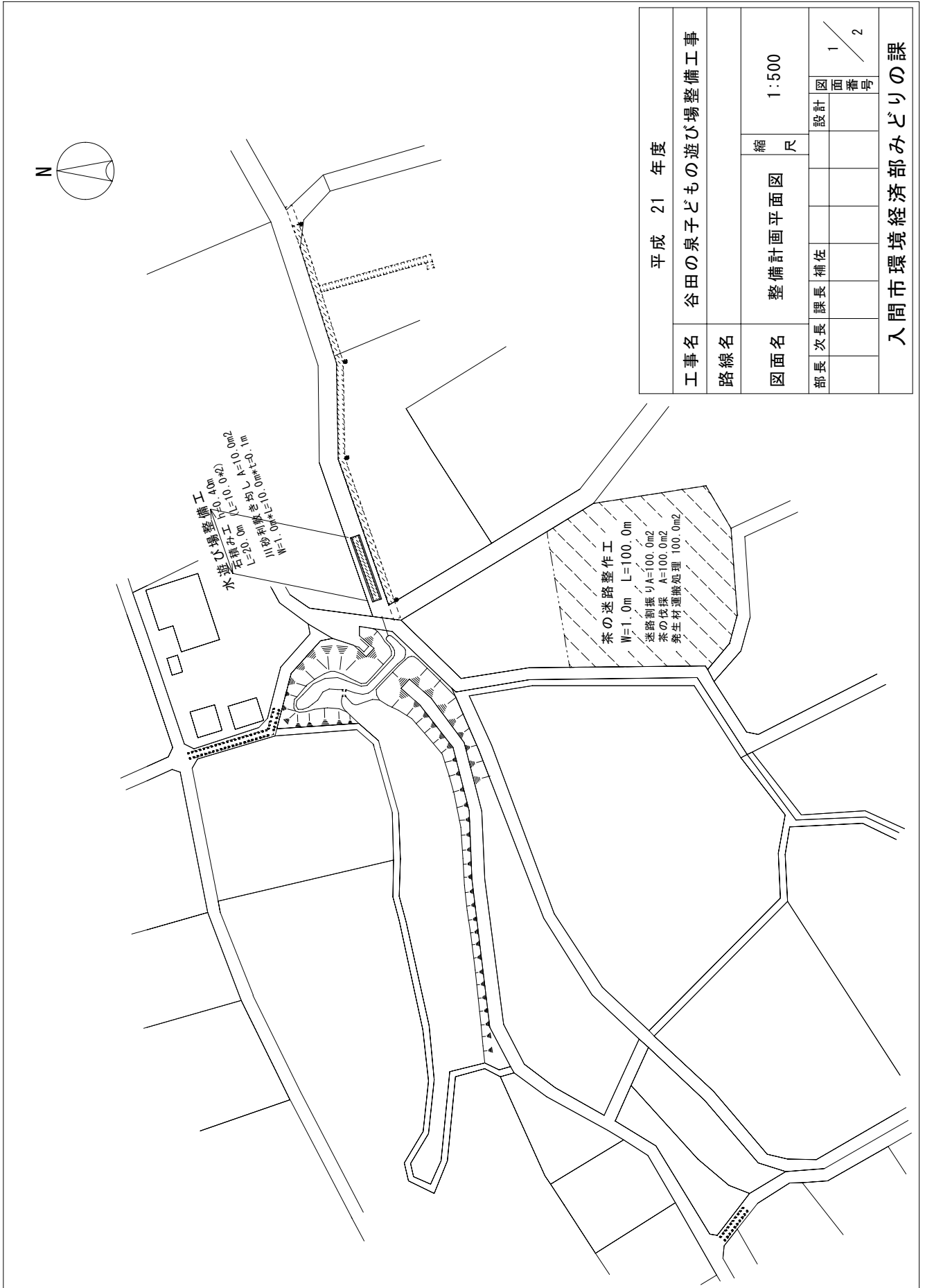
ロープ柵設置工 B (杭長L=1.0m)
H=0.6m S=1:30



特記事項

- ・丸木はローリング加工品とする。
- ・木材は全て防腐剤(クリス同等品)加圧注入を施す。

平成 21 年度					
工事名	谷田の泉休憩広場周辺整備工事				
路線名					
図面名	付帯施設構造図				
部長	次長	課長	補佐	縮尺	図示
					設計
					図面
					番号
					2 / 2
入間市環境経済部みどりの課					

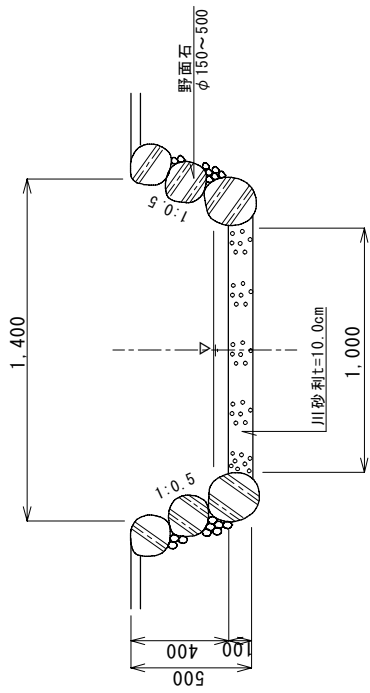


平成 21 年度			
工事名		谷田の泉子どもの遊び場整備工事	
路線名			
図面名		整備計画平面図	
縮尺		1:500	
部長	次長	課長	補佐
設計		図面番号	
		1 / 2	
入間市環境経済部みどりの課			

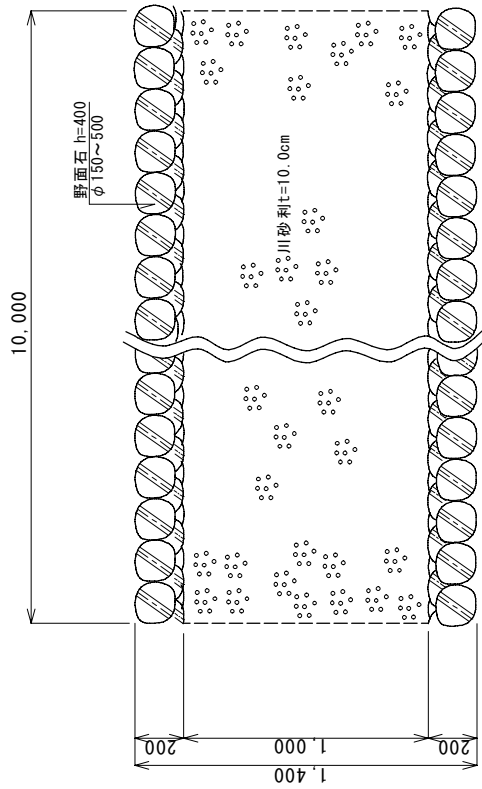
水遊び場整備工

S=1:20

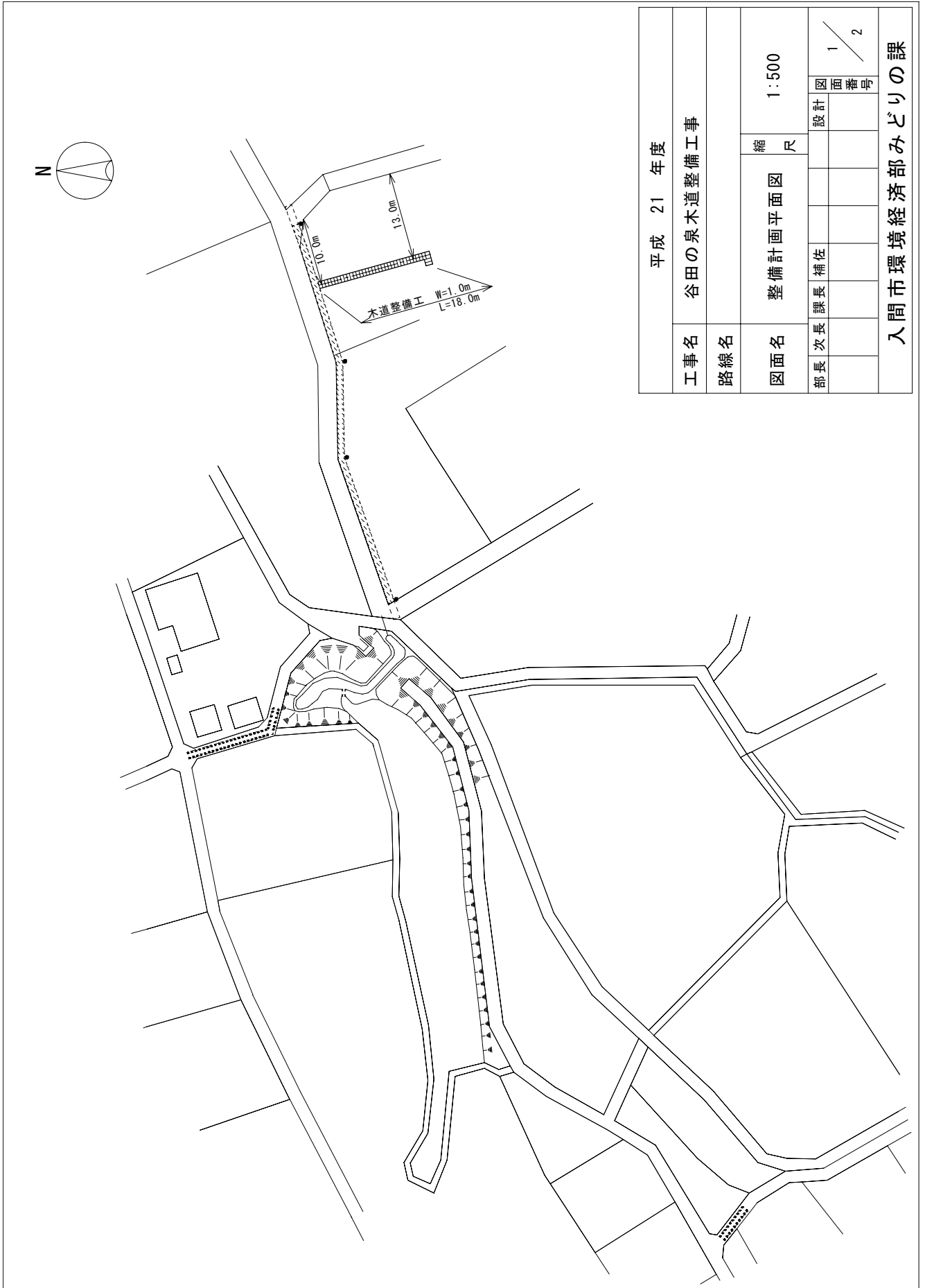
断面図



平面図



平成 21 年度		縮尺		図示	
工事名	谷田の泉子どもの遊び場整備工事				
路線名					
図面名	付帯施設構造図				
部長	次長	課長	補佐	設計	図面番号
					2 / 2
入間市環境経済部みどりの課					

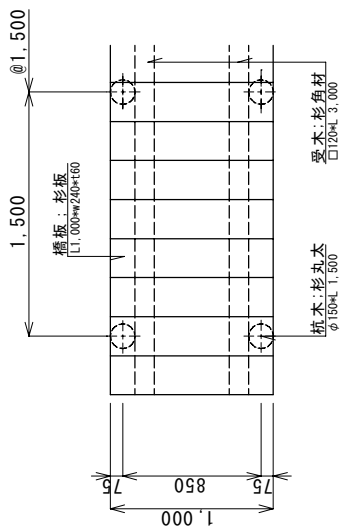


平成 21 年度			
工事名	谷田の泉木道整備工事		
路線名			
図面名	整備計画平面図	縮尺	1:500
部長	次長	課長	補佐
			設計
			図面番号
			1 / 2
入間市環境経済部みどりの課			

木道整備工

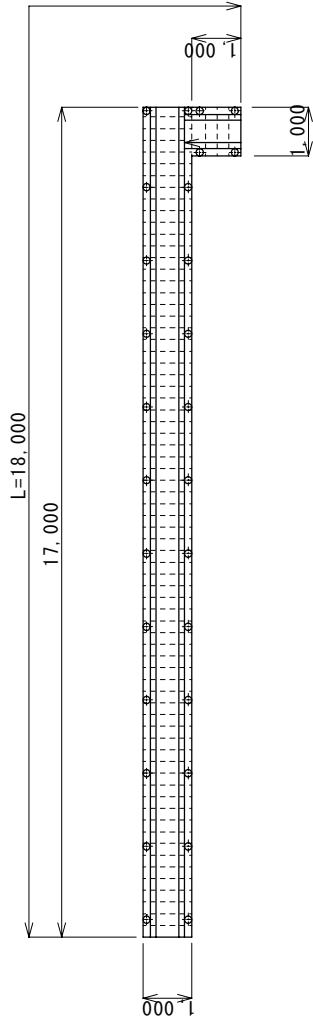
S=1:30

平面図

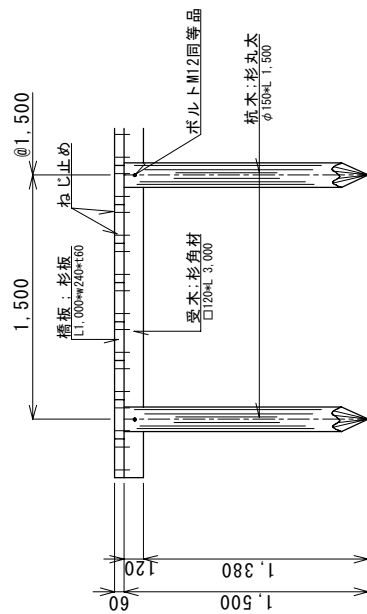


一般図

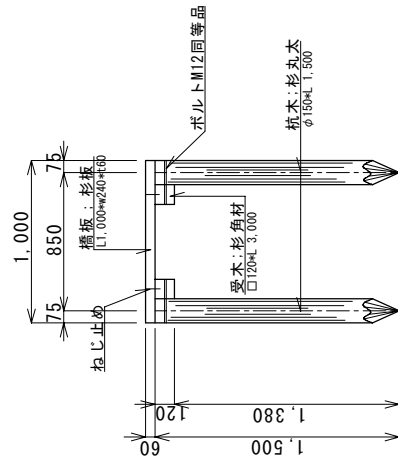
S=1:100



側面図



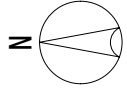
断面図



特記事項

- ・丸太はローリング加工品とし、角材はかなんな仕上げとする。
- ・木材は全て防腐剤(クリス同等品)加圧注入を施す。

平成 21 年度		縮尺		図示	
工事名	谷田の泉木道整備工事				
路線名					
図面名	付帯施設構造図				
部長	課長	補佐	設計	図面番号	2 / 2
入間市環境経済部みどりの課					



平成 21 年度		縮尺		1:1000	
工事名	谷田の泉周辺下草刈り業務委託				
路線名					
図面名	平面図				
部長	次長	課長	補佐	設計	図面番号
入間市環境経済部みどりの課					

谷田の泉周辺の保安全管理のための報告書

発 行 埼玉県・入間市
企画・編集 入間市環境経済部みどりの課
埼玉県入間市豊岡一丁目16番1号
TEL 04-2964-1111(代表)
制 作 株式会社 アイコンサルタント
発 行 平成22年3月

